



管理者ガイド

HP ThinPro 6.2

© Copyright 2017 HP Development Company, L.P.

Citrix および XenDesktop は、Citrix Systems, Inc. またはその子会社の商標であり、米国特許商標庁およびその他の国において登録されている可能性があります。Linux® は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista、および Windows Server は、米国 Microsoft Corporation およびその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。UNIX は The Open Group の商標または登録商標です。VMware および Horizon View は米国またはその他の地域における VMware, Inc. の商標または登録商標です。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェア資料、および商業用製品の技術データは、ベンダー標準の商業用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP 製品およびサービスに関する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

初版：2017年8月

製品番号：940268-291

オープンソースソフトウェア

この製品には、GNU 一般公衆利用許諾契約書および GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書またはその他のオープンソースライセンスなど、オープンソースソフトウェアライセンスの下で使用許諾が付与されているソフトウェアが含まれています。HP が義務を有する範囲において、または HP の自由裁量により、適用されるオープンソースソフトウェアライセンスの下で、この製品用の該当するソフトウェアのソースコードを利用可能にするように選択します。当該ソフトウェアのソースコードは、<ftp://ftp.hp.com/pub/tcdebian/pool/thinpro620/> から入手することもできます。

重要：この製品にプリインストールされているオープンソースソフトウェアについて、HP はその開発や改修をサポートするものではありません。

管理者が入力する構文の例

ユーザー インターフェイスに入力する必要があるテキストは固定幅フォントで示されます。

| 項目 | 説明 |
|---------------|--------------------------------------|
| 括弧や波括弧のないテキスト | 示されているとおりに入力する必要がある項目 |
| <山括弧内のテキスト> | 値を入力する必要があるプレースホルダー。括弧は付けないでください |
| [角括弧内のテキスト] | オプションの項目。括弧は付けないでください |
| {波括弧内のテキスト} | 1つだけを選択する必要がある項目のセット。波括弧は入力しないでください |
| | 1つだけを選択する必要がある項目の区切り文字。縦線は入力しないでください |
| ... | 繰り返しが可能または必要な項目。省略記号は入力しないでください |

目次

| | |
|-------------------------------|----------|
| 1 お使いになる前に | 1 |
| ガイド以外の情報の参照先 | 1 |
| OS 構成の選択 | 1 |
| リモート管理サービスの選択 | 3 |
| Thin Client の最初の起動 | 3 |
| 管理者モードおよびユーザー モードの切り替え | 3 |
| 2 GUI の概要 | 4 |
| デスクトップ | 4 |
| タスクバー | 5 |
| 接続マネージャー（HP ThinPro のみ） | 6 |
| 3 接続の設定 | 7 |
| 接続の詳細設定 | 7 |
| キオスク モード | 8 |
| 4 接続インターフェイス | 9 |
| Citrix | 9 |
| Citrix の全般設定 | 10 |
| オプション | 10 |
| ローカル リソース | 10 |
| ウィンドウ | 11 |
| ファイアウォール | 11 |
| キーボードショートカット | 11 |
| セッション | 12 |
| Citrix の接続ごとの設定 | 13 |
| 接続 | 13 |
| 構成 | 14 |
| 詳細設定 | 14 |
| RDP | 14 |
| RDP の全般設定 | 15 |
| RDP の接続ごとの設定 | 15 |
| ネットワーク | 15 |
| サービス | 16 |

| | |
|---|----|
| ウィンドウ | 17 |
| オプション | 17 |
| ローカルリソース | 18 |
| 効果 | 19 |
| 診断 | 20 |
| 詳細設定 | 20 |
| RemoteFX | 20 |
| RDP でのマルチモニターセッション | 20 |
| RDP でのマルチメディアリダイレクト | 21 |
| RDP でのデバイスリダイレクト | 21 |
| RDP での USB リダイレクト | 21 |
| RDP での大容量記憶装置のリダイレクト | 22 |
| RDP でのプリンターリダイレクト | 23 |
| RDP でのオーディオリダイレクト | 23 |
| RDP でのスマートカードのリダイレクト | 24 |
| VMware Horizon View | 24 |
| VMware Horizon View の接続ごとの設定 | 24 |
| ネットワーク | 24 |
| 全般 | 25 |
| セキュリティ | 25 |
| RDP オプション | 26 |
| RDP の操作環境 | 27 |
| 詳細設定 | 28 |
| VMware Horizon View でのマルチモニターセッション | 28 |
| VMware Horizon View のキーボードショートカット | 28 |
| VMware Horizon View でのマルチメディアリダイレクト | 29 |
| VMware Horizon View でのデバイスリダイレクト | 29 |
| VMware Horizon View での USB リダイレクト | 29 |
| VMware Horizon View での大容量記憶装置のリダイレクト | 29 |
| VMware Horizon View でのプリンターリダイレクト | 29 |
| VMware Horizon View でのオーディオリダイレクト | 29 |
| VMware Horizon View でのスマートカードのリダイレクト | 30 |
| VMware Horizon View での Web カメラリダイレクト | 31 |
| VMware Horizon View プロトコルの変更 | 31 |
| VMware Horizon View の HTTPS および証明書管理の要件 | 31 |
| Web Browser | 33 |
| Web Browser の全般設定 | 33 |
| Web Browser の接続ごとの設定 | 33 |
| 構成 | 33 |

| | |
|---|-----------|
| 詳細設定 | 33 |
| その他の接続インターフェイス (HP ThinPro のみ) | 34 |
| TeemTalk | 34 |
| 構成 | 34 |
| TeemTalk セッション ウィザード | 34 |
| 詳細設定 | 35 |
| XDMCP | 36 |
| 構成 | 36 |
| 詳細設定 | 36 |
| SSH | 36 |
| 構成 | 36 |
| 詳細設定 | 37 |
| Telnet | 37 |
| 構成 | 37 |
| 詳細設定 | 37 |
| Custom | 38 |
| 構成 | 38 |
| 詳細設定 | 38 |
| 5 HP True Graphics | 39 |
| サーバー側の要件 | 39 |
| クライアント側の要件 | 39 |
| クライアント側の構成 | 39 |
| 圧縮設定 | 40 |
| ウィンドウ設定 | 40 |
| モニター レイアウトおよびハードウェアの制限 | 40 |
| HP t420 の複数モニターでの HP True Graphics の有効化 | 40 |
| ヒントおよびベスト プラクティス | 41 |
| 6 Active Directory 統合 | 42 |
| ログイン画面 | 42 |
| シングルサインオン | 42 |
| デスクトップ | 43 |
| 画面のロック | 43 |
| 管理者モード | 43 |
| 設定およびドメイン ユーザー | 43 |
| 7 コントロールパネル | 44 |
| 周辺機器 | 44 |

| | |
|---|-----------|
| クライアントアグリゲーション | 45 |
| クライアントアグリゲーションの設定 | 46 |
| アグリゲーションクライアントの設定 | 46 |
| アグリゲーションサーバーの設定 | 47 |
| ディスプレイの設定 | 47 |
| プリンターの設定 | 48 |
| USB デバイスのリダイレクト | 49 |
| 設定 | 49 |
| ネットワークの設定 | 50 |
| 有線ネットワーク設定 | 50 |
| 無線ネットワーク設定 | 51 |
| DNS 設定 | 53 |
| IPSec ルール | 53 |
| VPN 設定の構成 | 54 |
| HP Velocity の設定 | 54 |
| セキュリティ設定 | 54 |
| ローカルアカウント | 54 |
| 暗号化 | 55 |
| オプション | 55 |
| ThinPro の構成 (カスタマイズセンター) | 56 |
| 管理 | 57 |
| コンポーネントマネージャー | 57 |
| コンポーネントの削除 | 57 |
| 変更の取り消し | 58 |
| 変更の完全な適用 | 58 |
| Active Directory の構成 | 58 |
| [状態]タブ | 58 |
| [オプション]タブ | 59 |
| HP ThinState | 60 |
| HP ThinPro イメージの管理 | 60 |
| FTP サーバーへの HP ThinPro イメージのキャプチャ | 60 |
| FTP または HTTP を使用した HP ThinPro イメージの展開 | 60 |
| USB フラッシュドライブへの HP ThinPro イメージのキャプチャ | 61 |
| USB フラッシュドライブを使用した HP ThinPro イメージの展開 | 61 |
| クライアントプロファイルの管理 | 61 |
| FTP サーバーへのクライアントプロファイルの保存 | 62 |
| FTP または HTTP を使用したクライアントプロファイルの復元 | 62 |
| USB フラッシュドライブへのクライアントプロファイルの保存 | 62 |

| | |
|---|-----------|
| USB フラッシュ ドライブからのクライアント プロファイルの復元 | 63 |
| VNC シャドウイング | 63 |
| 詳細設定 | 64 |
| 証明書 | 64 |
| 証明書マネージャー | 64 |
| SCEP マネージャー | 65 |
| DHCP オプション | 65 |
| 8 システム情報 | 67 |
| 9 HP Smart Client Services | 68 |
| サポートされているオペレーティング システム | 68 |
| HP Smart Client Services の前提条件 | 68 |
| HP Smart Client Services の取得 | 68 |
| [自動更新]の Web サイトの表示 | 69 |
| [自動更新]のプロファイルの作成 | 69 |
| 特定の MAC アドレス用のプロファイル | 69 |
| Thin Client の更新 | 70 |
| ブロードキャスト更新方式の使用 | 70 |
| DHCP タグ更新方式の使用 | 70 |
| DHCP タグ設定の実行例 | 70 |
| DNS エイリアス更新方式の使用 | 71 |
| 手動更新方式の使用 | 71 |
| 手動更新の実行 | 72 |
| 10 Profile Editor | 73 |
| [Profile Editor]の起動 | 73 |
| クライアント プロファイルの読み込み | 73 |
| クライアント プロファイルのカスタマイズ | 73 |
| クライアント プロファイルのプラットフォームの選択 | 73 |
| クライアント プロファイルの初期設定の接続の設定 | 74 |
| クライアント プロファイルのレジストリ設定の変更 | 74 |
| クライアント プロファイルへのファイルの追加 | 74 |
| クライアント プロファイルへの構成ファイルの追加 | 74 |
| クライアント プロファイルへの証明書の追加 | 75 |
| クライアント プロファイルへのシンボリック リnkの追加 | 75 |
| クライアント プロファイルの保存 | 76 |
| シリアル プリンターまたはパラレル プリンターの設定 | 76 |

| | |
|--------------------------|----|
| プリンターの設定の取得 | 76 |
| プリンター ポートの設定 | 76 |
| サーバーへのプリンターのインストール | 77 |

11 トラブルシューティング 78

| | |
|--|----|
| ネットワーク接続のトラブルシューティング | 78 |
| Citrix のパスワードの有効期限の問題に関するトラブルシューティング | 79 |
| トラブルシューティングのためのシステム診断の使用 | 79 |
| システム診断データの保存 | 79 |
| システム診断ファイルの解凍 | 79 |
| Windows ベースのシステムでのシステム診断ファイルの解凍 | 79 |
| Linux または UNIX ベースのシステムでのシステム診断ファイルの解凍 | 80 |
| システム診断ファイルの表示 | 80 |
| [Commands]フォルダーのファイルの表示 | 80 |
| [/var/log]フォルダーのファイルの表示 | 80 |
| [/etc]フォルダーのファイルの表示 | 80 |

付録 A USB のアップデート 81

| | |
|---------------------|----|
| HP ThinUpdate | 81 |
|---------------------|----|

付録 B BIOS ツール (デスクトップ Thin Client のみ) 82

| | |
|---------------------|----|
| BIOS 設定ツール | 82 |
| BIOS フラッシュツール | 82 |

付録 C フラッシュ ドライブパーティションのサイズ変更 83

付録 D レジストリ キー 84

| | |
|-------------------------|-----|
| Audio | 84 |
| CertMgr | 85 |
| ComponentMgr | 85 |
| ConnectionManager | 85 |
| ConnectionType | 86 |
| Custom | 86 |
| firefox | 89 |
| freerdp | 95 |
| ssh | 106 |
| teemtalk | 112 |
| telnet | 115 |
| view | 119 |

| | |
|----------------------|-----|
| xdmcp | 128 |
| xen | 133 |
| DHCP | 147 |
| Dashboard | 147 |
| Display | 149 |
| Domain | 151 |
| Network | 152 |
| Power | 164 |
| SCIM | 165 |
| ScepMgr | 165 |
| Search | 166 |
| Serial | 167 |
| SystemInfo | 168 |
| TaskMgr | 168 |
| USB | 168 |
| auto-update | 169 |
| background | 172 |
| config-wizard | 173 |
| desktop | 173 |
| entries | 174 |
| keyboard | 174 |
| logging | 175 |
| login | 175 |
| mouse | 176 |
| restore-points | 177 |
| screensaver | 177 |
| security | 178 |
| shutdown | 179 |
| sshd | 179 |
| time | 180 |
| touchscreen | 181 |
| translation | 182 |
| usb-update | 183 |
| users | 183 |
| vncserver | 186 |

| | |
|-----------------|------------|
| 索引 | 190 |
|-----------------|------------|

1 お使いになる前に

このガイドは、HP ThinPro オペレーティングシステムをベースとする HP Thin Client の管理者用です。システム構成を変更するときまたはこのガイドに記載されている管理ツールを使用するときには管理者としてシステムにログインすることを前提としています。

 **注記** : HP ThinPro では、HP ThinPro および HP Smart Zero のどちらかの OS 構成を選択できます。HP ThinPro ベースの Thin Client では、購入時にどちらかの OS 構成を初期設定として選択し、後で[コントロールパネル]で切り替えることができます。

各 OS 構成について詳しくは、[1 ページの OS 構成の選択](#)を参照してください。OS 構成の切り替えについて詳しくは、[56 ページの ThinPro の構成（カスタマイズセンター）](#)を参照してください。

ガイド以外の情報の参照先

 **注記** : この表に示す Web サイトの情報は英語版のみである可能性があります。

| リソース | 内容 |
|---|--|
| HP のサポート Web サイト http://www.hp.com/jp/support/ | 管理者ガイド、ハードウェアリファレンスガイド、ホワイトペーパー、およびその他のドキュメント ▲ Thin Client モデルを検索し、そのモデル用のサポートページの【ユーザーガイド】セクションを参照してください 注記 : [HP Device Manager]および[HP Remote Graphics ソフトウェア]にはそれぞれ専用のサポートページがあるため、代わりにアプリの名前を検索し、【ユーザーガイド】セクションを参照してください |
| Microsoft®のサポート Web サイト http://support.microsoft.com/ | Microsoft ソフトウェアのドキュメント |
| Citrix のサポート Web サイト http://www.citrix.co.jp/support/index.html | Citrix ソフトウェアのドキュメント |
| VMware のサポート Web サイト http://www.vmware.com/jp/support/ | VMware ソフトウェアのドキュメント |

OS 構成の選択

HP ThinPro には 2 つの OS 構成があり、Thin Client の導入シナリオに合った OS 構成を選択できます。

- **HP ThinPro OS 構成**は、すべての機能を利用できるオペレーティングシステム構成です。高度な管理やエンドユーザーによるカスタマイズを必要とする多目的な環境に最適です。この OS 構成には、以下のような特長があります。

- HP ThinPro のデスクトップまたは Active Directory のログイン画面を表示可能
- HP Smart Zero より多い接続インターフェイス
- (サポートされているすべての種類の) 接続を複数設定し、同時に実行可能
- **HP Smart Zero OS 構成**は、シンプルで安全性の高いオペレーティングシステム構成です。最小限の管理機能があればよく、エンドユーザーによるカスタマイズをほとんどまたはまったく必要としない、単一目的のキオスクスタイル環境に最適です。この OS 構成には、以下のような特長があります。
 - 仮想セッションを直接起動してデスクトップを非表示にする機能 (キオスク モード)
 - HP ThinPro より少ない接続インターフェイス
 - 設定および実行できる接続は一度に 1 つのみ
 - Active Directory 認証またはシングルサインオンをサポートしない

 **注記** : OS 構成は[コントロールパネル]で切り替えることができます ([56 ページの ThinPro の構成 \(カスタマイズセンター\)](#) を参照してください)。

各 OS 構成の初期設定の一部をカスタマイズすることもできます。たとえば、利用できる接続インターフェイスを変更したり、HP ThinPro でキオスク モードを有効にしたり、HP Smart Zero でデスクトップを表示したりすることが可能です。

キオスク モードについて詳しくは、[8 ページのキオスク モード](#)を参照してください。

以下の表では、各 OS 構成で利用できる初期設定の接続インターフェイスを示しています。

| OS 構成 | 初期設定で利用可能な接続インターフェイス |
|---------------|--|
| HP ThinPro | <ul style="list-style-type: none"> ● Citrix® ● RDP ● VMware® Horizon® View™ ● Web Browser (Firefox) ● HP TeemTalk ● XDMCP ● SSH ● Telnet ● Custom |
| HP Smart Zero | <ul style="list-style-type: none"> ● Citrix ● RDP ● VMware Horizon View ● Web Browser (Firefox) |

リモート管理サービスの選択

OS 構成に関係なく、HP ThinPro ベースの Thin Client の管理には、次の 2 種類のリモート管理サービスを使用できます。

- **HP Device Manager (HPDM)** は、HP ThinPro ベースの Thin Client や Windows®ベースの Thin Client など、さまざまなオペレーティングシステムが混在する大規模な環境に最適です。HPDM には、HP Smart Client Services より多くの種類の管理オプションが用意されています。HPDM について詳しくは、HP の Web サイト、<http://www.hp.com/go/hpdm/>（英語サイト）を参照してください。この HP の Web サイトからは、HPDM をダウンロードすることもできます。
- **HP Smart Client Services** は、HP ThinPro ベースの Thin Client のみを管理でき、HP Smart Zero とともに使用して「管理作業を省力化」できるように最適化されています。詳しくは、[68 ページの「HP Smart Client Services」](#)を参照してください。HP Smart Client Services をダウンロードするには、HP のサポート Web サイト、[1 ページのガイド以外の情報の参照先](#)を参照してください。

両方のサービスを評価し、導入環境に最適なサービスを選択することをおすすめします。

Thin Client の最初の起動

HP ThinPro ベースの新しい Thin Client を初めて起動すると、セットアッププログラムが自動的に実行されます。セットアッププログラムが完了すると、設定されている接続がない場合は、接続を設定するためのウィザードが開きます。

☞ **ヒント**：1 つの Thin Client の構成を変更してからコピーし、その構成を他の Thin Client に展開する場合は、最初に[コントロールパネル]を使って構成を変更します。詳しくは、[4 ページの「GUI の概要」](#)または[44 ページの「コントロールパネル」](#)を参照してください。構成を変更した後、HPDM または HP ThinState を使用してその構成を展開します。HP ThinState について詳しくは、[60 ページの HP ThinState](#) を参照してください。

管理者モードおよびユーザーモードの切り替え

- ▲ デスクトップを右クリックし、メニューから[管理者/ユーザーモードの切り替え]を選択します。デスクトップについては、[4 ページのデスクトップ](#)を参照してください。
または
[コントロールパネル]で[管理者/ユーザーモード切り替え]を選択します。
[コントロールパネル]については、[5 ページのタスクバー](#)および[44 ページの「コントロールパネル」](#)を参照してください。

📖 **注記**：管理者モードに初めて切り替えるときに、管理者パスワードを設定するよう求めるメッセージが表示されます。管理者パスワードは、その後毎回管理者モードに切り替えるたびに入力する必要があります。Active Directory 認証が有効になっている場合は、ドメイン管理者グループのユーザーのドメイン資格情報を入力して管理者モードに切り替えることもできます。

管理者モードのときは、画面が赤色の枠線で囲われます。

2 GUI の概要

デスクトップ

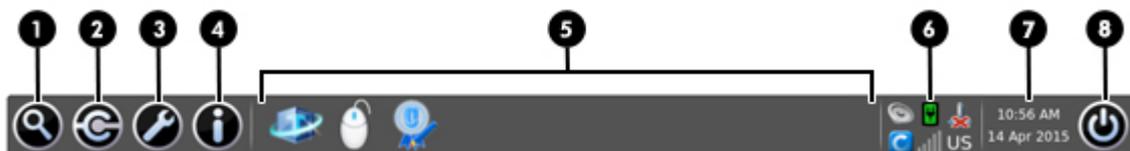
 **注記:** 以下の図では HP ThinPro のデスクトップを示しています (ロケール設定は米国)。HP Smart Zero の場合、タスクバーは初期設定で画面の右側に縦向きに表示され、デスクトップのテーマは接続インターフェイスによって異なります。一部のタスクバー情報の表示形式は、ロケール設定によって異なります。



| 項目 | 説明 |
|----------------|--|
| (1) デスクトップ | HP ThinPro では、接続のショートカットをデスクトップ領域に配置したり、背景のテーマをカスタマイズしたりできます HP Smart Zero では、デスクトップがログイン画面に置き換えられ (カスタマイズできます)、選択されている接続インターフェイスに固有のテーマが表示されます |
| (2) 接続のショートカット | 接続のショートカットをダブルクリックして、接続を開始できます |
| (3) タスクバー | プログラムおよびシステムの機能にすばやくアクセスできます (詳しくは、 5 ページのタスクバー を参照してください) |

タスクバー

 **注記**：以下の図では HP ThinPro のタスクバーを示しています（ロケール設定は米国）。HP Smart Zero の場合、タスクバーは初期設定で画面の右側に縦向きに表示されます。一部のタスクバー情報の表示形式は、ロケール設定によって異なります。



| 項目 | 説明 |
|----------------|--|
| (1) 検索 | 設定済みの接続、接続マネージャー、[コントロールパネル]の項目、および電源機能を検索して実行します |
| (2) 接続マネージャー | HP ThinPro では、このボタンを選択すると、接続マネージャーが新しいウィンドウで開きます。詳しくは、 6 ページの接続マネージャー (HP ThinPro のみ) を参照してください HP Smart Zero では、このボタンを選択すると、接続を追加または編集するためのメニューが表示されます |
| (3) コントロールパネル | Thin Client の構成、管理者モードとユーザーモードの切り替え、およびソフトウェア更新の確認を行います。詳しくは、 44 ページの「コントロールパネル」 を参照してください |
| (4) システム情報 | Thin Client に関するシステム、ネットワーク、およびソフトウェア情報を表示します。詳しくは、 67 ページの「システム情報」 を参照してください |
| (5) アプリケーション領域 | 現在開いているアプリケーション用のアイコンが表示されます ヒント ：Ctrl + Alt を押しながら、Tab キーを繰り返し押しすると、フォアグラウンドで動作させるアプリケーションを選択できます |
| (6) システムトレイ | 特定の機能およびサービスにすばやくアクセスしたり、その情報を表示したりします。システムトレイには以下の項目を含めることができますが、システム構成によっては一部の項目が表示されない場合があります <ul style="list-style-type: none">オーディオミキサー仮想キーボードネットワークステータス：このアイコンを選択すると、使用可能な無線ネットワークの一覧を表示できます。そのどれかに接続するには、そのネットワークの無線プロファイルを作成しますAutomatic Update（自動更新）の状態：チェックマークが付いた緑色のアイコンは、Automatic Update が正常に完了したことを示します。感嘆符が付いた黄色のアイコンは、Automatic Update サーバーが見つからなかったか、サーバー側の設定に何らかの問題があったことを示します。X が付いた赤色のアイコンは、パッケージやプロファイルが無効であるなどの理由で Automatic Update が失敗したことを示します。回転する矢印が付いた青色のアイコンは、Automatic Update が更新をチェック中であることを示しますSCIM（Smart Common Input Method）のコントロールCitrix 接続アイコン |

| 項目 | 説明 |
|-----|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> バッテリーアイコン：[電源管理]を開くには、このアイコンを右クリックしてから、[電源設定の調整]を選択します |
| (7) | 日付と時刻 現在の日付および時刻を表示します。また、日付および時刻の設定を開きます |
| (8) | 電源ボタン Thin Client からのログアウト、Thin Client の再起動、および Thin Client のシャットダウンを行います |

接続マネージャー（HP ThinPro のみ）

 **注記：**以下の図では接続マネージャーを示しています（ロケール設定は米国）。



| 項目 | 説明 |
|-----|--|
| (1) | 接続リスト 設定済みの接続およびその状態（アクティブであるかどうか）が一覧表示されます |
| (2) | 開始 選択されている接続を開始します |
| (3) | 停止 選択されている接続を停止します |
| (4) | 編集 選択されている接続を編集します |
| (5) | 削除 選択されている接続を削除します |
| (6) | 追加 新しい接続を追加します 注記： 利用可能な接続インターフェイスの一覧については、 1 ページの OS 構成の選択 を参照してください |
| (7) | 設定 Citrix、RDP、または Web Browser 接続の全般設定を編集します。これらの設定は、その種類のすべての接続に適用されます |

接続の設定方法について詳しくは、以下を参照してください。

- [7 ページの「接続の設定」](#)
- [9 ページの「接続インターフェイス」](#)

3 接続の設定

接続の詳細設定

以下の表では、任意の接続インターフェイスの接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用できる設定について説明します。

 **注記：**これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

| 項目 | 説明 |
|---------------------|--|
| 予備接続 | 予備接続を指定します。接続を開始できなかった場合に、代わりとして予備接続の開始を試みます 注記： このオプションは、接続インターフェイスが VMware Horizon View の場合は使用できません |
| 自動開始の優先度 | 接続が自動的に開始される順序を決定します。0 に設定すると、自動開始が無効になります。その他の値によって開始する順序が決まり、1 が最も高い優先度になります |
| 資格情報をスクリーンセーバーと共有 | ユーザーがその接続に自分の資格情報を使用してローカルスクリーンセーバーのロックを解除できるようにします 注記： このオプションは、接続インターフェイスが Citrix、RDP、および VMware Horizon View の場合にのみ使用できます |
| 自動再接続 | 有効にすると、この接続が切断された場合に自動的に再接続を試みます 注記： 接続マネージャーを介して接続を停止すると、自動再接続は行われません |
| 接続前にネットワークを待機する | 接続を開始するためにネットワークが必要ない場合、またはネットワークでの接続開始を待たない場合は、このオプションを無効にします |
| デスクトップにアイコンを表示 | 有効にすると、この接続のデスクトップアイコンが作成されます |
| ユーザーによるこの接続の起動を許可する | 有効にすると、エンドユーザーがこの接続を開始できます |
| ユーザーによるこの接続の編集を許可する | 有効にすると、エンドユーザーがこの接続を変更できます |
| ログインダイアログオプション | 接続用のログインダイアログを設定するには、これらのオプションを有効または無効にします 注記： このオプションは、接続インターフェイスが Citrix、RDP、および VMware Horizon View の場合にのみ使用できます 以下のオプションを使用できます <ul style="list-style-type: none">【ユーザー名フィールドの表示】【パスワードフィールドの表示】【ドメインフィールドの表示】【このアカウントを記憶する】チェックボックスの表示】 注記： このオプションを使用すると、ユーザー名およびドメインは保存されますが、パスワードは毎回入力する必要があります |

キオスクモード

Thin Client をキオスクモード用に設定すると、その Thin Client はあらかじめ定義されたユーザー資格情報を使用し、起動時に初期設定の接続に自動的にログインします。ログアウト、切断、またはネットワーク障害のために接続が失われた場合は、接続が復元されるとすぐに自動的に再接続します。

 **ヒント:** ログイン時にリソースが自動的に起動するようにリモートホストを設定して、キオスクモードの操作環境をシームレスにすることができます。

Thin Client をキオスクモード用に構成する最も簡単な方法は、Thin Client を HP Smart Zero に切り替え ([56 ページの ThinPro の構成 \(カスタマイズセンター\)](#)) を参照してください)、接続を設定することです。これが完了すると、以下の設定が自動的に行われます。

- タスクバーが自動的に非表示になります
- 接続が自動的に開始されます
- 接続が自動的に再接続されます
- 接続時にユーザー資格情報がローカルスクリーンセーバーと共有されます
- デスクトップテーマがその接続インターフェイスの初期設定のテーマに設定されます
- [USB マネージャー] の USB リダイレクトプロトコルがその接続インターフェイスのプロトコルに設定されます

HP ThinPro で Thin Client をキオスクモード用に構成する場合 (HP ThinPro でのみ使用可能な接続インターフェイスを使用する場合など) は、目的の接続に対して以下の設定を手動で行ってください。

- ThinPro の構成 (カスタマイズセンター) で、タスクバーを **[自動的に隠す]** に設定します
- 接続の設定で、以下の操作を行います
 - **[自動開始の優先度]** を **[1]** に設定します
 - **[自動再接続]** を有効にします
 - 可能な場合は、**[資格情報をスクリーンセーバーと共有]** を有効にします
 - Web Browser 接続の場合のみ、**[キオスクモードを有効にする]** オプションを選択します
- [USB マネージャー] で、必要に応じて適切な USB リダイレクトプロトコルを設定します

 **ヒント:** キオスクモードのときに、接続を最小化してローカルデスクトップに戻るには、**Ctrl + Alt + End** キーを押します。

4 接続インターフェイス

Citrix

以下の表では、サポートされる Citrix XenApp バックエンドを示しています。

| アクセスタイプ | XenApp のバージョン |
|----------------|-------------------------|
| 直接 (レガシー) | 4.5 / 5 / 6 / 6.5 |
| PNAgent (レガシー) | 4.5 / 5 / 6 / 6.5 / 7.X |
| Web ブラウザー | 4.5 / 5 / 6 / 6.5 / 7.X |
| StoreFront | 4.5 / 5 / 6 / 6.5 / 7.X |

以下の表では、サポートされる Citrix XenDesktop® バックエンドを示しています。

| アクセスタイプ | XenApp のバージョン |
|----------------|-------------------------|
| PNAgent (レガシー) | 4.5 / 5.5 / 5.6.5 / 7.X |
| Web ブラウザー | 4.5 / 5.5 / 5.6.5 / 7.X |
| StoreFront | 4.5 / 5.5 / 5.6.5 / 7.X |

以下の表では、サポートされる Citrix VDI-in-a-box バックエンドを示しています。

| アクセスタイプ | XenApp のバージョン |
|----------------|---------------|
| PNAgent (レガシー) | 5.x |
| Web ブラウザー | 5.x |
| StoreFront | 5.x |

Citrix の全般設定

 **注記**：これらの設定はすべての Citrix 接続に影響します。

オプション

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに[オプション]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| 項目 | 説明 |
|-------------------------|---|
| [HDX MediaStream]を有効にする | [HDX MediaStream]を有効にします |
| マルチメディアを有効にする | マルチメディアを有効にします |
| 接続バーを有効にする | 接続バーを有効にします |
| 自動再接続を有効にする | 切断された接続の自動再接続を有効にします |
| セッションの信頼性を有効にする | Citrix のセッション画面の保持機能を有効にします。詳しくは、Citrix のドキュメントを参照してください |
| クリップボードリダイレクトを有効にする | クリップボードのリダイレクトを有効にします |
| データ圧縮を使用する | この接続にデータ圧縮を使用します |
| H264 圧縮を有効にする | H.264 圧縮を有効にします。このデータ圧縮方法がお客様の使用環境に最適かどうかを確認するには、Citrix のドキュメントを参照してください |
| 中ボタンでの貼り付けを有効にする | マウスの中ボタンでの貼り付け機能を有効にします |
| ユーザー エージェント文字列 | Citrix サーバーに送信される要求に使用するユーザー エージェント文字列を指定します。このオプションは NetScaler 構成に使用できます |
| サウンド | 音質を設定するか、サウンドを完全に無効にします |
| 暗号化のレベル | ICA セッションの暗号化のレベルを指定します |

ローカルリソース

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに[ローカルリソース]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| 項目 | 説明 |
|--------------------|--|
| プリンター | ローカル プリンターのリダイレクトを処理する方法を設定します |
| Web カメラ/オーディオ入力 | ローカルの Web カメラおよびオーディオ入力のリダイレクトを処理する方法を設定します |
| USB のリダイレクト | USB のリダイレクトを有効にします |
| 動的ドライブマッピング | 動的ドライブマッピングを有効にします |
| 静的ドライブマッピング (レガシー) | 静的ドライブマッピングを有効にします。ドライブマッピングをローカルパスに指定できるようになります |

ウィンドウ

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに[ウィンドウ]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| 項目 | 説明 |
|----------------|---|
| TWI モード | ネイティブアプリケーションのように、HP ThinPro のローカルデスクトップ上にシームレスウィンドウを1つだけ表示します |
| 初期設定のウィンドウ サイズ | [TWI モード]が[シームレスを強制的にオフにする]に設定されているときの、初期設定のウィンドウ サイズを設定します |
| 初期設定のウィンドウの色 | 初期設定の色深度を設定します |
| 左のモニター | [仮想デスクトップをすべてのモニター上に表示する]が無効になっている場合、これらのフィールドで、仮想デスクトップを各モニターに表示する方法を指定します |
| 右のモニター | |
| 上のモニター | |
| 下のモニター | |

ファイアウォール

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに[ファイアウォール]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| 項目 | 説明 |
|------------------------|--|
| プロキシの種類 | プロキシの種類を指定します |
| プロキシアドレス | プロキシサーバーの IP アドレス |
| プロキシポート | プロキシサーバーに接続するためのポート |
| ユーザー名 | プロキシサーバーへの接続に使用するユーザー名 |
| パスワード | プロキシサーバーへの接続に使用するパスワード |
| ファイアウォール接続に代替アドレスを使用する | Citrix ICA クライアントが、ファイアウォール内のサーバーへのアクセス時に、サーバーに定義された代替アドレスを要求します。代替アドレスは、サーバーファーム内の各サーバーに指定する必要があります |

キーボードショートカット

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに[キーボードショートカット]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| 項目 | 説明 |
|--------------------|---|
| ローカルの IM の使用を有効にする | ローカルの入力方式を使用してキーボード入力を処理します。このオプションは、ヨーロッパ言語でのみサポートされています |

| 項目 | 説明 |
|----------------------|---|
| EUKS 番号を使用する | Windows サーバー上での拡張 Unicode キーボードサポート (EUKS : Extended Unicode Keyboard Support) の使用方法を制御します。設定可能な値は次のとおりです <ul style="list-style-type: none"> 0 : 拡張 Unicode キーボードサポートは使用されません 1 : 拡張 Unicode キーボードサポートがフォールバックとして使用されます 2 : 使用可能な場合は常に拡張 Unicode キーボードサポートが使用されます |
| キーボードショートカットでの操作 | キーボードショートカットの操作を指定します。次の設定を使用できます <ul style="list-style-type: none"> [変換] : キーボードショートカットがローカル デスクトップ (クライアント側) に適用されます [全画面表示のデスクトップでのみ直接転送] : 全画面モードの非シームレス ICA セッションでのみ、キーボードショートカットがリモート デスクトップ (サーバー側) に適用されます [直接転送] : シームレスと非シームレスの両方の ICA セッションで、ウィンドウにキーボードフォーカスがある場合に、キーボードショートカットがリモート デスクトップ (サーバー側) に適用されます |
| 直接キー操作を停止 | キーボードショートカットの直接操作を無効にするキーの組み合わせを指定します |
| Alt + F1 ~ Alt + F12 | 操作するキーボードショートカットを追加します |

セッション

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに[セッション]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| 項目 | 説明 |
|------------------|--|
| アプリ起動前の自動ログアウト遅延 | Citrix サーバーを複数の公開されたリソースで使用する場合、ユーザーがログインしてから、システムが自動的にログアウトして最初のログイン画面に戻るまでに、アプリケーションを起動できる秒数を指定します |
| アプリ終了後の自動ログアウト遅延 | Citrix サーバーを複数の公開されたリソースで使用する場合、最後に Xen に公開されたリソースの終了から、自動的にユーザーがログアウトされて最初のログイン画面に戻るまでの秒数を指定します |
| サーバー チェックのタイムアウト | 選択したサーバーおよびポートに対する基本的な接続のチェックを実行するには、このオプションを初期値の-1 以外の値に設定します |

ヒント : これらの値のどれかを 0 未満に設定すると、自動ログアウトが無効になります

注記 : Citrix の処理の遅延により、自動ログアウトの時間が増える可能性があります

Citrix の接続ごとの設定

 **注記** : これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

接続

以下の表では、Citrix 接続を編集しているときに[接続]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|--------|--|
| 名前 | 接続の名前 |
| 接続モード | 接続モードを次のどれかに設定します <ul style="list-style-type: none">• [PNAgent]• [StoreFront]• [直接] <p>注記 : このオプションに続いて表示される認証オプションは、選択した接続モードによって異なります。詳しくは、Citrix のドキュメントを参照してください</p> <p>注記 : [接続のテスト] ボタンを選択して、接続設定をテストできます</p> |
| URL | Citrix サーバーのホスト名または IP アドレス。HTTPS サイト上のサーバーとの接続を設定している場合は、サイトの FQDN を入力し、Citrix 証明書ストア内にローカルルート証明書を入力します |
| 証明書を無視 | このオプションの横にあるチェックボックスを選択すると、HTTPS 接続が強制されます |
| 証明書は無視 | Citrix サーバーの証明書の検証を回避します |
| 資格情報 | 認証モードを次のどれかに設定します <ul style="list-style-type: none">• [匿名ログイン] : 非認証 (匿名) ユーザーを許可する StoreFront サーバー用です• [シングルサインオン資格情報を使用する] : ログイン時に使用する資格情報を、接続の開始にも使用します• [接続の開始時に資格情報を要求する] : 事前に定義された資格情報コンポーネントはありません• [事前定義されたユーザー、パスワード、および/またはドメインを使用する] : 資格情報の一部またはすべてを保存し、接続に使用します• [事前定義されたスマートカードを使用する] : 認証用のスマートカードを使用して、接続を開始します |
| ユーザー | この接続のユーザー名 |
| パスワード | この接続のパスワード |
| ドメイン | この接続のドメイン名 (省略可能) |
| 接続のテスト | URL および資格情報をチェックします |

構成

以下の表では、Citrix 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|-------------------------|---|
| ログイン時にアプリケーションに自動再接続する | <p>このオプションを選択すると、ユーザーが最後にログアウトしたときに開かれていたリソースが、再ログイン後にもう一度開かれます</p> <p>ヒント: Citrix SmoothRoaming 機能を使用していない場合、このオプションを無効にすると接続速度が速くなります</p> |
| 自動起動モード | <p>Citrix 接続が開始されるときに自動的に起動される特定のアプリケーションまたはデスクトップを設定します。[単一リソースの自動起動]に設定すると、単一の公開されたリソースがある場合に、そのリソースが接続時に自動的に起動します</p> <p>注記: [ログイン時にアプリケーションに自動再接続する]が選択されていて、再接続するアプリケーションがある場合には、このオプションは機能しません</p> <p>[アプリケーションの自動起動]または[デスクトップの自動起動]を選択している場合は、[列挙]ボタンを選択すると、リソース（アプリケーションまたはデスクトップ）の一覧が取得され、Citrix 接続マネージャーに表示されます。Citrix 接続マネージャーでは、接続時に自動起動するリソースを選択できません</p> <p>[単一リソースの自動起動]を選択している場合は、[列挙]ボタンを選択すると、リソースの数が取得されます。リソースが1つしかない場合には、接続時にそのリソースが自動起動されます</p> |
| デスクトップにリソースを表示する | このオプションを選択すると、接続先のリモートリソースが HP ThinPro のローカル デスクトップに表示されます |
| タスクバーにリソースを表示する | このオプションを選択すると、接続先のリモートリソースがローカルの HP ThinPro のタスクバーに表示されます |
| サブスクリプション済みのリソースのみを表示する | このオプションを選択すると、サブスクリプション済みのリソースのみが Citrix 接続時に表示されます |

詳細設定

 **注記:** 接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[7 ページの接続の詳細設定](#)を参照してください。

RDP

RDP クライアントは FreeRDP 1.1 に基づいており、RDP の要件に対応するために、以下の機能を備えています。

- ハードウェア高速化された RemoteFX
- デスクトップエクスペリエンス機能を有効にした Windows ホストに接続する場合の MMR のサポート
- USBR を有効にする RDP サーバーに接続する場合の USBR のサポート

RDP の全般設定

以下の表では、RDP の全般設定について説明します。

 **注記**：これらの設定はすべての RDP 接続に影響します。

| 項目 | 説明 |
|---------------------|--|
| 次を使用してホスト名を送信 | Thin Client のホスト名または MAC アドレスを指定したホスト名としてリモートシステムに送信するかどうかを指定します |
| マルチメディアリダイレクトを有効にする | マルチメディアリダイレクトを有効にします |

RDP の接続ごとの設定

 **注記**：これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

ネットワーク

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[ネットワーク]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|----------------|--|
| 接続名 | この接続のカスタムの名前 |
| サーバー名/アドレス | この接続の IP アドレスまたはサーバー名、または RD Web アクセスフィールドの URL。必要に応じて、サーバー名の後にコロンを入力して、その後ポート番号を追加できます（初期設定では、直接 RDP 接続のポートは 3389 です） 注記 ：RD Web アクセスフィールドの URL は、https://で始める必要があります。初期設定では、URL のパターンを定義する rdWebFeedUrlPattern レジストリ キーの指定に従って、これが自動的に追加されます |
| 資格情報 | <ul style="list-style-type: none">【シングルサインオン資格情報を使用する】:ログイン時に使用する資格情報を、接続の開始にも使用します【接続の開始時に資格情報を要求する】:事前に定義された資格情報コンポーネントはありません【事前定義されたユーザー、パスワード、および/またはドメインを使用する】:資格情報の一部またはすべてを保存し、接続に使用します【事前定義されたスマートカードを使用する】:認証用のスマートカードを使用して、接続を開始します |
| ユーザー | この接続のユーザー名 |
| パスワード | この接続のパスワード |
| ドメイン | この接続のドメイン名（省略可能） |
| RD ゲートウェイを使用する | その他の RD ゲートウェイ オプション（ゲートウェイ アドレス、ポート、資格情報など）を有効にします |
| サーバーのプロープ | サーバーのプロープを開始します。サーバーのプロープを使用すると、どの RDP 機能がお使いの RDP サーバーでサポートされているかを確認できます |

サービス

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[サービス]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|-------|--|
| サービス | <p>RDP サービスを以下のどれかに設定します</p> <ul style="list-style-type: none">● [リモートコンピューター]: このサービスを使用すると、リモートコンピューターへの直接 RDP 接続が作成されます。必要に応じて、リモートアプリケーションまたは代替シェルを接続時に起動できます。次の追加オプションを、リモートコンピューター サービスで利用できます<ul style="list-style-type: none">- [モード]を[リモートアプリケーション]に設定した場合は、実行するアプリケーションのパスを[アプリケーション]フィールドで指定します<ul style="list-style-type: none">ヒント: RDP のシームレスウィンドウモードを使用する場合は、サーバー上の <code>seamlessrdpshell.exe</code> のパスの後に空白文字を1つ入力してから、実行するアプリケーションのパスを入力します。以下の例を参照してください <pre>c:¥seamless¥seamlessrdpshell.exe c:¥Program Files¥Microsoft¥Word.exe</pre> <ul style="list-style-type: none">- [モード]を[代替シェル]に設定した場合は、代替シェルで実行するアプリケーションの実行コマンドを[コマンド]フィールドで指定します。たとえば、Microsoft Word を実行する場合は、<code>Word.exe</code> と入力します<ul style="list-style-type: none">[モード]を[代替シェル]に設定した場合は、アプリケーションのプログラム ファイル用のサーバーの作業ディレクトリパスを[ディレクトリ]フィールドで指定します。たとえば、Microsoft Word の作業ディレクトリは <code>C:¥Program Files¥Microsoft</code> になります● [RD Web アクセス]: このサービスを使用すると、RemoteApp リソースの一覧がサーバーから取得されてユーザーに表示され、リソースが選択されたときに実際の RDP 接続が開始されます。次の追加オプションを RDP Web アクセスで利用できます<ul style="list-style-type: none">- [リソース選択ウィンドウを開いたままにする]: このオプションを選択すると、ユーザーはリソース選択ウィンドウで複数のリソースを同時に開くことができます- [単一のリソースを自動起動する]: このオプションを選択すると、単一の公開されたリソースがある場合は、そのリソースが接続時に自動的に起動します- [リソースフィルター]および[Web フィールド ブラウザー]: ユーザーがリソース選択ウィンドウで選択できるリモートリソースを制限するために使用できます <p>注記: RD Web アクセスを使用する利点は、ブローカー接続の詳細および負荷分散 URL が自動的に処理される点にあります</p> <p>詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『RD Web Access Deployment Example』(RD Web アクセスの展開例) (英語版) を参照してください</p> |

ウィンドウ

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[ウィンドウ]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|----------------|--|
| ウィンドウの装飾を表示しない | この設定により、メニューバー、最小化オプション、閉じるオプション、ウィンドウパネルの枠線などの画面要素が非表示になります |
| ウィンドウのサイズ | ウィンドウのサイズを[フル]、[固定]、または[パーセント]に設定します |
| 割合によるサイズ | [ウィンドウのサイズ]が[パーセント]に設定されている場合、このオプションは画面に対するデスクトップウィンドウの割合を設定します 注記： 結果となるサイズは概数で表される場合があります 注記： RemoteFX では、固定された解像度リストのみをサポートしています |
| 固定サイズ | [ウィンドウのサイズ]が[固定]に設定されている場合、このオプションはデスクトップウィンドウの幅および高さをピクセル単位で設定します |

オプション

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[オプション]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|------------------------------|--|
| 移動イベントを有効にする | 有効にした場合、マウスの移動が継続的に RDP サーバーに転送されます |
| データ圧縮を有効にする | RDP サーバーと RDP クライアント間のデータの一括圧縮を有効にします |
| 非推奨の RDP 暗号化を有効にする | NLA が使用できない場合に、以前の世代の RDP 暗号化を有効にします |
| オフスクリーン キャッシュを有効にする | 有効にした場合、オフスクリーン メモリがビットマップのキャッシュに使用されます |
| 管理者コンソールに接続する | 接続を管理者コンソール ポートに接続します |
| セッション間のコピー/貼り付け | 有効にした場合、異なる RDP セッション間のコピー/貼り付けが有効になります |
| RDP6 プリミティブのバッファリングを有効にする | 有効にすると、画面更新の頻度を下げることにより、RemoteFX 以外のグラフィックスのパフォーマンスを向上させます |
| プログレッシブ RemoteFX コーデックを有効にする | プログレッシブ RemoteFX コーデックを有効にすると、徐々に鮮明になる一連の画像でデスクトップが転送されます 注記： このコーデックにより、デスクトップ上のビジュアル表示が非常に動的なコンテンツとなることがあるため、必要に応じてこのコーデックを無効にできます |
| 証明書の検証ポリシー | 以下のどれか 1 つを選択します <ul style="list-style-type: none">• 【すべての RDP サーバー証明書を受け入れる】• 【記録されているホストを使用し、不明または無効な証明書の場合に警告する】 |

| オプション | 説明 |
|-----------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 【記録されているホストをスキップし、不明または無効な証明書の場合に警告する】 ● 【事前認定されている RDP サーバーにのみ接続する】 |
| TLS バージョン | <p>RDP サーバーとのネゴシエーションの初期段階で使用される TLS (Transport Layer Security) のバージョンを設定します。RDP サーバーが使用する TLS のバージョンと一致させるか、[auto]に設定してください</p> <p>注記：パッチが適用されていない RDP サーバー側に存在する一部の問題により、自動設定が失敗する可能性があるため、[auto]は初期設定になっていません</p> |
| 送信するホスト名 | <p>通常、Thin Client のホスト名がクライアントアクセスライセンスに使用されます。このフィールドを使用すると、別の値を送信できます</p> <p>ヒント：詳しくは、このオプションの横にある[?]アイコンを選択してください</p> |
| 負荷分散情報 | <p>このオプションはブローカー RDP 接続で使用します</p> <p>ヒント：詳しくは、このオプションの横にある[?]アイコンを選択してください</p> |

 **注記：****【非推奨の RDP 暗号化を有効にする】**オプションおよび**【TLS バージョン】**オプションについて詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『Security Layers for RDP Connections』（RDP 接続用のセキュリティレイヤー）（英語版）を参照してください。

ローカルリソース

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[ローカルリソース]カテゴリで使用できる設定について説明します。

 **注記：**USB リダイレクト (USB R) を使用する特別な理由がない限り、すべてのローカルデバイスに対して高レベルのデバイスリダイレクトを使用することをおすすめします。詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『USB Manager』（USB マネージャー）（英語版）を参照してください。

| オプション | 説明 |
|--------------|---|
| オーディオデバイス | オーディオデバイスが高レベルの RDP オーディオリダイレクトか低レベルの USB リダイレクトによってリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決定します |
| プリンター | プリンターが高レベルのプリンターリダイレクト（[コントロールパネル]の[プリンター]ツールで設定する必要があります）か低レベルの USB リダイレクトによってリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決定します |
| シリアル/パラレルポート | シリアルポートおよびパラレルポートがリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決定します |
| USB ストレージ | USB ストレージ（フラッシュドライブやオプティカルドライブなど）が高レベルのストレージリダイレクトか低レベルの USB リダイレクトによってリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決定します |

| オプション | 説明 |
|---------------|--|
| ローカルパーティション | Thin Client のフラッシュ ドライブのローカルパーティションがリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決定します |
| その他の USB デバイス | その他のクラスの USB デバイス (Web カメラやタブレットなど) が低レベルの USB リダイレクトによってリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決めます |

効果

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[効果]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|------------------------|--|
| 接続速度を選択してパフォーマンスを最適化する | <p>接続速度 ([LAN]、[ブロードバンド]、または[モデム]) を選択すると、パフォーマンスを最適化するために以下のオプションが有効または無効になります</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デスクトップの背景] • [フォントスムージング] • [デスクトップ構成] • [ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する] • [メニューとウィンドウのアニメーション] • [テーマ] <p>[クライアントの推奨設定]を選択すると、RDP の操作環境を最適にするためにどのオプションを使用するかを RDP クライアントに選択させることができます</p> <p>ユーザー独自のカスタム オプションの組み合わせを選択することもできます</p> |
| エンドツーエンド接続の状態監視 | <p>選択するとタイムアウト オプションが有効になります</p> <p>注記: 詳しくは、HP ThinPro のホワイト ペーパー『RDP Connection Drop Detection』(RDP 接続の切断の検出) (英語版) を参照してください</p> |
| 警告タイムアウト | <p>サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、接続が失われたことがユーザーに警告されるまでの時間を秒単位で指定します。この機能を無効にするには、そのオプションをクリアするか、時間をゼロに設定します</p> <p>[警告ダイアログの表示]オプションを選択すると、このタイムアウトの時間になったときに警告ダイアログが表示されます。そうでない場合、警告は接続ログにのみ書き込まれます</p> <p>ヒント: ビジー状態や一時的な停止が頻繁に発生するネットワークでは、タイムアウト値を大きくすることをおすすめします</p> |
| 回復タイムアウト | <p>サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、RDP クライアントで特別な操作をしないで接続回復を実行するまで待機する時間を秒単位で指定します。この時間が終了すると、RDP クライアントはそのセッションとの迅速な再接続を試みます</p> |
| エラー タイムアウト | <p>サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、RDP クライアントでそのサーバーとの再接続の試みが中止されるまで待機する時間を秒単位で指定します</p> <p>ヒント: 詳しくは、このフィールドの横にある[?]アイコンを選択してください</p> |

診断

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[診断]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|------------------|---|
| RDP ダッシュボードを表示する | 有効にすると、RDP ダッシュボードが接続時に表示されます ヒント: 詳しくは、このオプションの横にある[?]アイコンを選択してください |
| 接続状態グラフを表示する | このオプションを有効にすると、接続開始時に RDP サーバーからの応答時間を示す 2 次元グラフが表示されます ヒント: 詳しくは、このオプションの横にある[?]アイコンを選択してください |
| USB リダイレクト分析 | この機能を使用すると、リダイレクトされた USB デバイスごとに、現在のリダイレクト方法を確認および表示できます ヒント: 詳しくは、このオプションの横にある[?]アイコンを選択してください |
| シンクロナス X11 | パフォーマンスは低下しますが、X11 バッファが頻繁にフラッシュされます |
| ログ | X11 ログファイルを有効にします [自動フラッシュ] オプションを選択すると、パフォーマンスは低下しますが、ログ出力の頻度が高くなります |
| キャプチャ | 1 つのセッションから X11 出力をキャプチャおよび再生できます |

詳細設定

 **注記:** 接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[7 ページの接続の詳細設定](#)を参照してください。

RemoteFX

RemoteFX は、従来の RDP プロトコルのグラフィックス コンポーネントの後継として設計された高度なグラフィックス ディスプレイ プロトコルです。RemoteFX はサーバー GPU のハードウェア アクセラレーション機能を使用し、RemoteFX コーデック経由で画面内容をエンコードし、画面の更新を RDP クライアントに送信します。また、高度なパイプライン テクノロジーおよびアダプティブグラフィックスを使用して、接続インターフェイス、使用可能な CPU とネットワーク帯域幅、およびレンダリング速度に基づいて最適な表示環境を提供できるようにします。

RemoteFX は、初期設定で有効になっています。管理者またはユーザーは、RemoteFX を有効にするために設定を変更する必要はありません。RDP クライアントは、接続する RDP サーバーとネゴシエーションし、RemoteFX が利用できる場合には RemoteFX を使用します。

 **注記:** 詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『Enabling RemoteFX for RDP』(RDP での RemoteFX の有効化) (英語版) を参照してください。

RDP でのマルチモニター セッション

マルチモニターをサポートするために、特別な設定を行う必要はありません。RDP クライアントは、ローカル設定でどのモニターがプライマリ モニターとして指定されているかを確認し、タスクバーおよびデスクトップアイコンをそのモニターに配置します。リモートセッション内でウィンドウを最大化すると、そのウィンドウは最大化されているモニター上でのみ全画面表示されます。

リモートセッション内では、ディスプレイの設定およびモニターの解像度を表示することはできませんが、変更することはできません。セッションの解像度を変更するには、セッションからログアウトし、ローカルの Thin Client 上で解像度を変更します。

初期設定では、すべての RDP セッションは全画面ですべてのモニターにまたがって表示され、仮想環境を向上させます。RDP 接続マネージャーでは、追加のウィンドウオプションを利用できます。

 **注記：**グラフィックスカードをサポートしている RDVH (Remote Desktop Virtualization Host) セッションでは、特定の解像度および数のモニターしかサポートされない場合があります。これらの制限は、RemoteFX 仮想グラフィックスデバイスが RDVH 仮想マシン用に設定されるときに指定されます。

 **注記：**RDP でのマルチモニターセッションについて詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『True Multi-Monitor Mode for RDP』(RDP でのマルチモニターモード) (英語版) を参照してください。

RDP でのマルチメディアリダイレクト

マルチメディアリダイレクト (MMR) は、リモートホスト上で Windows Media Player を統合し、エンコードされたメディアを RDP クライアントにストリーミングするテクノロジーで、リモートホスト上でメディアを再生して RDP 経由で再エンコーディングすることはありません。このテクノロジーは、サーバーの負荷とネットワークのトラフィックを削減してマルチメディア環境を大きく向上させるため、オーディオを自動的に同期しながら 1080p の動画を 24 fps で再生できます。MMR は、初期設定で有効になっています。RDP クライアントは、接続する RDP サーバーとネゴシエーションし、MMR が利用できる場合には MMR を使用します。

また、MMR は高度なコーデック検出方式を使用して、リダイレクトを試みる前に、そのホストが要求しているコーデックが Thin Client でサポートされているかどうかを確認します。その結果、サポートされているコーデックのみがリダイレクトされ、サポートされていないすべてのコーデックはサーバー側でレンダリングされるようになります。

すべての RDP 接続に対して Thin Client 上で MMR を無効にするには、以下のレジストリキーを 0 に設定します。

```
root/ConnectionType/freerdp/general/enableMMR
```

RemoteFX によって許容範囲のマルチメディア環境がすでに実現しているため、以下のレジストリキーを 1 に設定して RemoteFX で MMR を無効にできます。

```
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/disableMMRwithRFX
```

 **ヒント：**管理を簡素化するために、MMR の有効/無効の切り替えはリモートホストで行うことをおすすめます。

RDP でのデバイスリダイレクト

デバイスのリダイレクトを使用すると、ユーザーがデバイスを Thin Client に接続したときに、デバイスがリモートセッションで自動的に検出され、アクセスできるようになります。RDP はさまざまな種類のデバイスのリダイレクトをサポートしています。

RDP での USB リダイレクト

USB リダイレクトは、ネットワーク経由の低レベルの USB プロトコルをリモートホストに送信することによって動作します。ローカルホストに接続されたすべての USB デバイスが、ローカルで接続されたかのようにネイティブの USB デバイスとしてリモートホスト内に表示されます。標準的な Windows ドライバーがリモートセッションでデバイスをサポートし、すべての種類のデバイスが Thin Client 上でドライバーを追加することなくサポートされます。

一部のデバイスは USB リダイレクトできるように初期設定されていません。たとえば、USB キーボード、マウス、およびその他の入力デバイスは、リモートセッションが Thin Client からの入力を想定しているため、通常はリダイレクトできるように設定されていません。大容量記憶装置、プリンター、オーディオデバイスなど一部のデバイスは、リダイレクトのために追加のオプションを使用する場合があります。

RDP での USB リダイレクトについては、以下の追加情報を参照してください。

- サーバーは、Thin Client が USB リダイレクトを利用できるようにするためにそれをサポートする必要があります。汎用の USB リダイレクトは、RemoteFX、Windows 8、Windows 10、Windows Server 2012、および Windows Server 2016 が動作する RDVH サーバーでサポートされています。
- [コントロールパネル]の[USB マネージャー]のプロトコルを RDP に設定する必要があります。
- RDP 接続の場合、USB デバイスがリダイレクトされるかどうかは、[USB マネージャー]のコントロールによって決定されます。USB デバイスがリダイレクトされる方法は、個々の接続の設定によって決定されます。

RDP での大容量記憶装置のリダイレクト

初期設定では、RDP セッションは、高レベルのドライブリダイレクトを使用してすべての大容量記憶装置をリモートホストにリダイレクトします。USB フラッシュドライブ、USB DVD-ROM ドライブ、外付け USB ハードディスク ドライブなどのデバイスを Thin Client に接続すると、Thin Client はそのドライブを検出してローカルファイルシステムにマウントします。その後、RDP が、マウントされたドライブを検出してリモートホストにリダイレクトします。リモートホスト内では、そのドライブが Windows エクスプローラーで新しいディスクドライブとして表示され、<デバイス ラベル> on <クライアントのホスト名>という名前が付けられます（例：Bill_USB on HP04ab598100ff）。

この種類のリダイレクトには 3 つの制限があります。

- デバイスを取り外すためのアイコンがリモートホストのタスクバーに表示されません。このため、デバイスを取り外す前に、コピーされたデータが同期されるまでの時間を十分に取り、デバイスが壊れないようにしてください。通常、ファイルコピーのダイアログが消えてから待機する必要がある時間は 1 秒未満ですが、デバイスの書き込み速度およびネットワークの遅延時間によっては、最大で 10 秒間待機することが必要になる場合があります。
- Thin Client でサポートされているファイルシステムのみがマウントされます。サポートされているファイルシステムは、FAT32、NTFS、ISO9660 (CD-ROM)、UDF (DVD-ROM)、および ext3 です。
- デバイスはディレクトリとして扱われるため、フォーマットやディスク ラベルの変更といったドライブでよく行われる作業はできません。

ストレージデバイスの USB リダイレクトは、個々の接続の設定で無効にできます。必要に応じて、大容量記憶装置のリダイレクトを完全に無効にできます。そのためには、USB リダイレクトを無効にしてから、以下の表で説明しているように、レジストリキーを変更します。

| レジストリ エントリ | 設定する値 | 説明 |
|----------------------------------|-------|--|
| root/USB/root/holdProtocolStatic | 1 | 接続が設定または設定解除されたときに USBR タイプが自動的に変更されないようにします |
| root/USB/root/protocol | local | デバイスをリモートセッションにリダイレクトするために RDP 接続が試行されないようにします |

USB 大容量記憶装置のローカル マウントを完全に無効にするか、USB 大容量記憶装置のリダイレクトのみを無効にして他のデバイスのリダイレクトを許可するには、Thin Client のファイル システムで、udev ルール/etc/udev/rules.d/010_usbdrive.rules を削除します。

RDP でのプリンター リダイレクト

初期設定では、RDP でプリンターのリダイレクトを有効にする方法は以下の 2 つです。

- **USB リダイレクト**：デバイスに接続されているすべての USB プリンターが、リモートセッションでローカル プリンターとして表示されます。プリンターがそのリモート ホストにまだインストールされていない場合は、標準のプリンター インストール処理がリモートセッションで開始されます。ローカルで管理する設定はありません。
- **高レベルのリダイレクト**：USB リダイレクトがリモート ホストで実行できない場合、またはプリンターがパラレルプリンターかシリアルプリンターの場合は、高レベルのリダイレクトを使用します。ローカルプリンター スプーラーを使用するようにプリンターを設定すると、RDP クライアントが自動的にリモートプリンターを設定し、プリンターが仮想チャネル経由でリモートホストから Thin Client に印刷スプールコマンドを送信するようになります。

この方法では、プリンターを Thin Client 上で設定するとともに、Window ドライバーを Thin Client 上で指定する必要があります。これは、RDP クライアントがリモート ホストに対して、どのドライバーをリモートプリンターのために使用するか指定する必要があります。この Windows ドライバーは、Windows オペレーティングシステムにローカルで接続されたときにプリンターが使用するドライバーと一致している必要があります。通常、この情報はプリンターのプロパティの**[モデル]**に記載されています。

 **注記**：詳しくは、[76 ページのシリアルプリンターまたはパラレルプリンターの設定](#)を参照してください。

RDP でのオーディオ リダイレクト

初期設定では、高レベルのオーディオ リダイレクトを使用すると、リモートホストから Thin Client にオーディオがリダイレクトされます。基本的な音声調整を設定する必要が生じる場合があります。RDP 7.1 には多数の高度なオーディオ リダイレクト機能が多数搭載されていて、それらに追加の設定が必要になる場合があります。

RDP でのオーディオ リダイレクトの使用については、以下の注意事項を参照してください。

- RDP ドライバーは、ネットワーク帯域幅によって許容される最高品質のオーディオを提供します。低帯域幅での接続では、RDP はオーディオの品質を落として再生します。
- 標準的な RDP では、ネイティブのオーディオ同期方式およびビデオ同期方式は利用できません。時間が長いビデオは、オーディオと同期されない場合があります。この問題は、MMR または RemoteFX を使用して解決できます。
- 高レベルのオーディオ リダイレクトをおすすめしますが、デジタル音量調整などの追加機能が存在する場合は、USB リダイレクトを使用できます。アナログデバイスには高レベルのリダイレクトのみを使用できます。
- マイクのリダイレクトは初期設定で有効です。初期設定のマイク音量を Thin Client で調整する必要が生じる場合があります。古い Windows RDP サーバーでは、オーディオ入力があるようにその設定が変更されている必要があります。
- ローカルとリモートの両方の音量設定が最終的な音量に影響します。ローカルの音量は最大にし、リモートホスト内で音量を調整することをおすすめします。

RDP でのスマートカードのリダイレクト

初期設定では、スマートカードは高レベルのリダイレクトを使用してリダイレクトされるため、セッションおよびその他のリモートアプリケーションへのログインにスマートカードを使用できます。

RDP 接続でのスマートカードによるログインを有効にするには、以下の操作を行います。

▲ RDP 接続マネージャーで、**[スマートカードログインを許可する]**を選択します。

これにより、ユーザーはあらかじめ資格情報を指定することなく接続できるようになります。RDP クライアントが RDP セッションを開始し、ユーザーはスマートカードを使って認証するよう求められます。

このテクノロジーでは、スマートカードリーダーのドライバーが Thin Client にインストールされている必要があります。初期設定では、CCID および Gemalto ドライバーがインストールされているため、市販の多くのスマートカードリーダーがサポートされています。追加のドライバーをインストールするには、ドライバーを `/usr/lib/pkcs11/` に追加します。

 **注記:** スマートカードによるログインが有効になっている場合、ネットワークレベル認証はサポートされず、自動的に無効になります。

VMware Horizon View

VMware Horizon View の接続ごとの設定

 **注記:** これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

ネットワーク

以下の表では、VMware Horizon View 接続を編集しているときに[ネットワーク]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|-------|---|
| 名前 | この接続の名前を入力します |
| アドレス | VMware Horizon View サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します |
| 資格情報 | <ul style="list-style-type: none">• [非認証アクセスを使用して匿名でログイン]• [シングルサインオン資格情報を使用する]: ログイン時に使用する資格情報を、接続の開始にも使用します• [接続の開始時に資格情報を要求する]: 事前に定義された資格情報コンポーネントはありません• [事前定義されたユーザー、パスワード、および/またはドメインを使用する]: 資格情報の一部またはすべてを保存し、接続に使用します• [事前定義されたスマートカードを使用する]: 認証用のスマートカードを使用して、接続を開始します |
| ユーザー | 接続に使用するユーザー名を入力します |
| パスワード | 接続に使用するパスワードを入力します |
| ドメイン | 接続に使用するドメインを入力します |

全般

以下の表では、VMware Horizon View 接続を編集しているときに[全般]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|----------------------|---|
| 自動ログイン | 有効にすると、接続の確立時にユーザーは自動的にログインします 注記： このオプションを有効にすることをおすすめします |
| スマートカードログインを許可する | スマートカードログインを有効にします 注記： スマートカードについては、 30 ページの VMware Horizon View でのスマートカードのリダイレクト を参照してください |
| 最大化されたアプリケーションを開始しない | 有効にすると、最大化されたウィンドウでアプリケーションが起動しなくなります |
| 優先するプロトコル | 優先するプロトコルとして PCoIP、RDP、または BLAST を選択するか、後でプロトコルを選択するように設定します |
| アプリケーションサイズ | アプリケーションのウィンドウサイズを設定します。 [All Monitors] (すべてのモニター)、 [Full Screen] (全画面表示)、 [Large Window] (大きいウィンドウ)、または [Small Window] (小さいウィンドウ)を選択できます |
| デスクトップサイズ | デスクトップのウィンドウサイズを設定します。 [All Monitors] 、 [Full Screen] 、 [Large Window] 、または [Small Window] を選択できます |

セキュリティ

以下の表では、VMware Horizon View 接続を編集しているときに[セキュリティ]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|----------------------|---|
| 切断後に閉じる | ユーザーが自分のデスクトップからログアウトしたか、セッションがエラーで終了した後、VMware Horizon View クライアントを自動的に閉じます このオプションは、デスクトップセッションの終了後にユーザーが追加の手順を実行して完全にログアウトしなくても済むように設計されたセキュリティ機能です このオプションはセキュリティ保護のため初期設定で有効になっています。ただし、ユーザーがセッションからのログアウト後に新しいデスクトップに切り替えることが多く、もう一度完全にログインすることがない場合にはこのオプションを無効にできます |
| 上部メニューバーを非表示にする | 上部メニューバーがユーザーに表示されないようにします このオプションは初期設定で有効になっています。ユーザーが VMware Horizon View セッションでウィンドウサイズやデスクトッププールの選択オプションにアクセスする場合は無効にします |
| サーバーアドレスをユーザーに変更させない | 有効にすると、エンドユーザーはサーバーアドレスを変更できません |
| 接続のセキュリティレベル | サーバーへの接続時に VMware Horizon View クライアントが使用するセキュリティレベルを調整するには、 [接続のセキュリティレベル] を使用します |

| オプション | 説明 |
|-------|---|
| | 注記: 接続のセキュリティレベルの動作について詳しくは、 31 ページの VMware Horizon View の HTTPS および証明書管理の要件 を参照してください |

RDP オプション

以下の表では、VMware Horizon View 接続を編集しているときに[RDP オプション]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|------------------------------|--|
| モーション イベントを有効にする | この接続で移動イベントを有効にします |
| データ圧縮を有効にする | この接続にデータ圧縮を使用します |
| 非推奨の RDP 暗号化を有効にする | この接続の暗号化を有効にします |
| オフスクリーン キャッシュを有効にする | ビットマップを強制的に更新します |
| 管理者コンソールに接続する | 接続を管理者コンソール ポートに接続します |
| セッション間のコピー/貼り付け | 有効にした場合、異なる RDP セッション間のコピー/貼り付けが有効になります |
| RDP6 プリミティブのバッファリングを有効にする | 有効にすると、画面更新の頻度を下げることにより、RemoteFX 以外のグラフィックスのパフォーマンスを向上させます |
| プログレッシブ RemoteFX コーデックを有効にする | プログレッシブ RemoteFX コーデックを有効にすると、徐々に鮮明になる一連の画像でデスクトップが転送されます |
| 証明書の検証ポリシー | 以下のどれか 1 つを選択します <ul style="list-style-type: none"> ● [すべての RDP サーバー証明書を受け入れる] ● [記録されているホストを使用し、不明または無効な証明書の場合に警告する] ● [記録されているホストをスキップし、不明または無効な証明書の場合に警告する] ● [事前認定されている RDP サーバーにのみ接続する] |
| TLS バージョン | RDP サーバーとのネゴシエーションの初期段階で使用される TLS (Transport Layer Security) のバージョンを設定します。RDP サーバーが使用する TLS のバージョンと一致させるか、 [auto] に設定してください 注記: パッチが適用されていない RDP サーバー側に存在する一部の問題により、自動設定が失敗する可能性があるため、[auto]は初期設定になっていません |
| 送信するホスト名 | 通常、Thin Client のホスト名がクライアントアクセスライセンスに使用されます。このフィールドを使用すると、別の値を送信できます ヒント: 詳しくは、このオプションの横にある[?]アイコンを選択してください |
| 負荷分散情報 | このオプションはブローカー RDP 接続で使用します ヒント: 詳しくは、このオプションの横にある[?]アイコンを選択してください |

| オプション | 説明 |
|-------------------|--|
| リモートコンピューターのサウンド | リモートコンピューターのサウンドが（リモートまたはローカルで）再生される場所を指定するか、またはまったく再生されないようにするかを指定します |
| ポートのマッピングを有効にする | Thin Client のシリアルポートおよびパラレルポートをリモートセッションに割り当てます |
| プリンターのマッピングを有効にする | ローカルプリントキューをリモートセッションに割り当てます。リモートホストでUSBリダイレクトを使用できない場合、またはプリンターがパラレルプリンターかシリアルプリンターである場合に、このオプションを使用します。ローカルプリンタースプーラーを使用するようにプリンターを設定すると、VMware Horizon View クライアントが自動的にリモートプリンターを設定し、プリンターが仮想チャネル経由でリモートホストから Thin Client に印刷スプールコマンドを送信ようになります この方法では、プリンターを Thin Client 上で設定するとともに、Windows ドライバーを Thin Client 上で指定する必要があります。これは、VMware Horizon View クライアントがリモートホストに対して、どのドライバーをリモートプリンターのために使用するか指定する必要があるためです。この Windows ドライバーは、Windows オペレーティングシステムにローカルで接続されたときにプリンターが使用するドライバーと一致している必要があります。通常、この情報はプリンターのプロパティの 【モデル】 に記載されています |
| 共有フォルダー | 共有フォルダーを 【追加】 、 【削除】 、または 【編集】 します |

RDP の操作環境

以下の表では、VMware Horizon View 接続を編集しているときに[RDP の操作環境]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|------------------------|---|
| MMR を有効にする | マルチメディアリダイレクトを有効にします |
| 接続速度を選択してパフォーマンスを最適化する | 接続速度（ 【LAN】 、 【ブロードバンド】 、または 【モデム】 ）を選択すると、パフォーマンスを最適化するために以下のオプションが有効または無効になります <ul style="list-style-type: none"> • 【デスクトップの背景】 • 【フォントスムージング】 • 【デスクトップ構成】 • 【ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する】 • 【メニューとウィンドウのアニメーション】 • 【テーマ】 【クライアントの推奨設定】 を選択すると、VMware Horizon View クライアントは使用するオプションを選択できます ユーザー独自のカスタムオプションの組み合わせを選択することもできます |
| エンドツーエンド接続の状態監視 | 選択するとタイムアウトオプションが有効になります |

| オプション | 説明 |
|-----------|--|
| 警告タイムアウト | <p>サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、接続が失われたことがユーザーに警告されるまでの時間を秒単位で指定します。この機能を無効にするには、そのオプションをクリアするか、時間をゼロに設定します</p> <p>[警告ダイアログの表示]オプションを選択すると、このタイムアウトの時間になったときに警告ダイアログが表示されます。そうでない場合、警告は接続ログにのみ書き込まれます</p> <p>ヒント: ビジー状態や一時的な停止が頻繁に発生するネットワークでは、タイムアウト値を大きくすることをおすすめします</p> |
| 回復タイムアウト | <p>サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、RDPクライアントで特別な操作をしないで接続回復を実行するまで待機する時間を秒単位で指定します。この時間が終了すると、RDPクライアントはそのセッションとの迅速な再接続を試みます</p> |
| エラータイムアウト | <p>サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、RDPクライアントでそのサーバーとの再接続の試みが中止されるまで待機する時間を秒単位で指定します</p> <p>ヒント: 詳しくは、このフィールドの横にある[?]アイコンを選択してください</p> |

詳細設定

 **注記:** 接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[7 ページの接続の詳細設定](#)を参照してください。

VMware Horizon View でのマルチモニター セッション

VMware Horizon View は、マルチモニター セッションをサポートします。仮想化環境を向上させるため、初期設定の VMware Horizon View セッションは全画面を使用し、すべてのモニターにまたがって表示されます。異なったウィンドウサイズを選択するには、接続のデスクトッププールのプロトコルタイプで、**[フルスクリーン - すべてのモニター]**を選択してから、ウィンドウのサイズのリストから別のオプションを選択します。次回セッションに接続するときは、ここで選択したサイズのウィンドウが開きます。

VMware Horizon View のキーボードショートカット

Windows のキーボードショートカット

Windows システムの管理を容易にするため、VMware Horizon View は Windows のキーボードショートカットをサポートしています。たとえば、VMware Horizon View で **Ctrl + Alt + Del** を使用すると、以下のオプションを提供するメッセージが表示されます。

- **Ctrl + Alt + Del** コマンドを送る
- セッションを切断：他にセッションを終了する方法がないときに使用します。

Windows のキーボードショートカットは、リモートデスクトップセッションに転送されます。リモートセッション内では、**Ctrl + Alt + Tab** や **Ctrl + Alt + F4** のようなローカルのキーボードショートカットは機能しません。

 **ヒント:** セッションを切り替えるには、VMware Horizon View 接続マネージャーで**[上部メニューバーを非表示にする]**オプションを無効にするか、レジストリキー `root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/hideMenuBar` によってそのオプションを無効にします。

メディアキー

VMware Horizon View は、リモートデスクトップセッション中にメディアキーを使用して、音量、再生/一時停止、ミュート（消音）などのオプションを制御します。Windows Media Player などのマルチメディアプログラムもサポートされます。

VMware Horizon View でのマルチメディアリダイレクト

VMware Horizon View 接続は、Microsoft RDP プロトコルと同時に使用するとき、MMR 機能をサポートします。

詳しくは、[21 ページの RDP でのマルチメディアリダイレクト](#)を参照してください。

VMware Horizon View でのデバイスリダイレクト

VMware Horizon View での USB リダイレクト

VMware Horizon View 接続で USBR を有効にするには、[USB マネージャー]で、リモートプロトコルとして[VMware Horizon View]を選択します。

デバイスおよびクラス固有のリダイレクトなど USBR について詳しくは、[21 ページの RDP での USB リダイレクト](#)を参照してください。

VMware Horizon View での大容量記憶装置のリダイレクト

VMware Horizon View 接続で大容量記憶装置リダイレクトを使用するには、RDP 接続プロトコルを使用する必要があります。

USB ドライブまたは内蔵 SATA ドライブのドライブリダイレクトを実行するには、以下の操作を行います。

- ▲ コマンドライン引数のオプションで `- xfreerdoptions=' /drive:$foldname,shared folder path, share device'` を追加します

たとえば、`-xfreerdoptions=' /drive:myfolder,/home/user,/dev/sda2'` を追加すると、`/dev/sda2` ドライブ上の `/home/user` が VMware Horizon View 接続の `myfolder` として共有されます。

詳しくは、[22 ページの RDP での大容量記憶装置のリダイレクト](#)を参照してください。

VMware Horizon View でのプリンターリダイレクト

PCoIP プロトコルを使用して確立された接続では、VMware Horizon View の高レベルのプリンターリダイレクトまたは USBR を使用してプリンターを共有できます。ARM ユニットでの PCoIP 接続では、USBR プリンターリダイレクトのみがサポートされています。RDP プロトコルで作成された接続の場合、詳しくは[23 ページの RDP でのプリンターリダイレクト](#)を参照してください。

VMware Horizon View でのオーディオリダイレクト

オーディオ録音機能が不要な場合は、高レベルオーディオリダイレクトを使用します。オーディオは 3.5 mm コネクタから出力されます。USB ヘッドセットを接続すれば、初期設定で USB ヘッドセットから出力されます。ローカルのオーディオマネージャーを使用して入出力レベルを調節し、再生デバイスとキャプチャデバイスを選択します。

VMware Horizon View クライアントでは、VMware Horizon View 5.2 Feature Pack 2 以降が動作しているサーバーへの接続時に、x86 ユニットでの PCoIP 接続インターフェイスによる高レベルのオーディオ録音リダイレクトのみをサポートしています。オーディオ録音のサポートが必要なときに、別の構成を使用している場合は、以下のどちらかの方法を使用してください。

- VMware Horizon View Client 1.7 以上を使用している場合は、RDP プロトコルを使用して、3.5 mm コネクタまたは USB ヘッドセットから高レベルオーディオリダイレクトを行います。

 **注記：**RDP プロトコルを使用して高レベルオーディオ録音リダイレクトを行うには、サーバーが高レベルオーディオ録音リダイレクトをサポートしていて、リモートセッションでオーディオ録音を許可する設定になっている必要があります。サーバーは Windows 7 以上を実行している必要があります。さらに、HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Terminal Server\WinStations\RDP-Tcp\DisableAudioCapture レジストリ キーが 0 に設定されていることを確認する必要があります。

- USB ヘッドセットにマイクが搭載されている場合は、USB-R を使用できます。セッションにリダイレクトされるよう USB ヘッドセットを設定します。ヘッドセットはオーディオデバイスとして表示されます。初期設定では、USB オーディオ デバイスはリダイレクトされず、VMware Horizon View クライアントは高レベルオーディオリダイレクトを使用します。USB ヘッドセットをリダイレクトするには、Thin Client の USB マネージャーを使用し、USB ヘッドセットがリダイレクトされるよう設定します。**[VMware Horizon View]**が USB-R プロトコルとして選択され、リダイレクト対象のデバイスとしてヘッドセットが選択されていることを確認してください。

 **注記：**VMware および HP は、ヘッドセットで USB-R を使用することを推奨していません。USB-R プロトコルを使用してオーディオデータのストリーミングを行うには、大容量のネットワーク帯域幅が必要です。また、オーディオ品質が低くなる可能性もあります。

VMware Horizon View でのスマートカードのリダイレクト

スマートカードを使用して VMware Horizon View サーバーにログインするには、以下の操作を行います。

1. スマートカードログインが VMware Horizon View 接続マネージャーで有効になっていることを確認します。

接続を開始すると、VMware Horizon View Client にサーバー資格情報のリストが表示されます。

2. 資格情報のロックを解除して VMware Horizon View Manager サーバーにアクセスするには、サーバーの適切な PIN を入力します。

 **注記：**正しい PIN を入力すると、ユーザーの資格情報を使用して、VMware Horizon View Manager サーバーにログインします。スマートカードログインをサポートするためのサーバーの設定について詳しくは、VMware Horizon View の説明書を参照してください。サーバーがスマートカードログインを許可する設定になっている限り、ユーザーの資格情報が自動的に渡されるため、PIN を再入力しなくてもデスクトップにログインします。

 **注記：**VMware Horizon View Manager 管理サーバーにスマートカードでログインするには、Thin Client にローカルのスマートカードドライバーをインストールしておく必要があります。スマートカードドライバーのインストールについて詳しくは、[24 ページの RDP でのスマートカードのリダイレクト](#)を参照してください。リモートホストにログインすると、USB-R ではなく仮想チャネルによってリモートホストにスマートカードが渡されます。この仮想チャネルリダイレクトにより、電子メール署名、画面ロックなどのタスクにスマートカードを使用できますが、このスマートカードは、Windows の[デバイス マネージャー]にスマートカードデバイスとして表示されない可能性があります。

 **注記：**リモートホストには、適切なスマートカードドライバーをインストールしておく必要があります。

VMware Horizon View での Web カメラ リダイレクト

VMware Horizon View クライアントでは、高レベルの Web カメラ リダイレクトがサポートされます。このリダイレクトは、VMware Horizon View 5.2 Feature Pack 2 以降が動作しているバックエンドサーバーに接続されている、x86 ユニットを使用した RTAV による場合にのみサポートされます。その他の接続方法では高レベルの Web カメラ リダイレクトをサポートしていないため、USB を使用した Web カメラのリダイレクトのみを行えます。HP では、内部テストおよび検証に基づいて、基本的な USB 経由で接続された Web カメラのパフォーマンスが良好でないことを確認しました。HP では、この構成の使用を推奨しておらず、この機能を必要とするお客様には、RTAV テクノロジーを持つ x86 ユニットを使ったテストを実行してパフォーマンスの満足度を確認するようおすすめしています。USB を使用すると、Web カメラがうまく動作しないか、まったく動作しない場合があります。詳しくは、[21 ページの RDP での USB リダイレクト](#)を参照してください。

VMware Horizon View プロトコルの変更

VMware Horizon View クライアントでは、PCoIP、RDP、または BLAST プロトコルを使用できます。

プロトコルを変更するには、以下の操作を行います。

1. VMware Horizon View クライアントで、利用可能などれかのプロトコルをサポートするプールを選択します。
2. **[接続]**メニューで、**[設定]**を選択します。
3. **[Connect Via]** (接続方法) の横にあるドロップダウン ボックスを使用して、プロトコルを変更します。

 **注記** : VMware Horizon View Manager を使用して、各デスクトッププールでどのプロトコルが使用されるようにするかを設定します。

 **ヒント** : デスクトップ環境を向上させるために PCoIP プロトコルを使用することをおすすめします。ただし、RDP プロトコルにはカスタマイズ用のオプションがさらに用意されており、低速の接続でも動作が向上する場合があります。

VMware Horizon View の HTTPS および証明書管理の要件

VMware Horizon View Client 1.5 および VMware Horizon View Server 5.0 以上には、HTTPS が必要です。初期設定では、VMware Horizon View Client は、自己署名証明書 (たとえば、VMware Horizon View Manager の初期設定の証明書) や期限切れの証明書のような、信頼されていないサーバー証明書を警告します。証明書を認証局 (CA) の署名があっても、その CA が信頼されていない場合、接続エラーになり、ユーザーは接続を許可されません。

VMware Horizon View Manager サーバーでは、標準の信頼されているルート CA によって検証された署名済み証明書を使用することをおすすめします。このような証明書を使用すると、ユーザーは、確認や特別な設定なしでサーバーに接続できます。内部 CA を使用する場合、以下のタスクのうちどれかが完了するまで、VMware Horizon View Client 接続はエラーになります。

- 証明書マネージャーを使用して、ファイルまたは URL から証明書をインポートします。
- リモートプロファイル更新を使用して、証明書をインポートします。
- VMware Horizon View 接続マネージャーで、**[接続のセキュリティ レベル]**を**[すべての接続を許可する]**に設定します。

以下の表では、セキュリティ レベルが**[安全でない接続を拒否する]**に設定されているときの証明書の信頼度について説明します。

| 証明書の信頼度 | 判定 |
|---------|-------|
| 信頼できる | 信頼できる |
| 自己署名 | エラー |
| 期限切れ | エラー |
| 信頼できない | エラー |

以下の表では、セキュリティレベルが**[警告]**に設定されているときの証明書の信頼度について説明します。

| 証明書の信頼度 | 判定 |
|---------|-------|
| 信頼できる | 信頼できる |
| 自己署名 | 警告 |
| 期限切れ | 警告 |
| 信頼できない | エラー |

以下の表では、セキュリティレベルが**[すべての接続を許可する]**に設定されているときの証明書の信頼度について説明します。

| 証明書の信頼度 | 判定 |
|---------|--------|
| 信頼できる | 信頼できる |
| 自己署名 | 信頼できない |
| 期限切れ | 信頼できない |
| 信頼できない | 信頼できない |

以下の表では、それぞれの判定に対応した接続動作について説明します。

| 判定 | 説明 |
|--------|--|
| 信頼できる | 証明書警告ダイアログ表示しないで接続し、緑色の施錠されたアイコンを表示します |
| 信頼できない | 証明書警告ダイアログ表示しないで接続し、赤色の解錠されたアイコンを表示します |
| 警告 | 証明書警告ダイアログ表示して接続し、赤色の解錠されたアイコンを表示します |
| エラー | 接続を許可しません |

Web Browser

Web Browser の全般設定

以下の表では、Web Browser の全般設定について説明します。

 **注記**：これらの設定はすべての Web Browser 接続に影響します。

| 項目 | 説明 |
|------------------------|--|
| Web ブラウザー設定 | [Firefox Preferences] (Firefox 設定) ダイアログを開きます |
| 接続ごとに個別の設定を保存することを許可する | 有効にすると、Web Browser 接続ごとに Firefox 設定が保存されます。それ以外の場合は、接続が起動されるたびに設定がリセットされます |

Web Browser の接続ごとの設定

 **注記**：これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

構成

以下の表では、Web Browser 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| 項目 | 説明 |
|---------------|---|
| 名前 | 接続の名前 |
| URL | 接続の URL |
| 使用目的 | 接続の使用目的を、 [Citrix] 、 [RDP] 、または [インターネット] に設定します |
| キオスクモードを有効にする | キオスクモードを有効にします |
| 全画面表示を有効にする | 接続に全画面表示モードを使用します |
| 印刷ダイアログを有効にする | 印刷ダイアログボックスを有効にします |

詳細設定

 **注記**：接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[7 ページの接続の詳細設定](#)を参照してください。

その他の接続インターフェイス（HP ThinPro のみ）

 **注記：**初期設定では、これらの接続インターフェイスは HP Smart Zero で利用できません。詳しくは、1 ページの [OS 構成の選択](#) を参照してください。

TeemTalk

 **注記：**これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

HP TeemTalk について詳しくは、HP TeemTalk のユーザー ガイドを参照してください。

構成

以下の表では、TeemTalk 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|------------------|--|
| 名前 | 接続の名前 |
| TeemTalk 作成ウィザード | TeemTalk セッションウィザードを開きます。詳しくは、このセクションの他の表を参照してください |
| システム ビープを鳴らす | システム警告音を有効にします |

TeemTalk セッションウィザード

以下の表では、TeemTalk セッションウィザードの[接続情報]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|----------|--|
| セッション名 | セッションの名前 |
| トランスポート | 接続に使用するネットワーク送信の種類。設定可能な値は次のとおりです：[TCP/IP]、[シリアル]、[SSH2]、[SSL] |
| 接続 | 使用する接続方法。ボタンを使用して接続の詳細設定オプションを設定できます |
| エミュレーション | 次のエミュレーションタイプがあります：[hp70092]、[IBM 3151]、[IBM3270 ディスプレイ]、[IBM3270 プリンター]、[IBM5250 ディスプレイ]、[IBM5250 プリンター]、[MD Prism]、[TA6530]、[VT シリーズ]、[Wyse] |

以下の表では、TeemTalk セッションウィザードの[詳細設定オプション]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|----------------|-------------------------------|
| エミュレーション プリンター | HP TeemTalk のエミュレーション プリンター設定 |
| 自動ログオン | HP TeemTalk の自動ログイン設定 |
| キー マクロ | HP TeemTalk のキー マクロ設定 |
| マウス動作 | HP TeemTalk のマウス動作設定 |

| オプション | 説明 |
|---------|-------------------------|
| ソフト ボタン | HP TeemTalk のソフト ボタン設定 |
| 属性 | HP TeemTalk の属性設定 |
| AUX ポート | HP TeemTalk の AUX ポート設定 |
| ホットスポット | HP TeemTalk のホットスポット設定 |

以下の表では、TeemTalk セッション ウィザードの[設定]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|-----------------|---------------------|
| 開始セッションが接続されました | 接続された状態でセッションを開始します |
| ステータスバーを表示する | この接続のステータスバーを表示します |

以下の表では、TeemTalk セッション ウィザードの[設定]カテゴリで使用できる追加設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|-----------------|--|
| 設定バーを表示 | 設定バーを表示します |
| 現在のウィンドウ位置を保存 | <p>【設定を保存】を選択したときに現在のウィンドウのサイズおよび位置が保存され、次回起動したときに復元されます</p> <p>注記：ウィンドウのサイズや位置を更新した場合は、【設定を保存】を選択すると新しい値が保存されます</p> |
| 全画面表示モードで実行 | <p>ウィンドウのフレーム、ソフト ボタン、メニュー バー、および設定バーを非表示にして、全画面表示モードにします</p> <p>注記：このオプションは次回の起動に伴って、【設定バーを表示】および【現在のウィンドウ位置を保存】オプションが上書きされるまで有効になりません</p> |
| ブラウザ コマンド | <p>ボックス内に、Web ブラウザーを実行するコマンドを以下のように入力します</p> <pre>/ display html links Firefox</pre> |
| コマンドラインの起動オプション | <p>起動オプションの別の場所を指定します</p> <p>注記：HP TeemTalk コマンドライン起動オプションについて詳しくは、HP TeemTalk ターミナルエミュレーターの『ユーザー ガイド』を参照してください</p> |

詳細設定

 **注記：**接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[7 ページの接続の詳細設定](#)を参照してください。

XDMCP

 **注記**：これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

構成

以下の表では、XDMCP 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| 項目 | 説明 |
|---------------|--|
| 名前 | 接続の名前 |
| 種類 | XDMCP 接続の種類。設定可能な値は次のとおりです： [選択] 、 [クエリ] 、 [ブロードキャスト] |
| アドレス | このオプションは、 [種類] が [クエリ] に設定されている場合に指定する必要があります |
| フォントサーバーを使用する | ローカルにインストールされているフォントではなく、リモートの X フォントサーバーを使用します |
| フォントサーバー | [フォントサーバーを使用する] を選択した場合は、フォントサーバーを指定します |
| ディスプレイの設定 | 接続のディスプレイ設定を指定するときに選択します。この設定を行わない場合は、初期設定が使用されます |

詳細設定

 **注記**：接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[7 ページの接続の詳細設定](#)を参照してください。

SSH

 **注記**：これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

構成

以下の表では、SSH 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| オプション | 説明 |
|-------------|--|
| 名前 | 接続の名前 |
| アドレス | リモートシステムの IP アドレス |
| ポート | 接続に使用するリモートポート |
| ユーザー名 | 接続に使用するユーザー名 |
| アプリケーションの実行 | 接続するために実行するアプリケーション |
| 圧縮 | サーバーと Thin Client の間で送信されるデータを圧縮するには、このオプションを選択します |

| オプション | 説明 |
|----------------|--|
| X11 接続の転送 | サーバー上に X Server が存在するときはこのオプションを選択すると、ユーザーは SSH セッションからユーザー インターフェイスを起動し、Thin Client でユーザー インターフェイスをローカル表示できるようになります |
| TTY を強制的に割り当てる | このオプションを選択してコマンドを指定すると、一時的なセッションが開始されてコマンドが実行されます。コマンドが完了すると、セッションが終了します。コマンドを指定しないと、セッションはオプションを選択しなかった場合と同様に正常に動作します |
| 前景色 | SSH セッションでのテキストの初期設定の色です |
| 背景色 | SSH セッションでの背景の初期設定の色です |
| フォント | 設定可能な値は次のとおりです : [7X14]、[5X7]、[5X8]、[6X9]、[6X12]、[7X13]、[8X13]、[8X16]、[9X15]、[10X20]、[12X24] |

詳細設定

 **注記** : 接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[7 ページの接続の詳細設定](#)を参照してください。

Telnet

 **注記** : これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

構成

以下の表では、Telnet 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| 項目 | 説明 |
|------|---|
| 名前 | 接続の名前 |
| アドレス | リモートシステムの IP アドレス |
| ポート | リモートシステムで使用するポート |
| 前景色 | 前景の色 |
| 背景色 | 背景の色 |
| フォント | 設定可能な値は次のとおりです : [7X14]、[5X7]、[5X8]、[6X9]、[6X12]、[6X13]、[7X13]、[8X13]、[8X16]、[9X15]、[10X20]、[12X24] |

詳細設定

 **注記** : 接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[7 ページの接続の詳細設定](#)を参照してください。

Custom

独自の Linux®アプリケーションをインストールする場合、Custom 接続を使用すると接続マネージャーからそのアプリケーションを起動できるようになります。

 **注記**：これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

構成

以下の表では、Custom 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

| 項目 | 説明 |
|-------------------|---------------------|
| 名前 | 接続の名前 |
| 実行するコマンドを入力してください | リモート接続するために実行するコマンド |

詳細設定

 **注記**：接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[7 ページの接続の詳細設定](#)を参照してください。

5 HP True Graphics

HP True Graphics は、リッチ マルチメディア コンテンツを Thin Client の GPU にオフロードすることで、フレームレートの高い画像を提供し、効率を高めます。

サーバー側の要件

VDI (Virtual Desktop Infrastructure) で使用する ISV (Independent Software Vendor) のサポートされるサーバー側製品一覧については、以下の表を参照してください。

| ISV | サポートされる製品 |
|---------|--|
| Citrix® | XenApp®/XenDesktop® 7.0 以降 重要: Citrix サーバーが H.264 フォーマット (SuperCodec と呼ばれる Citrix テクノロジー) でのセッションデータの送信をサポートしていることが必要です。H.264 は初期設定で有効になっていて、CPU ベースの圧縮アルゴリズムである DeepCompressionV2 エンコーダーで処理されます |
| VMware® | VMware Horizon™ 6.0 以降 VMware Horizon View™ 5.2 および 5.3 VMware View® 5.1 |

クライアント側の要件

VDI で使用する ISV のサポートされる Thin Client オペレーティングシステムおよびサポートされるクライアント側ソフトウェアの一覧については、以下の表を参照してください。

| サポートされるオペレーティングシステム | サポートされる Citrix クライアント | サポートされる VMware クライアント |
|---------------------|---|---|
| HP ThinPro 5.0 以降 | Citrix Receiver 13.1.1 以降 注記: HP True Graphics をサポートするバージョンの Citrix Receiver が、HP ThinPro 5.2 以降ではプリインストールされており、HP ThinPro 5.0 および 5.1 についてはアドオンとして入手できます | VMware Horizon Client 4.0 以降 (Blast プロトコルを使用) |

クライアント側の構成

 **注記:** このセクションの情報は、Citrix にのみ適用されます。VMware の場合は、Blast プロトコルを使用して HP True Graphics を有効にしてください。

圧縮設定

HP ThinPro で HP True Graphics を有効にするには、以下の操作を行います。

- ▲ Citrix 接続用の[H264 圧縮を有効にする]全般設定を選択します。

 **注記**：テキストなど一部の画面データは、H.264 以外の方式で送信される場合があります。通常は、この機能を有効にしておくことをおすすめします。ただし、問題を解決したり特定の利用状況に対応したりするために次のレジストリ キーを【0】に設定して、この機能を無効にすることもできます。

- `root/ConnectionType/xen/general/enableTextTracking`
- `root/ConnectionType/xen/general/enableSmallFrames`

ウィンドウ設定

リモートアプリケーションをウィンドウ モードで強制的に実行するには、以下の操作を行います。

- ▲ Citrix 接続用の[TWI モード]全般設定を[シームレスを強制的にオフにする]に設定します。

モニター レイアウトおよびハードウェアの制限

モニター レイアウトの以下の制限に注意してください。

- 解像度が 1920×1200 までのモニターを 2 台まで接続した構成であれば、ほとんどの構成がサポートされます。
- HP t420 Thin Client：BIOS の初期設定により、このモデルでは初期設定で HP True Graphics を 1 台のモニターに対してのみ使用します。詳しくは、[40 ページの HP t420 の複数モニターでの HP True Graphics の有効化](#)を参照してください。
- HP t630 Thin Client：このモデルは、解像度が 1920×1200 までのモニターを 2 台まで、または解像度が 3840×2160 までのモニターを 1 台までサポートします。
- HP t730 Thin Client：このモデルは、解像度が 1920×1200 までのモニターを 3 台までサポートします。
- モニターを回転すると、正しく表示されない場合があります。
- HP True Graphics をモニター 2 台で使用し、HDX MediaStream を使用してビデオを再生しようとすると、ビデオは表示されません。これは H.264 が 2 つのハードウェアデコードセッションしかサポートせず、2 つのセッションがモニターによって使用されているためです。

 **注記**：HDX MediaStream は、ローカルの H.264 ハードウェアデコードも使用しようとするために、この問題が発生します。

HP t420 の複数モニターでの HP True Graphics の有効化

HP True Graphics を HP t420 の複数のモニターで有効にするには、以下の操作を行います。

1. Thin Client を再起動し、F10 キーを押して BIOS にアクセスします。
2. **[詳細設定]**→**[内蔵グラフィックス]**の順に選択します。
3. **[内蔵グラフィックス]**を**[強制]**に設定します。
4. **[UMA フレームバッファ サイズ]**を**[512 MB]**に設定します。

これらの手順を実行すると、グラフィックスに利用できるメモリの容量が増え、HP True Graphics を 2 台のモニターで使用できるようになります。

 **ヒント:** これらの設定は[HPDM]で設定するか、HP ThinPro に付属の BIOS ツールで設定することもできます。

ヒントおよびベスト プラクティス

HP True Graphics を使用するとき、以下の点に注意してください。

- リモートデスクトップに接続後、セッションで使用されているエンコーダーは、Citrix デスクトップで起動した Citrix HDX Monitor のホーム画面から**[グラフィックス - Thinwire Advanced]**セッションの下に表示される**[Component_Encoder]**の値で確認できます。値が**[DeepCompressionV2Encoder]**または**[DeepCompressionEncoder]**である場合、サーバーは HP True Graphics で高速化されたフォーマットでデータを正しく送信しています。
-  **注記:** CompatibilityEncoder や LegacyEncoder などのレガシーグラフィックスを使用するようにサーバー ポリシーで強制されている場合、サーバーは古いバージョンの Citrix クライアントに対応した方式でグラフィックスを圧縮しており、HP True Graphics によってパフォーマンスが向上することはありません。
- HDX 3D Pro を使用している場合、HP True Graphics は古いバージョンの XenDesktop にもメリットがある場合があります。HDX 3D Pro の画質が**[常に無損失]**に設定されている場合、グラフィックス情報が H.264 フォーマットで Thin Client に送信されないため、HDX True Graphics を使用してもメリットはありません。

6 Active Directory 統合

Active Directory 統合を使用すると、強制的にユーザーがドメイン資格情報を使用して Thin Client にログインすることができます。必要に応じて、資格情報を暗号化して保存し、後でリモート接続を開始するときに使用できます。これは、シングルサインオンと呼ばれるプロセスです。

 **注記：** 認証を有効にするために特別なドメイン権限は必要ありません。

Active Directory 統合が機能するモードは 2 つあります。ドメインに対する認証を有効にするだけで、以下の操作でドメイン資格情報を使用できます。

- Thin Client にログインする
- シングルサインオンを使用して接続を開始する
- 管理者資格情報を使用して管理者モードに切り替える
- ログイン資格情報を使用して、画面のロックを解除する
- 管理者資格情報を使用して、ロックされた画面を上書きする

また、Thin Client を正式にドメインに参加させることもできます。これにより、Thin Client がドメインのデータベースに追加され、動的 DNS を有効にすることもできます。その場合、Thin Client は IP アドレスまたはホスト名の関連付けの変更を DNS サーバーに通知します。ドメイン認証とは異なり、正式な参加には、ドメインにクライアントを追加する権限のあるドメインユーザーの資格情報が必要です。ドメインへの参加は必須ではありません。参加しなくても、動的 DNS 以外のドメインの機能をすべて使用できます。

ログイン画面

ドメイン認証を有効にすると、HP ThinPro は起動時にドメインのログイン画面を表示します。ログイン画面には、ログイン前に設定が必要な場合があるオプションも表示されます。

デスクトップの背景のレイアウト、ログインダイアログのスタイル、ログインダイアログのテキスト、および使用可能なボタンはすべて、レジストリの設定または構成ファイルの設定で調整できます。詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『Login Screen Customization』（ログイン画面のカスタマイズ）（英語版）を参照してください。

ユーザーが有効期限の切れた資格情報でログインしようとしたことが検出された場合、ユーザーは資格情報を更新するよう求められます。

シングルサインオン

ドメインユーザーがログインした後、ログインに使用した資格情報を使用するように構成されている接続の開始時に、その情報を提供することもできます。これにより、ユーザーは Thin Client にログインしている限り、資格情報を再度入力しなくても Citrix、VMware Horizon View、および RDP のセッションを開始できます。

デスクトップ

ユーザーがドメイン資格情報を使用して正常にログインすると、Active Directory のアイコンがタスクバーで使用できるようになります。ユーザーは、そのアイコンを選択して、以下の機能を実行できます。

- システムにログインしているユーザーの表示
- 画面のロック
- ドメインパスワードの変更

画面のロック

画面は、無操作状態によるタイムアウトでロックされるほか、手動でロックすることもできます。画面がドメインユーザーによってロックされた場合、ロック解除のダイアログでは、ユーザーがログインに使用したのと同じドメインパスワードを入力するよう求められます。ログインダイアログと同様、オプションが表示され、追加で画面のロック解除の機能も利用できます。画面のロック解除のボタンを選択した場合、ロック解除の画面では、代わりに root（管理者）パスワード、またはドメイン認証の設定時に指定したドメイン管理者グループに属するドメイン資格情報が必要です。ユーザーがロックを解除できる資格情報を入力すると、画面はデスクトップに戻るのではなく、ログイン画面に戻ります。

管理者モード

root パスワードを使用して管理者モードに切り替えるという従来の方法に加えて、指定したドメイン管理者グループのユーザーのドメイン資格情報を使用して管理者モードに切り替えることができます。

設定およびドメインユーザー

ドメインユーザーがログインしている場合は、接続の新規作成を含む設定の変更は、そのユーザーだけに適用されるレジストリレイヤーに保存されます。

ユーザーがシステム設定または接続に変更を加えなかった場合は、代わりにシステムの初期設定が適用されます。

システムを管理者モードに変更すると、設定および接続の変更は、レジストリのユーザー固有のレイヤーに保存されなくなります。代わりに、管理者モードでは、すべての変更がベースレベルのレジストリに適用されます。これにより、すでに指定されているユーザー固有のカスタム設定がなければ、管理者モードでの設定の変更がすべてのユーザーに適用されます。

7 コントロールパネル

[コントロールパネル]を使用して、システム構成を変更できます。

 **注記:** 管理者モードでは、[コントロールパネル]のすべての項目にアクセスできます。ユーザーモードでは、管理者によってユーザーが使用できるように設定された項目にのみアクセスできます。

 **ヒント:** エンドユーザーがアクセスできる[コントロールパネル]の項目を指定するには、[コントロールパネル]ボタン→[セットアップ]→[ThinPro の構成]の順に選択し、[アプリケーション]リストで項目を選択または選択解除します。

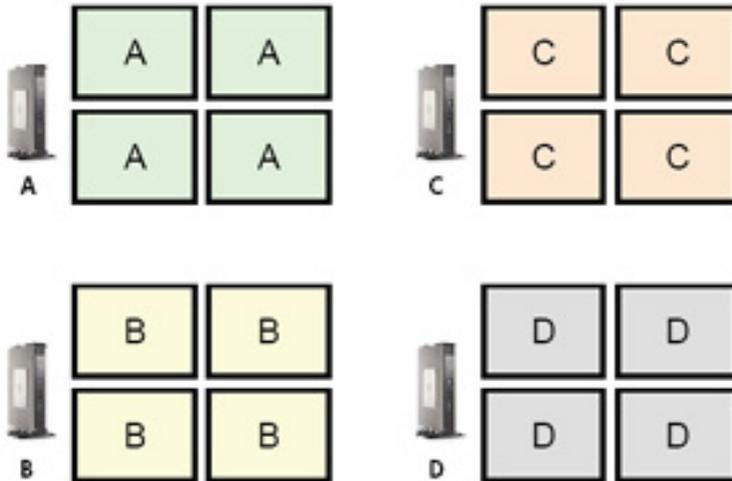
周辺機器

| メニュー オプション | 説明 |
|----------------|---|
| クライアントアグリゲーション | Thin Client をつないで追加の画面領域を作成します 詳しくは、 45 ページのクライアントアグリゲーション を参照してください |
| ディスプレイの設定 | ディスプレイのオプションを設定してテストします 詳しくは、 47 ページのディスプレイの設定 を参照してください |
| キーボードレイアウト | キーボードレイアウトを、キーボードによって使用されている言語に合うように変更します |
| サウンド | 再生および入力音量レベルを調整します |
| マウス | マウスの速度、およびマウスを右きき用と左きき用のどちらにするかを設定します タッチパッドが搭載された Thin Client では、このメニュー オプションを使用してタッチパッドの有効/無効の設定も行います |
| プリンター | ローカル プリンターおよびネットワーク プリンターを設定します。ローカル プリンターは、ネットワークを介して共有できます 詳しくは、 48 ページのプリンターの設定 を参照してください |
| タッチ スクリーン | タッチ スクリーンのオプションを設定します |
| USB マネージャー | USB デバイスのリダイレクト オプションを設定します 詳しくは、 49 ページの USB デバイスのリダイレクト を参照してください |
| SCIM 入力メソッドの設定 | Smart Common Input Method (SCIM) を中国語、日本語、および韓国語の入力用に設定します このオープンソースプログラムについて詳しくは、 http://sourceforge.net/apps/mediawiki/scim/index.php?title=Main_Page/ (英語サイト) を参照してください |

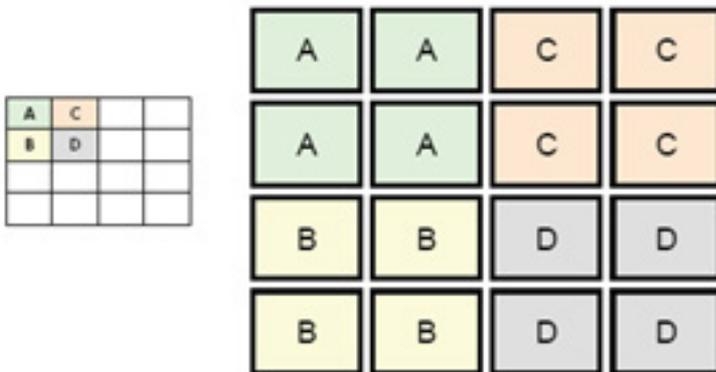
クライアントアグリゲーション

HP ThinPro ベースの Thin Client は、ハードウェアモデルに応じて、最大で 4 台のモニターをサポートします。追加の画面領域が必要な場合は、クライアントアグリゲーションを使用することによって、ハードウェアまたはソフトウェアを追加しなくても、最大で 4 台の Thin Client をつないで合計 16 台のモニターを 1 つのキーボードおよびマウスで制御できます。

以下に示すように、それぞれに 4 台のモニターが 2×2 の配列で構成されている 4 台の Thin Client があると仮定します。

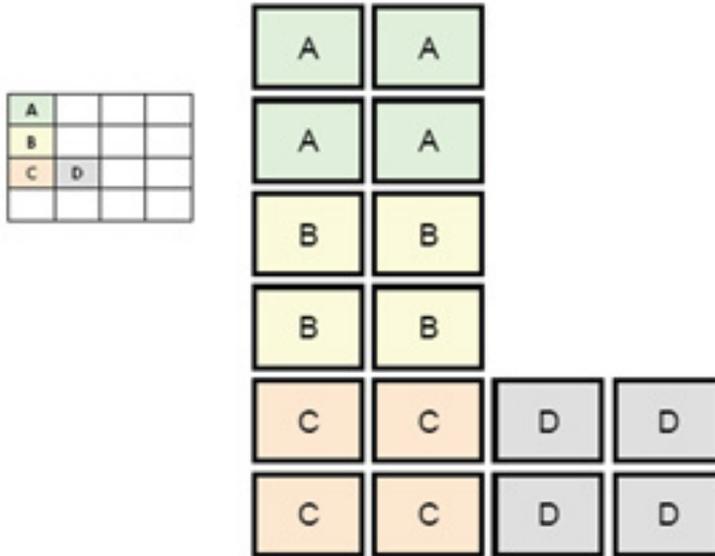


クライアントアグリゲーションを使用すると、4 台の Thin Client を 4×4 のグリッド上に配置できます。以下の図は、考えられる配置の一例を示しています。



たとえば、Thin Client A のモニターの右側からさらに右にマウスポインターを移動すると、そのポインターが Thin Client C のモニターの左側に表示されます。同様に、キーボード入力も Thin Client A から Thin Client C にリダイレクトされます。

以下の図は、別の考えられる配置例を示しています。



この構成では、マウスポインターを Thin Client A のモニターの右側からさらに右に移動すると、そのポインターが Thin Client D のモニターの左側の上 1/3 の領域に表示されます。同様に、マウスポインターを Thin Client B のモニターの右側からさらに右に移動すると、そのポインターは Thin Client D のモニターの左側の中央 1/3 の領域に表示されます。最後に、マウスポインターを Thin Client C のモニターの右側からさらに右に移動すると、ポインターは Thin Client D のモニターの左側の下 1/3 の領域に表示されます。

注記： デスクトップウィンドウは、各 Thin Client をまたいで表示したり、Thin Client 間で移動したりすることはできません。通常、各 Thin Client は関連付けられたリモートコンピューターへの接続に基づいてウィンドウを作成するため、Thin Client 間でウィンドウを移動する必要がありません。

キーボードおよびマウスが物理的に接続されている Thin Client をアグリゲーションサーバーと呼びます。他の Thin Client をアグリゲーションクライアントと呼びます。マウスポインターがどれかのアグリゲーションクライアント上に存在する場合、それらのアグリゲーションサーバーからのマウスおよびキーボードの入力は暗号化され、そのアグリゲーションクライアントにネットワーク経由で送信されます。アグリゲーションクライアントは、それらのマウスおよびキーボードの入力の暗号化を解除して、アグリゲーションクライアントのローカルデスクトップに渡します。

クライアントアグリゲーションは、[Synergy]と呼ばれるオープンソースソフトウェアパッケージに基づいており、その暗号化は[stunnel]と呼ばれるパッケージによって提供されます。

クライアントアグリゲーションの設定

クライアントアグリゲーションを設定するには、以下の2つの処理を行います。

1. [46 ページのアグリゲーションクライアントの設定](#)
2. [47 ページのアグリゲーションサーバーの設定](#)

アグリゲーションクライアントの設定

各アグリゲーションクライアントで、以下の操作を行います。

1. [コントロールパネル]で[周辺機器]→[クライアントアグリゲーション]の順に選択します。
2. [クライアント]を選択します。

3. フィールドにアグリゲーションサーバーのサーバーホスト名またはIPアドレスを入力します。
4. **【適用】**を選択します。

アグリゲーションサーバーの設定

アグリゲーションサーバーを設定するには、以下の操作を行います。

1. [コントロールパネル]で**【周辺機器】**→**【クライアントアグリゲーション】**の順に選択します。
2. **【サーバー】**を選択します。
3. アグリゲーションサーバーが、そのホスト名を含む青色のボックスに表示されます。アグリゲーションサーバーを選択してから、4×4のグリッド内の目的の場所にドラッグします。
4. 4×4のグリッド内で、最初のアグリゲーションクライアントを配置する場所を選択し、そのホスト名またはIPアドレスを入力して、**Enter** キーを押します。アグリゲーションクライアントが緑色のボックスに表示されます。
5. 必要に応じて、最大で2台の追加アグリゲーションクライアントを4×4のグリッド内に追加します。

4×4のグリッド内のアグリゲーションサーバーおよびアグリゲーションクライアントの配置は、対応するボックスをクリックしてから新しい場所にドラッグすることによって、いつでも変更できます。

アグリゲーションクライアントおよびアグリゲーションサーバーを設定すると、暗号化された相互の通信を自動的に確立しようとします。コンピューター間の接続状態を表示するには、**【ステータス】**を選択します。

ディスプレイの設定

HP ThinPro を使用すると、ディスプレイ設定用のプロファイルを作成したり、異なるプロファイルを異なるモニターに適用したりできます。プロファイルには、解像度、リフレッシュレート、ビット深度、および向きが含まれています。

ディスプレイプロファイルを設定するには、以下の操作を行います。

1. [コントロールパネル]で**【周辺機器】**→**【ディスプレイの設定】**の順に選択します。
2. 必要に応じてオプションを設定して、**【適用】**を選択します。

 **注記：**これらのオプションは、ハードウェアモデルによって異なる場合があります。

ディスプレイプロファイルのカスタマイズが役立つ場合については、以下のヒントを参照してください。

- 一部のアプリケーションでは、適切に機能するために特定の解像度またはビット深度が必要になることがあります。
- 一部のアプリケーションでは、ディスプレイを回転させる必要が生じることがあります。
- 16ビットの色深度を使用すると、ネットワーク経由で転送したり、グラフィックスチップに送信したりする必要のあるデータの量が少なくなるため、Citrix および RDP の接続パフォーマンスが向上します。

- AMD ベースのプラットフォーム (t520、t610、t620) では、32 ビットの色深度のみが提供されます。t505 および t510 では、16 ビットまたは 32 ビットの色深度が提供されます。どの場合でも、32 ビットの色深度は、実際には 24 ビットを使用します。
- さまざまな種類のモニターが組織内で使用されているが、1 つのディスプレイ プロファイルに標準化することが必要な場合があります。

外付けモニターの使用時にディスプレイ設定をすばやく変更するには、以下の操作を行います (Mobile Thin Client のみ)。

- ▲ Fn + F4 キーを押します。

プリンターの設定

プリンターを設定するには、以下の操作を行います。

1. [コントロールパネル]で[周辺機器]→[プリンター]の順に選択します。
2. [印刷]ダイアログで、[追加]を選択します。
3. [New Printer] (新しいプリンター) ダイアログで、設定するプリンターを選択して、[進む]を選択します。

 **注記:** シリアルプリンターを選択した場合は、必ずダイアログの右側に正しい設定を入力してください。そうしないと、プリンターが正常に機能しない可能性があります。

4. プリンターの製造元を選択します。製造元が不明の場合は、[Generic (recommended)] (汎用 (推奨)) オプションを選択して、[進む]を選択します。
5. プリンターのモデルおよびドライバーを選択して、[進む]を選択します。

 **注記:** プリンターのモデルや使用するドライバーが不明の場合、または使用しているプリンターのモデルがリストに表示されない場合は、[戻る]を選択し、プリンターの製造元として[汎用 (推奨)] オプションを使用してみてください。

[汎用 (推奨)] の製造元を使用する場合は、必ずモデルとして[**text-only (recommended)**] (テキスト専用 (推奨)) を選択し、ドライバーとして[**Generic text-only printer [en] (recommended)**] (汎用のテキスト専用プリンター (推奨)) を選択してください。

6. プリンターに関するオプションの情報 (その名称や場所など) を記入します。

 **注記:** 正しいドライバー名を[Windows ドライバー名]ボックスに入力することをおすすめします。リモートのセッションへの接続時に対応付けるドライバーがないと、Windows が正しいドライバーを使用しないため、印刷が正しく機能しない場合があります。プリンターを正しく機能させるためには、そのドライバーを Windows サーバーにインストールしておく必要もあります。

7. [適用]を選択した後、必要に応じてテスト ページを印刷します。

必要に応じて、追加のプリンターを設定するには、このプロセスを繰り返します。

 **ヒント:** 最も一般的な問題は、間違ったドライバーがプリンターに使用されていることです。ドライバーを変更するには、プリンターを右クリックし、[プロパティ]を選択して、製造元およびモデルを変更します。

USB デバイスのリダイレクト

USB デバイスをリダイレクトするには、以下の操作を行います。

1. [コントロールパネル]で[周辺機器]→[USB マネージャー]の順に選択します。
2. [プロトコル]ページで、リモートプロトコルを選択します。
設定が[ローカル]の場合は、[デバイスのマウントを許可する]オプションおよび[デバイスを読み取り専用でマウントする]オプションも指定できます。
3. [デバイス]ページで、必要に応じて個々のデバイスのリダイレクトを有効または無効にできます。
4. [クラス]ページで、リモートセッションにリダイレクトされる特定のデバイスクラスを選択できます。
5. 終了したら、[OK]を選択します。

設定

| メニュー オプション | 説明 |
|-------------------------|---|
| デスクトップの背景 | 背景のテーマを設定し、システム情報（Thin Client のホスト名、IP アドレス、ハードウェアモデル、MAC Address など）を背景に動的に表示します 詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『Login Screen Customization』（ログイン画面のカスタマイズ）（英語版）を参照してください |
| 日付と時刻 | タイムゾーンおよび日付と時刻のオプションを設定します |
| ファイアウォール マネージャー | ファイアウォール設定を構成します |
| 言語 | HP ThinPro インターフェイスを異なる言語で表示します |
| ネットワーク | ネットワーク設定を構成します 詳しくは、 50 ページのネットワークの設定 を参照してください |
| 電源管理 | スクリーンセーバー、CPU 設定、ディスプレイの電源を切るタイミング、スリープモードに入るタイミングなど、電源管理を設定します |
| セキュリティ | 詳しくは、 54 ページのセキュリティ設定 を参照してください |
| ThinPro の構成（カスタマイズセンター） | 以下の操作を行います <ul style="list-style-type: none">● HP ThinPro と HP Smart Zero の構成を切り替えます● デスクトップおよびタスクバーのオプションを設定します● エンドユーザーがアクセスできる接続インターフェイスおよび[コントロールパネル]項目を選択します 詳しくは、 56 ページの ThinPro の構成（カスタマイズセンター） を参照してください |

ネットワークの設定

ネットワーク設定は、ネットワーク マネージャーを使用して設定できます。ネットワーク マネージャーを開くには、以下の操作を行います。

▲ [コントロールパネル]で[セットアップ]→[ネットワーク]の順に選択します。

ネットワーク マネージャーの各種タブについて詳しくは、以下のセクションを参照してください。

- [有線ネットワーク設定](#)
- [無線ネットワーク設定](#)
- [DNS 設定](#)
- [IPSec ルール](#)
- [VPN 設定の構成](#)
- [HP Velocity の設定](#)

有線ネットワーク設定

以下の表では、ネットワーク マネージャーの[有線]タブで使用できるオプションについて説明します。

| オプション | 説明 |
|-------------|--|
| IPv6 を有効にする | IPv6 を有効にします。初期設定では IPv4 が使用され、それらを同時に使用することはできません |
| Ethernet 速度 | Ethernet 速度を設定します。使用しているスイッチやハブに特殊な要件がない場合は、これを[自動]という初期設定のままにしておきます |
| 接続方法 | [自動] または [静的] のどちらかを選択します。ネットワーク環境で DHCP を使用している場合、それ以上の構成を行わなくても [自動] オプションが機能します。 [静的] を選択した場合は、 [静的アドレスの設定] の設定が使用可能になります。必ず、IPv4 または IPv6 のどちらを使用しているかに従ってこれらの値を入力してください |
| MTU | 最大転送単位 (バイト) を入力します |
| セキュリティ設定 | 認証設定を以下のどれかに設定します。 <ul style="list-style-type: none">• [なし]• [802.1X-TTLS]• [802.1X-PEAP]• [802.1X-TLS] TTLS および PEAP については、以下の点に注意してください。 <ul style="list-style-type: none">• [内部認証]オプションは、サーバーがサポートする方式を設定してください• [CA 証明書]設定は、ローカルの Thin Client 上のサーバーの証明書を指すようにしてください• [ユーザー名]および[パスワード]は、ユーザーの資格情報です TLS については、以下の点に注意してください。 <ul style="list-style-type: none">• [CA 証明書]設定は、ローカルの Thin Client 上のサーバーの証明書を指すようにしてください• 使用している[秘密キー]ファイルが、p12 または.pfx である場合は、[ユーザー証明書]設定を空白のままにできます |

| オプション | 説明 |
|-------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● [ID]設定は、ユーザー証明書に対応するユーザー名になります ● [秘密キーのパスワード]設定は、ユーザーの秘密キー ファイルのパスワードです |

無線ネットワーク設定

このタブを使用すると、無線ネットワークに対応する無線プロファイルを追加、編集、および削除できます。

以下の表では、無線プロファイルの追加または編集時に使用できるオプションについて説明します。

 **注記:** このタブは、Thin Client が無線アダプターを備えている場合にのみ使用できます。

 **ヒント:** タスクバーのネットワーク ステータス アイコンを選択して、これらの設定にアクセスすることもできます。

全般設定を行うには、**[無線]**タブを使用します。

| オプション | 説明 |
|------------------|--|
| AP のスキャン | 使用可能な無線ネットワークをスキャンします |
| SSID | このボックスを使用すると、スキャンによって見つからない場合に、無線ネットワークの SSID を手動で入力できます |
| 無線帯域 | [Auto] (自動)、 [2.4GHz] 、または [5GHz] を選択します |
| SSID は非表示にされています | 無線ネットワークの SSID が非表示 (ブロードキャストしない) に設定されている場合は、このオプションを有効にします |
| IPv6 を有効にする | IPv6 を有効にします。初期設定では IPv4 が使用され、それらを同時に使用することはできません |
| 電源管理を有効にする | 無線アダプターの電源管理機能を有効にします |
| 接続方法 | <p>[自動]または[静的]のどちらかを選択します。ネットワーク環境で DHCP を使用している場合、それ以上の構成を行わなくても[自動]オプションが機能します。</p> <p>[静的]を選択した場合は、[静的アドレスの設定]の設定が使用可能になります。必ず、IPv4 または IPv6 のどちらを使用しているかに従ってこれらの値を入力してください</p> |
| セキュリティ設定 | <p>認証設定を以下のどれかに設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [なし] ● [WEP] ● [WPA/WPA2-PSK] ● [802.1X-TTLS] ● [802.1X-PEAP] ● [802.1X-TLS] ● [EAP-FAST] <p>[WEP]および[WPA/WPA2-PSK]の場合に必要な操作は、ネットワーク キーを入力して[OK]を選択することです</p> |

| オプション | 説明 |
|----------|---|
| | <p>[EAP-FAST]の場合は、[匿名 ID]、[ユーザー名]、[パスワード]、および[Provisioning Method]（プロビジョニング方法）を設定します。PAC ファイルの設定を変更する必要はありません</p> <p>TTLS、PEAP、および TLS については詳しくは、50 ページの有線ネットワーク設定を参照してください</p> |
| 自動接続 | このオプションは将来の使用のために予約されています |
| 無線を有効にする | 無線アダプターを有効にします |

IPv4 接続設定を行うには、**[IPv4]**タブを使用します。

| オプション | 説明 |
|-----------------|---|
| IPv4 は有効にされています | IPv4 を有効にします |
| IPv4 の方式 | <p>[自動]または[静的]のどちらかを選択します。ネットワーク環境で DHCP を使用している場合、それ以上の構成を行わなくても[自動]オプションが機能します</p> <p>[静的]を選択した場合は、[静的アドレスの設定]の設定が表示されます。IPv4 設定を入力する必要があります</p> |

IPv6 接続設定を行うには、**[IPv6]**タブを使用します。

| オプション | 説明 |
|-----------------|---|
| IPv6 は有効にされています | <p>IPv6 グローバルアドレスの使用を有効にします</p> <p>注記： HP ThinPro では、ルートアドバタイズまたは DHCPv6 経由で IPv6 グローバルアドレスの取得を試みます</p> |
| IPv6 の方式 | <p>[自動]または[静的]のどちらかを選択します。ネットワーク環境で DHCP を使用している場合、それ以上の構成を行わなくても[自動]オプションが機能します</p> <p>[静的]を選択した場合は、[静的アドレスの設定]の設定が表示されます。IPv6 設定を入力する必要があります</p> |

接続のセキュリティ設定を行うには、**[セキュリティ]**タブを使用します。

| オプション | 説明 |
|-------|--|
| 認証 | <p>認証設定を以下のどれかに設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [なし] ● [WEP] ● [WPA/WPA2-PSK] ● [WPA/WPA2 Enterprise-TTLS] ● [WPA/WPA2 Enterprise-PEAP] ● [WPA/WPA2 Enterprise-TLS] ● [EAP-FAST] |

| オプション | 説明 |
|-------|--|
| | [WEP]および[WPA/WPA2-PSK]の場合に必要な操作は、ネットワークキーを入力して OK を選択することです |
| | [EAP-FAST]の場合は、 [匿名ID] 、 [ユーザー名] 、 [パスワード] 、および [Provisioning Method] （プロビジョニング方法）を設定します。PACファイルの設定を変更する必要はありません |
| | TTLS、PEAP、およびTLS について詳しくは、 50 ページの有線ネットワーク設定 を参照してください |

DNS 設定

以下の表では、ネットワーク マネージャーの**[DNS]**タブで使用できるオプションについて説明します。

| オプション | 説明 |
|-------------------------------------|--|
| ホスト名 | これは、Thin Client の MAC アドレスに従って自動生成されます。または、カスタムのホスト名を設定することもできます |
| DNS サーバー | このボックスを使用すると、カスタムの DNS サーバー情報を設定できます |
| ドメインの検索 | このボックスを使用すると、検索対象のドメインを制限できます |
| HTTP プロキシ FTP プロキシ HTTPS プロキシ | これらのボックスを使用すると、以下の形式でプロキシサーバー情報を設定できます <code>http://<アドレス>:<ポート></code> サポート機能が向上するため、3 つのすべてのプロキシ設定に <code>http://</code> プレフィックスを使用することをおすすめします 注記： それらのプロキシ設定は、システムの [http_proxy] 、 [ftp_proxy] 、および [https_proxy] 環境変数に設定されます |

IPSec ルール

このタブを使用すると、IPSec ルールを追加、編集、および削除できます。IPSec ルールは、IPSec を使用して通信を行うシステムごとに同じにする必要があります。

IPSec ルールの設定時は、**[全般]**タブを使用して、そのルールの情報、アドレス、および認証方法を設定します。**[ソース アドレス]**は Thin Client の IP アドレスであり、**[相手先アドレス]**はその Thin Client が通信を行おうとしているシステムの IP アドレスです。

 **注記：** **[PSK]**および**[証明書]**認証タイプのみがサポートされています。Kerberos 認証はサポートされていません。

[トンネル]タブを使用すると、トンネルモードの設定を行えます。

[フェーズ I]および**[フェーズ II]**タブを使用すると、高度なセキュリティ設定を構成できます。これらの設定は、相互に通信するすべてのピアシステムで同じにする必要があります。

 **注記：** IPSec ルールは、Windows が動作しているコンピューターとの通信にも使用できます。

VPN 設定の構成

HP ThinPro では、2 種類の VPN をサポートしています。

- Cisco
- PPTP

[自動開始]オプションを有効にすると、VPN が自動的に開始されます。

Cisco を使用して VPN を作成するときは、以下の点に注意してください。

- **[ゲートウェイ]**は、ゲートウェイの IP アドレスまたはホスト名です
- **[グループ名]**および**[グループパスワード]**は、IPSec ID および IPSec パスワードです
- **[ドメイン]**設定は省略可能です
- **[ユーザー名]**および**[ユーザー パスワード]**は、サーバー側で VPN 接続を作成する権限を持つユーザー資格情報です
- **[セキュリティの種類]**の設定はサーバー側と同じにする必要があります
- **[NAT トラバーサル]**オプションは、VPN 環境に従って設定する必要があります。
- **[IKE DH グループ]**オプションは、VPN 用に使用するディフィーヘルマン (Diffie-Hellman) グループを設定します。
- **[PFS タイプ]**オプションは、PFS (Perfect Forward Secrecy) 用に使用するディフィーヘルマン (Diffie-Hellman) グループを設定します。

PPTP を使用して VPN を作成するときは、以下の点に注意してください。

- **[ゲートウェイ]**は、ゲートウェイの IP アドレスまたはホスト名です
- **[NT ドメイン]**設定は省略可能です
- **[ユーザー名]**および**[ユーザー パスワード]**は、サーバー側で VPN 接続を作成する権限を持つユーザー資格情報です

HP Velocity の設定

HP Velocity の設定を行うには、**[HP Velocity]**タブを使用します。HP Velocity のモードについて詳しくは、<http://www.hp.com/go/velocity/> (英語サイト) を参照してください。

セキュリティ設定

セキュリティ設定は、セキュリティ マネージャーを使用して設定できます。セキュリティ マネージャーを開くには、[コントロールパネル]で**[セットアップ]**→**[セキュリティ]**の順に選択します。

セキュリティ マネージャーの各種タブについて詳しくは、以下のセクションを参照してください。

- [54 ページのローカルアカウント](#)
- [55 ページの暗号化](#)
- [55 ページのオプション](#)

ローカルアカウント

[ローカルアカウント]タブを使用して、ローカルの root アカウントパスワードおよびユーザー アカウントパスワードを変更したり、それらのアカウントを使用する認証を無効にしたりできます。

△ **注意** : root アカウントまたはユーザー アカウントを無効にすると、Active Directory 認証を有効にしない限り、システムが使用できない状態になる場合があります。たとえば、root アカウントを無効にした場合、管理者のドメイン資格情報を使用しないと、管理者モードに変更できません。一方で、Active Directory 認証が有効になっている場合は、ローカルアカウントを無効にすると、セキュリティが向上することがあります。Thin Client の root パスワードなどの共有シークレットを管理したり更新したりする必要がなくなるからです。

Active Directory 認証を使用していて、ドメインユーザーのキャッシュされたデータが Thin Client にある場合は、このタブから、ユーザーのキャッシュされたデータを削除することもできます。

📖 **注記** : ユーザーがドメイン アカウントを使用してログインした場合、ユーザーは自分のアカウントのデータを削除できません。削除すると、システムが不確定な状態になるからです。

暗号化

Active Directory 資格情報およびその他のシークレットは、画面のロック解除などの機能で使用するためにハッシュされたり、シングルサインオンのために暗号化されてシステムに保存されたりします。

パスワードのハッシュを作成するためのハッシュアルゴリズムは、このメニューから選択できます。初期設定の scrypt は、広く認められているキー派生関数です。別のキー派生関数 Argon2 や、従来のハッシュ SHA-256 および SHA-512 も使用できます。キー派生関数の利点は、平文のパスワードを事前に計算されたハッシュ値と照合するレインボー テーブルの計算コストが高いことであり、従来のハッシュは可能な限り高速で実行する場合に適しています。ハッシュはすべて 128 ビット以上のランダムソルトを付加して保存され、パスワードハッシュを計算して保存するたびにランダムソルトが変わります。

接続開始時にパスワードの暗号化を解除して、接続に提供できる場合に、暗号化されたパスワードが使用されます (シングルサインオン)。暗号化アルゴリズムは、OpenSSL でサポートされる幅広いアルゴリズムから選択できます。別の値を選択する十分な理由がない限り、初期設定の暗号化アルゴリズムを使用することをおすすめします。このアルゴリズムは一般に、セキュリティの専門家から最新の安全なアルゴリズムと認められています。ソルト ビットおよびキー ビットの数はアルゴリズムによって異なります。アルゴリズム セレクターの横にある情報ボタンを押すと、詳しい情報を確認できます。暗号化キーは Thin Client ごとに一意で、管理者だけが参照できる場所に保存されます。また、システム上の権限を付与された特定のアプリケーションだけが暗号化を解除できます。

ハッシュおよび暗号化されたシークレットは両方とも、生存時間を設定できます。シークレットがハッシュまたは暗号化されてから、使用または暗号化の解除までの時間の長さが生存時間を超過した場合、ハッシュ照合または暗号化の解除は失敗します。

オプション

[ローカルユーザーのログインを必須にする] : Active Directory 認証が無効になっている場合にこのオプションを選択すると、起動時およびログアウト時にログイン画面が表示されます。その場合、システムにアクセスするには、ローカルユーザーまたは root の資格情報を使用する必要があります。

[シークレットのプレビューを有効にする] : 有効にすると、システムのほとんどのパスワードおよびシークレットの入力フィールドで、右側に小さな目のアイコンが表示されます。マウスの左ボタンを押したままにしてその目のアイコンを選択すると、マウス ボタンを押したままにしている間、シークレットが平文で表示されます。ボタンを放すと、シークレットは再び見えなくなります。

[ドメインのテキスト入力を使用する] : 有効にすると、必要に応じて、ドメイン名用のドメイン入力フィールドが別に表示されます。無効にすると、代わりに、[ユーザー]フィールドに入力した値でドメインが判定されます。たとえば、[ユーザー]フィールドに「mike@mycorp」と入力した場合、ドメインは「mycorp」であるとみなされます。[ユーザー]フィールドに「graycorp¥mary」と入力した場合には、ドメインは「graycorp」であるとみなされます。

[管理者に画面ロックの上書きを許可する]：有効にすると、ロックされた画面を上書きして、ユーザーが手動で Thin Client からログアウトしたかのように、ログイン画面または HP ThinPro のデスクトップに戻すことができます。

ThinPro の構成（カスタマイズセンター）

ThinPro の構成（カスタマイズセンター）を開くには、以下の操作を行います。

▲ [コントロールパネル]で**[セットアップ]**→**[ThinPro の構成]**の順に選択します。

[デスクトップ]ページの一番上にあるボタンを使用すると、HP ThinPro と HP Smart Zero の構成を切り替えることができます。2つの構成の違いについては、[1 ページの OS 構成の選択](#)を参照してください。

 **注記**：HP ThinPro から HP Smart Zero に切り替えるときに、単一の接続を構成している場合は、その接続が HP Smart Zero の接続として自動的に使用されます。複数の接続を構成している場合は、使用する接続を選択するよう求めるメッセージが表示されます。

HP Smart Zero モードに切り替える前に、Thin Client のドメイン認証機能を無効にしてください。ドメイン認証と HP Smart Zero モードは同時に使用できません。

以下の表では、**[デスクトップ]**ページで使用できる残りのオプションについて説明します。

| オプション | 説明 |
|---------------------------|--|
| 起動時に接続マネージャーを起動する | 有効にすると、システム起動時に接続マネージャーが自動的に起動します |
| 右クリックメニューを有効にする | このオプションを無効にすると、デスクトップを右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューが無効になります |
| X host アクセス制御セキュリティを有効にする | 有効にすると、 [XHost アクセス制御リスト] 領域に一覧表示されているシステムのみが Thin Client をリモートで制御できます。 |
| USB のアップデートを有効にする | USB フラッシュドライブから更新をインストールできるようにします。詳しくは、 81 ページの「USB のアップデート」 を参照してください |
| USB のアップデートを認証する | このオプションを無効にすると、エンドユーザーが USB 経由で更新をインストールできます |
| ユーザーによる管理者モードへの切り替えを許可する | このオプションを無効にすると、ユーザーモードで [コントロールパネル] から [管理者/ユーザーモード切り替え] オプションを削除できます |
| 管理者モードをキャンセルするまでの時間 | 管理者モードが終了するまでのアイドルタイムアウト（分）を指定します。0 またはマイナスに設定すると、管理者モードは自動的に終了しません |

[接続]および**[アプリケーション]**ページを使用すると、ユーザーモードで使用可能な接続インターフェイスおよび**[コントロールパネル]**アプリケーションを選択できます。

[タスクバー]ページを使用すると、タスクバーを設定できます。

管理

| メニュー オプション | 説明 |
|-------------------------|---|
| Active Directory | 詳しくは、 58 ページの Active Directory の構成 を参照してください |
| HPDM Agent | HP Device Manager (HPDM) Agent を設定します 詳しくは、HPDM の管理者ガイドを参照してください |
| Automatic Update (自動更新) | Automatic Update サーバーを手動で設定します 詳しくは、 68 ページの「HP Smart Client Services」 を参照してください |
| コンポーネント マネージャー | システム コンポーネントを削除します 詳しくは、 57 ページのコンポーネント マネージャー を参照してください |
| 出荷時設定にリセット | Thin Client を工場出荷時設定に復元します |
| 復元ポイント (スナップショット) | Thin Client を以前の状態または工場出荷時設定に復元します |
| SSHD マネージャー | Secure Shell を介したアクセスを有効にします |
| ThinState | HP ThinState は、オペレーティングシステム イメージ全体またはその構成設定のみをコピーしたり、復元したりできるようにします 詳しくは、 60 ページの HP ThinState を参照してください |
| VNC シャドウイング | VNC シャドウイングのオプションを設定します 詳しくは、 63 ページの VNC シャドウイング を参照してください |
| 無線統計 | 無線アクセスポイントに関する情報を表示します |

コンポーネント マネージャー

コンポーネント マネージャーでは、環境内で使用する予定のないシステム コンポーネントを削除できます。これは、イメージのサイズを削減するときに役立つ場合があります。たとえば、Citrix 接続を環境内で使用することがない場合は、Citrix コンポーネントを削除できます。

コンポーネントを削除するときには、その変更を完全に適用する前に新しい設定をテストできます。変更がまだ完全に適用されていない場合は、行った変更を取り消すこともできます。

 **重要:** 新しい設定を完全に適用すると、すべてのスナップショットが削除され、新しい出荷時スナップショットが作成されます。これ以降、削除したコンポーネントを復元することはできません。

コンポーネント マネージャーを開くには、以下の操作を行います。

▲ [コントロールパネル]で[管理]→[コンポーネント マネージャー]の順に選択します。

コンポーネントの削除

コンポーネントを削除するには、以下の操作を行います。

1. コンポーネントマネージャーで目的のコンポーネントを選択します。

 **ヒント**：複数のコンポーネントを選択するには、**Ctrl** キーまたは **Shift** キーを使用します。

2. **[Remove Component(s)]** (コンポーネントを削除) を選択します。
3. 確認のダイアログが表示されたら、**[OK]** を選択します。
4. コンポーネントが削除されたら、新しい設定をテストします。

変更の取り消し

変更がまだ完全に適用されていないければ、各変更を一度に1つずつ取り消すことができます。取り消しを行うたびに Thin Client の再起動が必要になります。

コンポーネントマネージャーで行った変更を取り消すには、以下の操作を行います。

1. コンポーネントマネージャーで**[Revert Last Change]** (最後の変更を取り消す) を選択します。
2. **[はい]** を選択して Thin Client を再起動します。

取り消す変更の数と同じ回数だけこの処理を繰り返します。

 **重要**：新しい構成のテスト中にイメージのスナップショットを取得した場合、コンポーネントマネージャーで変更を取り消すことはできません。変更を取り消すには、[スナップショット] ツールで以前のスナップショットを復元する必要があります。ただし、変更がすでに完全に適用されている場合、その操作によって既存のスナップショットがすべて削除されているため、この方法では変更を取り消せません。変更がすでに完全に適用されている場合には、削除されたコンポーネントの多くは、オペレーティングシステムを再インストールしなければ復元できません。一部のコンポーネント (Citrix、RDP、VMware Horizon View など) は Web 上でアドオンとして提供されているので、アドオンを再インストールすることによって復元できます。

変更の完全な適用

コンポーネントマネージャーで行った変更を完全に適用するには、以下の操作を行います。

 **重要**：新しい設定を完全に適用すると、すべてのスナップショットが削除され、新しい出荷時スナップショットが作成されます。これ以降、削除したコンポーネントを復元することはできません。

1. コンポーネントマネージャーで**[Apply Component Configuration]** (コンポーネント設定を適用する) を選択します。
2. **[はい]** を選択します。

Active Directory の構成

[状態] タブ

このコントロールを使用すると、ドメインに対する認証、ドメインへの参加、およびドメイン関連の各種オプションを有効または無効にできます。

[状態] タブのドメインパラメーターの変更後に、保留状態になっている操作がページに表示されます。その操作を実行するには、**[適用]** を選択する必要があります。ドメインへの参加またはドメインからの削除には、その操作を実行する権限のある資格情報が必要です。認証を有効にした後、またはドメインに参加した後に、一部のサブパラメーターが読み取り専用としてマークされていることがあります。その時点では、それらのサブパラメーターを変更できないためです。ドメインからの削除や認証の無効化を完全に行ってから、変更を適用する必要があります。その後、認証を再度有効にするか、変更したサブパラメーターでドメインに参加できます。

| オプション | 説明 |
|-------------------------|--|
| ドメイン名 | Thin Client が DHCP オプションを使用してドメイン名を判別できる場合は、その名前がここに表示されます。判別できない場合は、完全修飾のドメイン名を手動で入力する必要があります |
| ドメインに対して認証する | 有効にすると、このガイドの「Active Directory 統合」のセクションで説明されているように、ドメイン資格情報を使用できます |
| Thin Client ログインを要求する | 初期設定では有効になっています。これにより、システムを起動するとドメイン ログイン画面が表示されます。無効にした場合でも、ドメイン資格情報を使用して管理者モードに切り替えたり、ロックされた画面を上書きしたりできますが、シングルサインオンは使用できません |
| ワークグループ | 通常、ネットワークサーバーによって提供される情報から自動検出されますが、例外的なネットワークトポロジを使用する場合は、これを手動で上書きできます |
| ドメインコントローラー | 通常、DNS ルックアップを使用して検出されますが、ネットワークからその情報が提供されない場合は手動で指定できます |
| Thin Client をドメインに参加させる | Active Directory 統合の章で説明しているように、このオプションを使用すると、Thin Client を Active Directory のデータベースに正式に追加できます |
| 組織単位 (OU) | Thin Client は通常、データベースの「コンピューター」OU に追加されますが、データベースのスキーマで要求される場合は、別の値を手動でここに入力できます |
| 動的 DNS | 有効にすると、IP アドレスとホスト名の関連付けが変更された場合に、Thin Client が DNS サーバーを更新しようとします |

[オプション]タブ

| オプション | 説明 |
|------------------------|---|
| シングルサインオンを有効にする | 有効にすると、ログイン時に入力したパスワードが暗号化され、システムに保存されます。シングルサインオンの資格情報を設定して接続を開始すると、パスワードの暗号化が解除され、パスワードが接続に渡されて、リモートログインに使用されます |
| ドメインログイングループ | 有効にすると、指定されたドメイングループのユーザーのみがログインできます |
| ドメイン管理者グループ | 有効にすると、指定されたドメイングループのメンバーのみが、管理者モードへの切り替えおよび画面ロックの上書きを行えます |
| キャッシュされたドメインログインを有効にする | 有効にすると、ユーザーのパスワードのハッシュがシステムに保存され、Active Directory サーバーにアクセスできない場合でも、ログインに使用できます |
| ログアウト時にユーザー設定を保持する | このオプションを有効にすると、ドメインユーザーが行った設定変更は、そのユーザーだけに変更した設定が適用される場所に保存されます。このオプションを無効にすると、そのようなユーザー固有の変更は、ユーザーのログアウト時に破棄されます |
| ドメインパスワードの変更を許可する | 有効にすると、パスワードの有効期限が切れるとメッセージが表示され、ユーザーはパスワードを更新できます。ユーザーは、タスクバーのユーザーアイコンを使用して、手動でパスワードを更新できます |

HP ThinState

HP ThinState を使用すると、HP ThinPro のイメージまたは構成（プロファイル）をキャプチャして、互換性のあるモデルおよびハードウェアの別の Thin Client に展開できます。

HP ThinPro イメージの管理

FTP サーバーへの HP ThinPro イメージのキャプチャ

HP ThinPro イメージを FTP サーバーにキャプチャするには、以下の操作を行います。

 **重要：**キャプチャを開始する前に、キャプチャされたイメージを保存する予定のディレクトリが FTP サーバー上にすでに存在している必要があります。

1. [コントロールパネル]で[管理]→[ThinState]の順に選択します。
2. [HP ThinPro のイメージ]→[次へ]の順に選択します。
3. [HP ThinPro のイメージのコピーを作成する]→[次へ]の順に選択します。
4. [FTP サーバー]→[次へ]の順に選択します。
5. 各フィールドに FTP サーバーの情報を入力します。

 **注記：**初期設定のイメージファイルの名前は、Thin Client のホスト名に設定されます。

キャプチャされたイメージを圧縮する場合は、[イメージを圧縮する]を選択します。

 **注記：**HP ThinPro イメージファイルは、ディスクを簡単にそのまま保存したものです。圧縮前のサイズは約 1 GB で、アドオンなしの圧縮イメージは約 500 MB です。

6. [完了]を選択します。

イメージキャプチャが開始されると、すべてのアプリケーションが停止し、進行状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、[詳細]を選択して情報を確認します。キャプチャが完了すると、デスクトップが再表示されます。

FTP または HTTP を使用した HP ThinPro イメージの展開

 **重要：**展開を中止した場合は、以前のイメージが復元されず、Thin Client のフラッシュドライブの内容が破損してしまいます。

FTP または HTTP を使用して HP ThinPro イメージを展開するには、以下の操作を行います。

1. [コントロールパネル]で[管理]→[ThinState]の順に選択します。
2. [HP ThinPro のイメージ]→[次へ]の順に選択します。
3. [HP ThinPro のイメージを復元する]→[次へ]の順に選択します。
4. FTP または HTTP のどちらかのプロトコルを選択し、各フィールドにサーバーの情報を入力します。

 **注記：**HTTP プロトコルを使用する場合、[ユーザー名]および[パスワード]フィールドは必須ではありません。

5. 以前のすべての構成設定を保持する場合は、**[HP ThinPro の構成の保持]**を選択します。
6. **[完了]**を選択します。

イメージの展開が開始されると、すべてのアプリケーションが停止し、進行状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、**[詳細]**を選択して情報を確認します。展開が完了すると、デスクトップが再表示されます。

 **注記：** MD5 チェックサムの確認は、MD5 ファイルがサーバー上に存在する場合にのみ実行されます。

USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro イメージのキャプチャ

HP ThinPro イメージを USB フラッシュ ドライブにキャプチャするには、以下の操作を行います。

 **重要：** USB フラッシュ ドライブにデータがある場合は、キャプチャを開始する前にバックアップします。HP ThinState によってフラッシュ ドライブが自動的に初期化され、起動可能な USB フラッシュ ドライブが作成されます。このプロセスによって、現在フラッシュ ドライブにあるすべてのデータが消去されます。

1. [コントロールパネル]で**[管理]**→**[ThinState]**の順に選択します。
2. **[HP ThinPro のイメージ]**→**[次へ]**の順に選択します。
3. **[HP ThinPro のイメージのコピーを作成する]**→**[次へ]**の順に選択します。
4. **[起動可能な USB フラッシュ ドライブを作成する]**→**[次へ]**の順に選択します。

Thin Client が再起動し、USB フラッシュ ドライブを挿入するよう求められます。

5. USB フラッシュ ドライブを Thin Client の USB ポートに挿入します。
6. USB フラッシュ ドライブを選択し、**[完了]**を選択します。

進捗状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、**[詳細]**を選択して情報を確認します。キャプチャが完了すると、デスクトップが再表示されます。

USB フラッシュ ドライブを使用した HP ThinPro イメージの展開

USB フラッシュ ドライブを使用して HP ThinPro イメージを展開するには、以下の操作を行います。

 **重要：** 展開を中止した場合は、以前のイメージが復元されず、Thin Client のフラッシュ ドライブの内容が破損してしまいます。この場合、USB フラッシュ ドライブを使用して Thin Client のイメージを再インストールする必要があります。

1. 目的の Thin Client の電源を切ります。
2. USB フラッシュ ドライブを挿入します。
3. Thin Client の電源を入れます。

 **注記：** Thin Client が USB フラッシュ ドライブを認識して起動を開始するまで、画面が 10~15 秒間黒くなります。USB フラッシュ ドライブから Thin Client を起動できない場合は、他のすべての USB デバイスを取り外して、この手順を繰り返します。

クライアント プロファイルの管理

クライアント プロファイルには、接続マネージャーおよび[コントロールパネル]を使って構成された接続、各種設定、およびカスタマイズ設定が含まれています。プロファイルは、それが作成された HP ThinPro のバージョンに固有の構成ファイルに保存されます。

 **注記**：クライアント プロファイルを事前に構成して展開するには、[Profile Editor]および Automatic Update（自動更新）を使用します（詳しくは、73 ページの「Profile Editor」および68 ページの「HP Smart Client Services」を参照してください）。

FTP サーバーへのクライアント プロファイルの保存

FTP サーバーにクライアント プロファイルを保存するには、以下の操作を行います。

 **重要**：保存を開始する前に、プロファイルを保存する予定のディレクトリが FTP サーバー上にすでに存在している必要があります。

1. [コントロールパネル]で**[管理]**→**[ThinState]**の順に選択します。
2. **[HP ThinPro の構成]**→**[次へ]**の順に選択します。
3. **[構成を保存する]**→**[次へ]**の順に選択します。
4. **[FTP サーバー]**→**[次へ]**の順に選択します。
5. 各フィールドに FTP サーバーの情報を入力します。
6. **[完了]**を選択します。

FTP または HTTP を使用したクライアント プロファイルの復元

FTP または HTTP を使用してクライアント プロファイルを復元するには、以下の操作を行います。

1. [コントロールパネル]で**[管理]**→**[ThinState]**の順に選択します。
2. **[HP ThinPro の構成]**→**[次へ]**の順に選択します。
3. **[構成を復元する]**→**[次へ]**の順に選択します。
4. **[リモートサーバー]**を選択し、**[次へ]**を選択します。
5. FTP または HTTP のどちらかのプロトコルを選択し、各フィールドにサーバーの情報を入力します。

 **注記**：HTTP プロトコルを使用する場合、**[ユーザー名]**および**[パスワード]**フィールドは必須ではありません。

6. **[完了]**を選択します。

USB フラッシュドライブへのクライアント プロファイルの保存

クライアント プロファイルを USB フラッシュドライブに保存するには、以下の操作を行います。

1. USB フラッシュドライブを Thin Client の USB ポートに挿入します。
2. [コントロールパネル]で**[管理]**→**[ThinState]**の順に選択します。
3. **[HP ThinPro の構成]**→**[次へ]**の順に選択します。
4. **[構成を保存する]**→**[次へ]**の順に選択します。
5. **[USB キー]**→**[次へ]**の順に選択します。
6. USB フラッシュドライブを選択します。
7. **[参照]**を選択します。
8. USB フラッシュドライブ内の目的の場所に移動し、プロファイルにファイル名を割り当てます。

9. **【保存】**を選択します。
10. **【完了】**を選択します。

USB フラッシュドライブからのクライアントプロファイルの復元

クライアントプロファイルを USB フラッシュドライブから復元するには、以下の操作を行います。

1. プロファイルを含む USB フラッシュドライブをターゲットの Thin Client の USB ポートに挿入します。
2. [コントロールパネル]で**【管理】**→**【ThinState】**の順に選択します。
3. **【HP ThinPro の構成】**→**【次へ】**の順に選択します。
4. **【構成を復元する】**→**【次へ】**の順に選択します。
5. **【USB キー】**→**【次へ】**の順に選択します。
6. USB フラッシュドライブを選択します。
7. **【参照】**を選択します。
8. USB キーにある目的の構成ファイルをダブルクリックします。
9. **【完了】**を選択します。

VNC シャドウイング

VNC (Virtual Network Computing) は、リモートコンピューターのデスクトップを表示し、ローカルのマウスおよびキーボードでそのデスクトップを制御できるようにするリモートデスクトッププロトコルです。

VNC シャドウイングツールにアクセスするには、以下の操作を行います。

- ▲ [コントロールパネル]で**【管理】**→**【VNC シャドウイング】**の順に選択します。

 **注記** : VNC シャドウイングのオプションへの変更を有効にするには、Thin Client を再起動する必要があります。

以下の表では、VNC シャドウイングツールで使用できるオプションについて説明します。

| オプション | 説明 |
|----------------------|--|
| VNC シャドウを有効にする | VNC シャドウイングを有効にします |
| VNC 読み取り専用 | VNC セッションを読み取り専用にします |
| VNC でパスワードを使用する | VNC を使用した Thin Client へのアクセス時にパスワードが要求されるようにします。パスワードを設定するには、 【パスワードの設定】 を選択します |
| シャドウイングの停止 | 有効にすると、リモートシステムの左上隅に 【シャドウイングの停止】 ボタンが表示され、押すと VNC シャドウイングを停止します |
| VNC で許可/拒否をユーザーに通知する | 他のユーザーが VNC を使用して接続を試みているときにリモートユーザーに通知する通知ダイアログをリモートシステム上で有効にします。ユーザーは、アクセスを許可または拒否できます |
| 通知を自動的に閉じるまでの時間 (秒) | 指定した秒数が経過すると、ユーザーへの通知メッセージを閉じます |

| オプション | 説明 |
|-------------------|--|
| ユーザーへの通知メッセージ | 通知ダイアログのメッセージをリモートユーザーに表示できるようにします |
| デフォルトで接続を拒否する | 有効にした場合、タイマーの期限が切れると、VNC 接続は初期設定では拒否されます |
| VNC サーバーを今すぐ再設定する | 新しい設定を適用後、VNC サーバーをリセットします |

詳細設定

| メニュー オプション | 説明 |
|---------------|---|
| 証明書 | 証明書を簡単にインポート、表示、または削除できるようにする[証明書マネージャー]を開きます 詳しくは、 64 ページの証明書マネージャー を参照してください |
| DHCP オプション | DHCP オプションを設定します 詳しくは、 65 ページの DHCP オプション を参照してください |
| HP ライセンス | HP のソフトウェア使用許諾契約書 (EULA) を表示します |
| SCEP マネージャー | ネットワークベースの証明書管理を可能にします |
| シリアルマネージャー | シリアルデバイスを設定します |
| キーボードショートカット | キーボードショートカットを作成、変更、および削除します |
| Snipping Tool | 画面上の選択した矩形領域、特定のウィンドウ、または画面全体のスナップショットを取得できます |
| タスク マネージャー | Thin Client の CPU の使用状況およびその履歴を監視します |
| テキストエディター | テキストファイルを表示および編集するための基本的なテキストエディターを開きます |
| X ターミナル | Linux コマンドを実行します |

証明書

 **注記:** Linux で証明書を使用する方法については、<https://www.openssl.org/docs/> (英語サイト) を参照してください。

証明書マネージャー

証明書マネージャーを開くには、以下の操作を行います。

- ▲ [コントロールパネル]で[詳細設定]→[証明書]の順に選択します。

証明書マネージャーを使用して、証明機関（CA）から証明書を手動でインストールします。この操作により、証明書がユーザーのローカルの証明書ストア（/usr/local/share/ca-certificates）にコピーされ、証明書を接続の検証に使用するように OpenSSL が設定されます。

必要に応じて、[75 ページのクライアントプロファイルへの証明書の追加](#)の手順に従って、[Profile Editor]を使用して証明書をプロファイルに追加します。

 **注記：**通常、自己署名証明書は、仕様に従って有効であり、かつ OpenSSL で検証できる場合には使用できます。

SCEP マネージャー

SCEP マネージャーを開くには、以下の操作を行います。

▲ [コントロールパネル]で[詳細設定]→[SCEP マネージャー]の順に選択します。

SCEP マネージャーは、CA から取得したクライアント側の証明書を登録または更新する必要がある場合に使用します。

登録または更新中に、SCEP マネージャーは Thin Client の秘密キーおよび証明書要求を生成し、その要求を SCEP サーバー上の CA に送信します。CA が証明書を発行すると、その証明書は Thin Client 側に返され、証明書ストアに保存されます。OpenSSL は、接続の検証にその証明書を使用します。

 **注記：**登録前に、SCEP サーバーが正しく設定されていることを確認してください。

必要に応じて、SCEP マネージャーの[確認]タブを使用してユーザーに関する情報を入力します。

 **注記：**[共通名]は必須であり、初期設定では Thin Client の完全修飾ドメイン名（FQDN）になります。その他の情報はすべて省略可能です。[国または地域]は 2 文字で入力されます（米国の場合は US、中国の場合は CN など）。

SCEP マネージャーの[サーバー]タブを使用して、SCEP サーバーを追加し、証明書を登録または更新します。

 **ヒント：**新しい SCEP サーバーを入力する場合は、最初にサーバー情報を保存してから、[設定]ボタンを使って戻り、登録を行います。

DHCP オプション

DHCP オプション マネージャーを開くには、以下の操作を行います。

▲ [コントロールパネル]で[詳細設定]→[DHCP オプション]の順に選択します。

DHCP オプション マネージャーは、Thin Client により要求される DHCP オプションの詳細を表示します。

 **ヒント：**DHCP オプション マネージャーの左下隅にあるドロップダウン リストを使用すると、表示される DHCP タグをフィルター処理できます。

特定の DHCP オプションを要求または無視するように Thin Client に指示するには、以下の操作を行います。

▲ [要求]列にあるチェック ボックスにチェックを入れるか、チェックを外します。

DHCP サーバーで特定のコード番号が競合している場合、[DHCP コード]列に鉛筆アイコンが表示されているときは、コード番号を変更できます。

DHCP コードを変更するには、以下の操作を行います。

- ▲ DHCP コードをダブルクリックして、新しい番号を入力します。

 **注記:** 変更可能な DHCP コードを変更できるのは、その DHCP オプションが【要求済み】列で有効になっている間のみです。

Thin Client および DHCP サーバーでの DHCP オプションの使用方法について詳細を確認するには、以下の操作を行います。

- ▲ そのオプションの【情報】列にあるアイコンを選択します。

8 システム情報

システム、ネットワーク、およびソフトウェア情報を表示するには、タスクバーの[システム情報]ボタンを選択します。以下の表では、各パネルに表示される情報について説明します。

| パネル | 説明 |
|----------|--|
| 全般 | BIOS、オペレーティングシステム、CPU、およびメモリに関する情報を表示します |
| ネットワーク | ネットワーク インターフェイス、ゲートウェイ、および DNS 設定に関する情報を表示します |
| ネットツール | 監視およびトラブルシューティングのために、以下のツールを提供します <ul style="list-style-type: none">• [Ping] : ネットワーク上の別のデバイスの IP アドレスを指定して、接続の確立を試みます• [DNS Lookup] : このツールを使用すると、ドメイン名を IP アドレスに解決できます• [Trace Route] : このツールを使用すると、ネットワーク パケットがあるデバイスから別のデバイスへと転送されるときに通過するパスを追跡できます |
| ソフトウェア情報 | インストールされているアドオンの一覧を[サービスパック]タブに、ソフトウェアのバージョン情報を[インストール済みソフトウェア]タブにソフトウェアバージョン情報を表示します ヒント : この画面から管理者ガイド (このガイド) にアクセスすることもできます |
| システム ログ | 以下のログを表示します <ul style="list-style-type: none">• 認証およびセキュリティ• 接続マネージャー• DHCP リース• 一般的なシステム ログ• カーネル• ネットワーク マネージャー• HP Smart Client Services• X Server 管理者モードでは、デバッグレベルを変更すると、トラブルシューティングのために HP サポートから要求される可能性がある追加情報を表示できます 診断ファイルを保存するには、 [診断] を選択します。詳しくは、 79 ページのトラブルシューティングのためのシステム診断の使用 を参照してください |

 **注記** : システム情報画面を非表示にするために使用できるレジストリ キーについては、[168 ページの SystemInfo](#) を参照してください。

9 HP Smart Client Services

HP Smart Client Services とは、多数の Thin Client に配布できるクライアント プロファイルを設定できるようにする、サーバーサイドのツールセットです。この機能は Automatic Update（自動更新）と呼ばれます。

HP ThinPro は起動時に Automatic Update サーバーを検出し、それに従って設定を行います。このため、デバイスのインストールおよびメンテナンス作業が簡略化されています。

サポートされているオペレーティング システム

HP Smart Client Services は、以下のオペレーティング システムをサポートしています。

- Windows 7
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2
- Windows Server 2003
- Windows Vista®
- Windows XP

 **注記:** インストーラー自体は 32 ビットのみですが、Smart Zero Client Services は 32 ビット版および 64 ビット版の Windows オペレーティング システムでサポートされています。

HP Smart Client Services の前提条件

HP Smart Client Services をインストールする前に、以下のコンポーネントの設定およびインストール状況を確認します。

- **IIS (Internet Information Services)**
- **.NET Framework 3.5**

サーバーとして使用するオペレーティング システムでこれらのコンポーネントをインストールまたは有効にする方法について詳しくは、<http://www.microsoft.co.jp/> を参照してください。

HP Smart Client Services の取得

HP Smart Client Services を入手するには、<ftp://ftp.hp.com/pub/tcdebian/SmartClientServices/> にアクセスします。

[自動更新]の Web サイトの表示

1. サーバーのデスクトップで、[スタート]→[コントロールパネル]→[管理ツール]の順に選択します。
2. [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]をダブルクリックします。
3. IIS マネージャーの左側のパネルで、以下のように項目を展開します。
「サーバー名」→[サイト]→[HP Automatic Update]→[auto-update]

 **注記** : [自動更新]のファイルが保存されている物理的な位置は以下のとおりです。

C:\Program Files (x86)\HP\HP Smart Client Service\auto-update

[自動更新]のプロファイルの作成

Automatic Update (自動更新) では、プロファイルを使用して構成を Thin Client に展開します。初期設定では、[Profile Editor] ([73 ページの「Profile Editor」](#)を参照してください) を使用してプロファイルを作成すると、そのプロファイルを以下のフォルダーに保存できます。

C:\Program Files (x86)\HP\HP Smart Client Service\auto-update
\PersistentProfile\

また、HP ThinState を使用して Thin Client から既存のプロファイルをエクスポートし、この場所にコピーすることもできます。

HP ThinPro は、更新を検索するときこのフォルダーをチェックし、このフォルダーに保存されているプロファイルを適用します。これにより、すべての Thin Client が同じ構成を使用するようになります。

特定の MAC アドレス用のプロファイル

特定の MAC アドレス用に[自動更新]のプロファイルを作成できます。これは、複数の Thin Client をそれぞれ異なる構成にする必要がある場合に役立ちます。

特定の MAC アドレス用のプロファイルは、Automatic Update (自動更新) サーバーの以下のフォルダーに保存する必要があります。

C:\Program Files (x86)\HP\HP Smart Client Service\auto-update
\PersistentProfile\MAC\

HP ThinPro は、更新を検索するとき、汎用のプロファイルをチェックしてから、MAC アドレスベースのプロファイルをチェックします。これらのプロファイルが Thin Client 上で統合され、いっしょにインストールされます。このとき、MAC アドレスベースのプロファイルが優先されます。つまり、同じレジストリ キーの値が両方のファイルで異なっている場合は、MAC アドレスベースのプロファイルの値が使用されます。

これにより、共有の構成をすべての Thin Client に展開しながら、必要に応じて、特定のカスタマイズを加えることができます。

ここでは、特定の MAC アドレス用の[自動更新]プロファイルを作成する方法について説明します。

1. システム情報を使用して、Thin Client の MAC アドレスを取得します。たとえば、以下の手順で使用する MAC アドレスは 00fcab8522ac です。
2. [Profile Editor]を使用して、クライアント プロファイルを保存する準備ができるまで、クライアント プロファイルを作成または変更します ([73 ページの「Profile Editor」](#)を参照してください)。

3. [Profile Editor]で、左側のパネルの**[Finish]** (完了) リンクを選択して、**[Current Profile]** (現在のプロファイル) パネルにアクセスします。
4. **[Save profile as]** (名前をつけてプロファイルを保存) を選択して、以下のようにクライアントプロファイルを保存します。

```
C:\Program Files (x86)\HP\HP Smart Client Service\auto-update\PersistentProfile\MAC\00fcab8522ac.xml
```
5. **[Current Profile]** パネルの**[Finish]** ボタンを選択して、[Profile Editor]を終了します。
6. 指定した MAC アドレスを使用する Thin Client を再起動すると、[自動更新]プロセスが開始されます。

Thin Client の更新

ブロードキャスト更新方式の使用

ブロードキャスト更新を実行するには、Thin Client を更新サーバーと同じネットワークに接続します。ブロードキャスト更新は、HP Smart Client Services に依存した機能で、IIS と連動して自動的に更新を Thin Client に配信します。

 **注記**：ブロードキャスト更新は、Thin Client がサーバーと同じサブネット上にある場合にのみ動作します。

 **ヒント**：ブロードキャスト更新が動作していることを確認するには、[Profile Editor]を実行して変更を加えます。Thin Client を接続し、新しいプロファイルがダウンロードされていることを確認します。ダウンロードされていない場合は、[78 ページの「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

DHCP タグ更新方式の使用

Windows Server 2003 および Windows Server 2008 システムでは、DHCP タグ設定を使用して Thin Client を更新できます。この方式を使用すると特定の Thin Client を更新できますが、更新するクライアントが 1 台または 2 台しかない場合は、手動更新の使用を検討してください。それ以外の場合は、ブロードキャスト更新方式をおすすめします。

DHCP タグ設定の実行例

この例では、Windows 2008 R2 サーバーで DHCP タグ設定を実行する方法を示します。

 **注記**：DHCP タグ設定を使用するには、お使いの DHCP サーバーの説明書を参照してください。

1. サーバーのデスクトップで、**[スタート]**→**[管理ツール]**→**[DHCP]**の順に選択します。
2. **[DHCP]**画面の左側のパネルで、Thin Client が接続されているドメインを選択します。
3. **[DHCP]**画面の右側のパネルで、**[IPv4]**を展開してから右クリックして、**[既定のオプションの設定]**を選択します。
4. **[既定のオプションと値]**ダイアログで、**[追加]**を選択します。
5. **[オプションの種類]**ボックスで、以下の表で説明されているようにオプションを設定します。

| フィールド | エントリ |
|--------|-----------------------------|
| 名前 | 「auto-update」と入力します |
| データの種類 | [文字列] を選択します |
| コード | 「137」と入力します |
| 説明 | 「HP Automatic Update」と入力します |

6. **[OK]**を選択します。
7. **[既定のオプションと値]**ダイアログで、**[値]セクション**の**[文字列]**を選択し、更新サーバーのアドレスを以下の例のようなフォーマットで入力します。

```
http://auto-update.dominio.com:18287/auto-update
```
8. 設定を完了するには、**[OK]**を選択します。これで DHCP タグ設定が完了し、特定の Thin Client を更新できるようになりました。

DNS エイリアス更新方式の使用

システムの起動中、[自動更新]によって DNS エイリアス「**auto-update**」の解決が試みられます。このホスト名が解決できた場合、URL「**http://auto-update:18287**」で更新の確認が試みられます。この更新方法を使用すると、Thin Client はドメイン全体にわたって単一の更新サーバーにアクセスできるため、多数のサブネットおよび DHCP サーバーを使用する展開の管理を簡素化できます。

DNS エイリアス更新方式を設定するには、以下の操作を行います。

- ▲ HP Smart Client Services を提供するサーバーのホスト名を「**auto-update**」に変更するか、またはそのサーバーを指定する「**auto-update**」という DNS エイリアスを作成します。

手動更新方式の使用

1 台の Thin Client を特定の更新用サーバーに接続するには、手動更新方式を使用します。また、多数の Thin Client に更新を配信する前に 1 台の Thin Client でその更新をテストする場合や、1 台または 2 台の Thin Client にのみ特定の更新をインストールする場合にこの方式を使用します。

 **注記** : 必ず、更新するプロファイルで手動サーバーのホスト名を指定してください。指定しないと、プロファイルのダウンロード時に設定が自動更新にリセットされます。**[Profile Editor]**を使用し、root/auto-update でこれらの設定を変更します。

 **注記** : 複数の Thin Client で特定の更新が必要な場合は、DHCP タグ設定方式を使用してください。更新の区別が必要ない場合は、ブロードキャスト更新方式を使用してください。

手動更新の実行

1. [コントロールパネル]で[管理]→[自動更新]の順に選択します。
2. [手動設定を有効にする]を選択します。
3. [プロトコル]を[http]に設定します。
4. [サーバー]フィールドに更新サーバーのホスト名およびポートを次の形式で入力します。
<ホスト名>:18287
5. [パス]フィールドに次のように入力します。
auto-update
6. 以前のすべての構成設定を保持する場合は、[Thin Client 構成の保存]を選択します。
7. [OK]を選択します。その後、Thin Client は更新を取得できます。

10 Profile Editor

HP Smart Client Services に含まれている[Profile Editor]を使用すると、管理者はクライアントのプロファイルを作成して Automatic Update（自動更新）サーバーにアップロードできます。

 **ヒント:** 新しいクライアントプロファイルを作成するだけでなく、HP ThinState を使用してエクスポートした既存のプロファイルを編集できます。

クライアントプロファイルには、接続マネージャーおよび[コントロールパネル]のさまざまな項目を使って設定された接続、各種設定、およびカスタマイズ設定が含まれています。クライアントプロファイルは、それが作成された HP ThinPro のバージョンに固有の構成ファイルに保存されます。

[Profile Editor]の起動

▲ スタート→[すべてのプログラム]→[HP]→[HP Automatic Update Server]→[Profile Editor]の順に選択します。

クライアントプロファイルの読み込み

現在読み込まれているクライアントプロファイルの名前は、[Profile Editor]の最初の画面に表示されています。

異なるクライアントプロファイルを読み込むには、以下の操作を行います。

1. [Profile Editor]の最初の画面で、現在読み込まれているクライアントプロファイルの名前を表示しているリンクを選択します。
2. クライアントプロファイルに移動して、**[Open]**（開く）を選択します。

クライアントプロファイルのカスタマイズ

クライアントプロファイルのプラットフォームの選択

[Profile Editor]の**[Platform]**（プラットフォーム）画面を使用して、以下の操作を行います。

- お使いのハードウェアに対応した目的の HP ThinPro イメージバージョンを選択します
- HP ThinPro または HP Smart Zero を選択します。
- 追加のレジストリ設定を提供するインストール済みのクライアントキットを表示します

 **注記:** クライアントキットは以下のディレクトリにあります。

C:\Program Files (x86)\HP\HP Smart Client Service\auto-update\Packages

クライアントプロファイルのプラットフォームを設定するには、以下の操作を行います。

1. [Profile Editor]の**[Platform]**画面で、目的のイメージバージョンに対応する**[OS Build ID]**（OS のビルド ID）を選択します。

 **重要:** ハードウェアの種類ごとに異なるクライアントプロファイルを作成してください。

 **注記** : クライアントキットがインストールされている場合、そのクライアントキットは[Client Kits] (クライアントキット) ボックスに自動的に表示され、追加のレジストリ設定を[Registry] (レジストリ) 画面で使用できるようになります。

2. その構成を[standard] (HP ThinPro) または[zero] (HP Smart Zero) のどちらかに設定します。

 **注記** : イメージバージョンが古い場合、この設定はグレー表示になり、自動的に[zero]に設定されます。

クライアントプロファイルの初期設定の接続の設定

クライアントプロファイルの初期設定の接続を設定するには、以下の操作を行います。

1. [Profile Editor]の[Connection] (接続) 画面で[Type] (種類) ドロップダウンリストから目的の接続インターフェイスを選択します。

 **注記** : 使用可能な接続インターフェイスは、[Platform] (プラットフォーム) 画面で HP ThinPro と HP Smart Zero のどちらを選択したかによって異なります。

2. [Server] (サーバー) フィールドにサーバーの名前または IP アドレスを入力します。

クライアントプロファイルのレジストリ設定の変更

クライアントプロファイルの初期レジストリ設定を変更するには、以下の操作を行います。

1. [Profile Editor]の[Registry] (レジストリ) 画面で、[Registry settings] (レジストリ設定) ツリーのフォルダーを展開して、変更するレジストリ設定を探します。
2. レジストリキーを選択し、[Value] (値) フィールドに目的の値を入力します。

 **注記** : レジストリキーの完全な一覧および説明については、[84 ページの「レジストリキー」](#)を参照してください。

クライアントプロファイルへのファイルの追加

[Profile Editor]の[Files] (ファイル) 画面を使用して構成ファイルを追加すると、Thin Client にクライアントプロファイルがインストールされる時に、そのファイルが自動インストールされます。通常、この機能は以下の目的で使用します。

- 証明書を追加する
- レジストリ設定項目にないデバイス設定を変更する
- カスタムスクリプトの挿入または既存のスクリプトの変更によってシステムの動作を変更する

また、すでに Thin Client にインストールされているファイルを指すシンボリックリンクを指定できます。この機能は、複数のディレクトリからファイルにアクセスする必要がある場合に使用します。

クライアントプロファイルへの構成ファイルの追加

1. [Profile Editor]の[Files] (ファイル) 画面で[Add a file] (ファイルの追加) を選択します。
2. [Import File] (ファイルのインポート) を選択し、インポートするファイルを探して[Open] (開く) を選択します。

 **注記** : ファイルに関する詳細情報が必要な場合は、[Export File] (ファイルのエクスポート) ボタンを使用してファイルをエクスポートすることもできます。

3. [Path] (パス) フィールドに、ファイルを Thin Client にインストールするパスを入力します。

4. **[File details]** (ファイルの詳細) セクションで、**[Owner]** (所有者)、**[Group]** (グループ)、および **[Permissions]** (アクセス権) フィールドを適切な値に設定します。

 **注記:** 通常は、所有者およびグループを **root** に、アクセス権を **644** に設定すれば問題ありません。特別な所有者、グループ、またはアクセス権が必要な場合は、標準的な UNIX® ファイルのアクセス権に関するガイドラインで、ファイルの詳細を変更する方法を確認してください。

5. **[Save]** (保存) を選択して、クライアントプロファイルへの構成ファイルの追加を完了します。

 **注記:** プロファイルの一部としてインストールされたファイルは、追加先のパスでファイルシステム上の既存のファイルを自動的に上書きします。また、ファイルが添付されていない 2 番目のプロファイルが、その前のプロファイルによって変更されたファイルを復元させることはありません。プロファイルへの添付によってインストールされたファイルは恒久的に保存されるため、手動で復元するか、出荷時設定にリセットして復元する必要があります。

クライアントプロファイルへの証明書の追加

クライアントプロファイルには、以下のアプリケーション用の標準的なクライアント証明書ストアにインポートされた証明書が自動的に含まれています。

- VMware Horizon View、Citrix、RDP
- Automatic Update (自動更新)
- HP Smart Client Services
- Web ブラウザーのストア

その他の証明書をクライアントプロファイルにインポートするには、以下の操作を行います。

1. [Profile Editor]の**[Files]** (ファイル) 画面で**[Add a file]** (ファイルの追加) を選択します。
2. **[Import File]** (ファイルのインポート) を選択し、証明書を探して**[Open]** (開く) を選択します。

 **注記:** 証明書は、.pem または .crt ファイル形式でフォーマットされている必要があります。

3. **[Path]** (パス) フィールドで、以下へのパスを設定します。

```
/usr/local/share/ca-certificates
```

4. **[Save]** (保存) を選択して、クライアントプロファイルへの証明書の追加を完了します。
5. クライアントプロファイルがインストールされたら、[証明書マネージャー]を使用して証明書が正しくインポートされたかどうかを確認します。

クライアントプロファイルへのシンボリックリンクの追加

1. [Profile Editor]の**[Files]** (ファイル) 画面で**[Add a file]** (ファイルの追加) を選択します。
2. **[Type]** (種類) ドロップダウンリストで、**[Link]** (リンク) を選択します。
3. **[Symbolic link details]** (シンボリックリンクの詳細) セクションで、すでに Thin Client にインストールされている目的のファイルのパスを**[Link]** フィールドに設定します。
4. **[Save]** (保存) を選択して、シンボリックリンクの追加を完了します。

クライアントプロファイルの保存

1. **[Profile Editor]**で、左側のパネルの**[Finish]** (完了) を選択して、**[Current Profile]** (現在のプロファイル) 画面にアクセスします。
2. **[Save Profile]** (プロファイルの保存) を選択して現在のクライアントプロファイルに保存するか、**[Save Profile As]** (名前をつけてプロファイルを保存) を選択して新しいクライアントプロファイルとして保存します。

 **注記** : **[Save Profile]**が無効になっている場合、クライアントプロファイルは、最後に保存されてから変更されていません。

3. **[Current Profile]**画面の**[Finish]**ボタンを選択して、**[Profile Editor]**を終了します。

シリアルプリンターまたはパラレルプリンターの設定

[Profile Editor]を使用して、シリアルまたはパラレルプリンターのポートを設定できます。USBプリンターは、接続すると自動的にマッピングされます。

プリンターの設定の取得

プリンターポートを設定する前に、プリンターの設定を取得します。プリンターの説明書がある場合は、続行する前に詳細を確認してください。ない場合は、以下の操作を行います。

1. ほとんどのプリンターでは、**[紙送り]**ボタンを押したままにしながら、プリンターの電源を入れます。
2. 数秒後に、**[紙送り]**ボタンを離します。これにより、プリンターがテストモードになり、必要な情報が出力されます。

 **ヒント** : テストモードを終了するには、プリンターの電源を切る必要が生じる場合があります。また、診断ページを印刷するには、**[紙送り]**ボタンをもう一度押す必要が生じる場合があります。

プリンターポートの設定

1. **[Profile Editor]**で、**[Registry]** (レジストリ) を選択してから、**[Show All Settings]** (すべての設定を表示) チェックボックスにチェックを入れます。
2. 接続の種類のプリンターポートマッピングを有効にします。
 - Citrix : 操作は必要ありません。
 - RDP : **root > ConnectionType > freerdp** に移動します。**[connections]** (接続) フォルダを右クリックし、**[New connection]** (新規接続) → **[OK]** の順に選択します。**portMapping** レジストリキーの値を 1 に設定し、プリンターポートマッピングを有効にします。
 - VMware Horizon View : **root > ConnectionType > view** に移動します。**[connections]** フォルダを右クリックし、**[New connection]** → **[OK]** の順に選択します。**[xfreerdpOptions]** フォルダで、**portMapping** レジストリキーの値を 1 に設定して、プリンターポートマッピングを有効にします。

3. **root > Serial** に移動します。**[Serial]** (シリアル) フォルダを右クリックし、**[New UUID]** (新しい UUID) → **[OK]** の順に選択します。
4. 新しいディレクトリの下で、**[baud]** (ポー)、**[dataBits]** (データビット)、**[flow]** (フロー)、および **[parity]** (パリティ) 値を、[76 ページのプリンターの設定の取得](#) で取得されたものに設定します。

[device] (デバイス) 値を接続されるポートに設定します。たとえば、1 つ目のシリアルポートは `/dev/ttyS0`、2 つ目のシリアルポートは `/dev/ttyS1` となり、以下同様になります。USB シリアルプリンターでは、`/dev/ttyUSB#` という形式 (# は 0 から始まるポート番号) を使用します。

サーバーへのプリンターのインストール

1. Windows デスクトップで、**[スタート]** → **[プリンターと FAX]** の順に選択します。
2. **[プリンターの追加]** → **[次へ]** の順に選択します。
3. **[このコンピュータに接続されているローカルプリンタ]** を選択し、必要に応じて、**[プラグアンドプレイ対応プリンタを自動的に検出してインストールする]** のチェックを外します。
4. 完了したら、**[次へ]** を選択します。
5. メニューで、ポートを選択します。

 **注記:** 必要なポートは、「**TS###**」と書かれたポートのセクションにあります。ここで、### は 000 ~ 999、および 033 ~ 044 の数字です。適切なポートは、ホスト名およびインストールするプリンターによって決まります。たとえば、ZTAHENAKOS というホスト名およびシリアルプリンターを使用する場合は、「**(ZTAHENAKOS:COM1)**」と書かれたポートを選択します。パラレルプリンターの場合は、**(ZTAHENAKOS:LPT1)** を選択します。**TS###** 部分はサーバーによって割り当てられるため、毎回同じになることはありません。

6. プリンターの製造元およびドライバーを選択します。

 **ヒント:** 必要に応じて、**[Windows Update]** ドライバー ディスクを使用してドライバーをインストールします。

 **注記:** 基本的な印刷やテスト印刷では、通常は **[汎用メーカー]** または **[汎用/テキストのみ]** のプリンターが動作します。

7. 動作することがわかっている既存のドライバーをそのまま使用するよう求められた場合は、ドライバーを変更しないで **[次へ]** を選択します。
8. プリンターに名前を割り当てます。このプリンターを初期設定のプリンターとして使用するには、**[はい]** → **[次へ]** の順に選択します。
9. プリンターを共有するには、**[共有名]** を選択して、プリンターに共有名を割り当てます。共有しない場合は、**[次へ]** を選択します。
10. 次のページで、テスト印刷の実行を求められる場合があります。このテストによってプリンターの設定が正しいかどうかを確認できるため、このテストを実行することをおすすめします。プリンターが正しく設定されていない場合は、設定を確認して、もう一度試してください。

 **注記:** Thin Client がサーバーから切断されている場合は、次に Thin Client を接続したときにプリンターをもう一度設定する必要があります。

11 トラブルシューティング

ネットワーク接続のトラブルシューティング

1. 以下の操作を行って、目的のサーバーに ping を送信します。
 - a. タスクバーの[システム情報]ボタンを選択して、[ネットツール]タブを選択します。
 - b. [ツールの選択]で、[Ping]を選択します。
 - c. [ターゲットホスト]ボックスにサーバーのアドレスを入力してから、[プロセスの開始]を選択します。

ping に成功すると、システムに以下のような出力が表示されます。

```
PING 10.30.8.52 (10.30.8.52) 56(84) bytes of data.
```

```
64 bytes from 10.30.8.52: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.815 ms 64 bytes  
from 10.30.8.52: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.735 ms
```

ping に失敗した場合は、Thin Client がネットワークから切断され、長い遅延が発生してシステム出力が表示されない可能性があります。

2. Thin Client が ping に応答しない場合は、以下の操作を行います。
 - a. [コントロールパネル]で、ネットワークケーブルおよびネットワーク設定を確認します。
 - b. 他のサーバーまたは Thin Client に対して ping を実行してみます。
 - c. 他の Thin Client に到達できた場合は、正しいサーバー アドレスを入力していることを確認します。
 - d. ドメイン名の代わりに IP アドレスを使用して ping を実行するか、または IP アドレスの代わりにドメイン名を使用して ping を実行します。
3. 以下の操作を行って、システム ログを確認します。
 - a. タスクバーの[システム情報]ボタンを選択して、[システム ログ]タブを選択します。
 - b. ログにエラーがないかどうかを確認します。
 - c. エラーがある場合は、[Server is not set up] (サーバーが設定されていません) という通知が表示されます。サーバーが正しく設定されており、HP Smart Client Services が実行されていることを確認します。

Citrix のパスワードの有効期限の問題に関するトラブルシューティング

有効期限が切れた Citrix のパスワードの変更を求めるメッセージが表示されない場合は、XenApp Services サイト (PNAgent サイト) で、認証方法が **[Prompt]** (プロンプト) に設定されていて、有効期限が切れたパスワードをユーザーが変更できるようになっていることを確認します。ユーザーがドメインコントローラーに直接接続してパスワードを変更できるようになっている場合は、Thin Client とドメインコントローラーの同期時刻を確認します。さらに、Citrix のログイン資格情報を入力するとき、完全ドメイン名 (domain_name.com など) を使用します。詳しくは、Citrix のドキュメントを参照してください。

トラブルシューティングのためのシステム診断の使用

システム診断では、Thin Client のスナップショットを取得することで、Thin Client に直接アクセスしなくても問題を解決できるようにします。このスナップショットには、BIOS の情報からシステム診断の実行時に行われていたプロセスまでを記録したログファイルが含まれます。

 **ヒント:** [システム情報] ウィンドウの [システム ログ] タブで [デバッグ レベル] 設定を変更して、診断レポートに含める情報の量を指定できます。この情報は、トラブルシューティングのために HP から要求されることがあります。システムは再起動時にログファイルをリセットするため、必ず再起動前にログを記録してください。

システム診断データの保存

1. USB フラッシュ ドライブを Thin Client に接続します。
2. タスクバーの [システム情報] ボタンを選択して、[システム ログ] タブを選択します。
3. [診断] を選択し、圧縮された診断ファイル **Diagnostic.tgz** を USB フラッシュ ドライブに保存します。

システム診断ファイルの解凍

システム診断ファイル **Diagnostic.tgz** は圧縮されているため、診断ファイルを表示するには解凍する必要があります。

Windows ベースのシステムでのシステム診断ファイルの解凍

1. Windows 版の **7-Zip** のコピーをダウンロードしてインストールします。
 **注記:** Windows 用の 7-Zip は <http://www.7-zip.org/download.html> から無料で取得できます。
2. システム診断ファイルを保存した USB フラッシュ ドライブを接続し、**Diagnostic.tgz** をデスクトップにコピーします。
3. **Diagnostic.tgz** を右クリックし、[7-Zip] → [展開] の順に選択します。
4. [Diagnostic] という名の新しく作成されたフォルダーを開き、**Diagnostic.tar** に対して手順 3 を繰り返します。

Linux または UNIX ベースのシステムでのシステム診断ファイルの解凍

1. システム診断ファイルを保存した USB フラッシュドライブを接続し、**Diagnostic.tgz** をホームディレクトリにコピーします。
2. ターミナルを開き、ホームディレクトリを参照します。
3. コマンドラインで、「`tar xvfz Diagnostic.tgz`」と入力します。

システム診断ファイルの表示

システム診断ファイルは、**[Commands]**フォルダー、**[/var/log]**フォルダー、および**[/etc]**フォルダーに分割されます。

[Commands]フォルダーのファイルの表示

以下の表に、**[Commands]**フォルダーで確認できるファイルを示します。

| ファイル | 説明 |
|-----------------|---|
| demidecode.txt | このファイルには、システム BIOS およびグラフィックスに関する情報が記載されます |
| dpkg_--list.txt | このファイルには、システム診断が実行されたときにインストールされたパッケージが一覧表示されます |
| ps_--ef.txt | このファイルには、システム診断が実行されたときに行われていたプロセスが一覧表示されます |

[/var/log]フォルダーのファイルの表示

[/var/log]フォルダーで役に立つファイルは、**[Xorg.0.log]**です。

[/etc]フォルダーのファイルの表示

[/etc]フォルダーには、システム診断が実行されたときのファイルシステムが記載されます。

A USB のアップデート

USB のアップデートが有効になっていると ([56 ページの ThinPro の構成 \(カスタマイズセンター\)](#)) を参照してください)、USB フラッシュドライブを使用して複数のアドオンおよび証明書を同時にインストールし、プロファイルを展開できます。

USB のアップデートを実行するには、以下の操作を行います。

1. 目的のファイルを USB フラッシュドライブ上に置きます。

 **注記：**それらのファイルは、ルートディレクトリまたはサブフォルダーに配置できます。

2. USB フラッシュドライブを Thin Client に接続します。
アップデートが自動的に検出され、**[USB のアップデート]**ダイアログに表示されます。このダイアログで、検出されたアップデートの詳細を検索および表示できます。
3. インストール対象の更新プログラムの横にあるチェックボックスにチェックを入れて、**[インストール]**を選択します。
4. インストール後、再起動を求めるメッセージが表示されたら、Thin Client を再起動します。

HP ThinUpdate

HP ThinUpdate を使用すると、HP からイメージおよびアドオンをダウンロードしたり、イメージの展開のために起動可能な USB フラッシュドライブを作成したりできます。詳しくは、HP ThinUpdate の管理者ガイドを参照してください。

B BIOS ツール（デスクトップ Thin Client のみ）

HP ThinPro 用の BIOS ツールは 2 種類あります。

- BIOS 設定ツール：BIOS 設定の取得または変更に使われます。
- BIOS フラッシュツール：BIOS の更新に使われます。

これらのツールは、X ターミナルから実行できます。

BIOS 設定ツール

以下の表では、BIOS 設定ツールの構文について説明します。

 **注記：** 行った変更は、次に再起動するまで反映されません。

| 構文 | 説明 |
|---|---|
| <code>hptc-bios-cfg -G <ファイル名></code> | 現在の BIOS 設定を取得し、それらを表示または変更できるように指定のファイル（初期設定では CPQSETUP.TXT）に保存します |
| <code>hptc-bios-cfg -S <ファイル名></code> | BIOS 設定を指定のファイル（初期設定では CPQSETUP.TXT）から BIOS に書き込みます |
| <code>hptc-bios-cfg -h</code> | オプションの一覧を表示します |

BIOS フラッシュツール

以下の表では、BIOS フラッシュツールの構文について説明します。

 **注記：** 行った変更は、次に再起動するまで反映されません。

| 構文 | 説明 |
|--|--|
| <code>hptc-bios-flash <イメージ名></code> | 次の再起動時に BIOS を更新するようにシステムを準備します。このコマンドによって、ファイルが自動的に正しい場所にコピーされた後、Thin Client を再起動するよう求められます 注記： このコマンドを実行するには、BIOS 設定の [Tool-less update] （ツールを使用しない更新）オプションを [Auto] （自動）に設定しておく必要があります |
| <code>hptc-bios-flash -h</code> | オプションの一覧を表示します |

C フラッシュドライブパーティションのサイズ変更

 **重要** : HP ThinPro とともに出荷される HP Thin Client はフラッシュドライブ全体を使用しますが、イメージのキャプチャでは、必要最小限のイメージがキャプチャされます。そのため、イメージを展開できる領域があれば、元のフラッシュドライブよりも小さなフラッシュドライブに展開できます。フラッシュドライブパーティションのサイズ変更は、HP ThinPro とともに出荷される HP Thin Client では必要ありません。何らかの理由で、HP ThinPro の Thin Client がフラッシュドライブ全体を使用していない場合は、以下の情報を参照してください。

フラッシュドライブの領域全体を使用するには、パーティションサイズを変更し、その追加領域を含めるようにファイルシステムを拡張します。このためには、Xターミナルから `resize-image` スクリプトを使用します。

 **注記** : [HPDM]、HP ThinState、または Automatic Update (自動更新) を使用してイメージが展開されると、ファイルシステムはサイズが自動的に変更され、フラッシュドライブ上の使用可能な領域をすべて使用します。

以下の表では、`resize-image` スクリプトの構文について説明します。

| 構文 | 説明 |
|---|---|
| <code>resize-image</code> | パラメーターなしで呼び出されると、このスクリプトはパーティションの現在のサイズおよびフラッシュドライブで使用できる容量を表示します。このスクリプトから、ターゲットパーティションのサイズを入力して、変更内容を確認するよう求められます。変更内容は、次に Thin Client が再起動したときに有効になります 注記 : パーティションサイズを小さくすることはできません。入力する値は、現在のパーティションサイズよりも大きくする必要があります |
| <code>resize-image --size <サイズ (MB) ></code> 例 : <code>resize-image --size 1024</code> | この構文を使用すると、ターゲットパーティションのサイズをパラメーターとしてメガバイト (MB) 単位で指定してから、変更内容を確認できます |
| <code>resize-image --no-prompt</code> または <code>resize-image --no-prompt --size <サイズ (MB) ></code> 例 : <code>resize-image --no-prompt --size 1024</code> | この構文を使用すると、ユーザーの操作がなくてもスクリプトが自動的に実行されます 特定のサイズがパラメーターとして同時に指定されていない場合、パーティションサイズは最大サイズまで増やされます ヒント : この非対話形式モードは、この操作をスクリプト化して、[HP Device Manager] のようなリモート管理ツールから実行する場合に役立ちます |

D レジストリ キー

HP ThinPro のレジストリ キーは複数のフォルダーにグループ化されており、以下のどれかの方法で変更できます。

- [HPDM]で[_File and Registry]タスクを使用する
- [Profile Editor]の[レジストリ エディター]を使用した後、新しいプロファイルを展開する
- HP ThinPro ユーザー インターフェイスで[レジストリ エディター]を使用する。これを使用するには X ターミナルで「regeditor」と入力します

この付録の各セクション名は、最上位のレジストリ フォルダーのどれかにそれぞれ対応しています。

 **注記：**一部のレジストリ キーは、HP ThinPro または HP Smart Zero にしか適用されない場合があります。

Audio

| レジストリ キー | 説明 |
|----------------------------|--|
| root/Audio/AdjustSoundPath | 再生音量が音量コントロールで変更されたときに再生されるサウンドへのフルパスを設定します |
| root/Audio/JackRetask | このレジストリ キーは、用途の変更が可能なコネクタのある Thin Client にも適用されます t730 の正面下部のコネクタの場合： <ul style="list-style-type: none">• 0/1：変更なし/ヘッドフォン• 2：マイク t630 の背面のコネクタの場合： <ul style="list-style-type: none">• 0：変更なし/ライン入力• 1：ヘッドフォン/ライン出力 これらの設定の変更後に、Thin Client を再起動する必要があります |
| root/Audio/OutputMute | 1 に設定すると、内蔵スピーカーおよびヘッドフォンコネクタのミュート（消音）が有効になります |
| root/Audio/OutputScale | 内蔵スピーカーおよびヘッドフォン コネクタの音量スケールを設定します（1～400） |
| root/Audio/OutputScaleAuto | 1 に設定すると、OutputScale の値が Thin Client モデルに基づいて自動的に設定されます |
| root/Audio/OutputVolume | 内蔵スピーカーおよびヘッドフォン コネクタの音量を設定します（1～100） |
| root/Audio/PlaybackDevice | 再生に使用するデバイスを設定します |
| root/Audio/PulseBuffer | この値の推奨範囲は 1024～8192 です。値が高すぎると再生が乱れることがあり、値が低すぎると Thin Client がクラッシュすることがあります |

| レジストリキー | 説明 |
|--------------------------------|---|
| root/Audio/RecordDevice | 録音に使用するデバイスを設定します |
| root/Audio/RecordMute | 1 に設定すると、マイク コネクタのミュート（消音）が有効になります |
| root/Audio/RecordScale | マイク コネクタの音量スケールを設定します（1～400） |
| root/Audio/RecordScaleAuto | 1 に設定すると、RecordScale の値が Thin Client モデルに基づいて自動的に設定されます |
| root/Audio/RecordVolume | マイク コネクタの音量を設定します（1～100） |
| root/Audio/VisibleInSystray | 1 に設定すると、スピーカー アイコンがシステムトレイに表示されます |
| root/Audio/shortcutPassThrough | オーディオ用ショートカットのパススルーを許可するアプリを定義します。アプリとアプリの間はスペースで区切ります。freerdp、view、および xen がオプションとして設定可能です |

CertMgr

このレジストリ カテゴリは内部的に使用され、ユーザー定義のエントリはありません。

ComponentMgr

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/ComponentMgr/NotShowDeleteSnapshotWarning | 1 に設定すると、スナップショットを削除するときに警告情報が非表示になります |

ConnectionManager

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionManager/customLogoPath | |
| root/ConnectionManager/defaultConnection | 起動時に接続が正常に開始されるようにするには、次の例のように、<種類>:<ラベル>形式を使用してこの値を有効な接続に設定する必要があります： xen:Default Connection |
| root/ConnectionManager/minHeight | |
| root/ConnectionManager/minWidth | |
| root/ConnectionManager/splashLogoPath | 接続が読み込まれているときに表示される画像へのフルパスを設定します |
| root/ConnectionManager/useKioskMode | |
| root/ConnectionManager/useSplashOnConnectionStartup | 1 に設定すると、splashLogoPath によって設定されたイメージが有効になります。初期設定では、これは |

| レジストリキー | 説明 |
|---------|--|
| | HP ThinPro では有効に、HP Smart Zero では無効になっています |

ConnectionType

Custom

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/custom/authorizations/user/add | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/custom/authorizations/user/general | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/afterStartedCommand | 接続が開始された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/afterStoppedCommand | 接続が停止された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/authorizations/user/edit | 1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/authorizations/user/execution | 1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/autoReconnect | 1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/autoReconnectDelay | セッションが再接続されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnect が 1 に設定されている場合にのみ有効です |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/autostart | 1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます（1 の値が最も高い優先度になります） |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/autostartDelay | システムの起動後に接続が開始されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が開始されます。この設定は、autostart が 1 に設定されている場合にのみ有効です |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/beforeStartingCommand | 接続が開始される前に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/command | 実行するカスタム接続用のメインのコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/connectionEndAction | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/coord | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/dependConnectionId | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key | その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value | その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/fallBackConnection | 予備接続を、その UUID を使用して設定します |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/hasDesktopIcon | 1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/label | ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/startMode | 初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます |
| root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/waitForNetwork | 1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/USBrelevant | この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/appName | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/className | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/editor | この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/generalSettingsEditor | この接続インターフェイス用の全般設定マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/icon16Path | このアプリケーションの 16×16 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/icon32Path | このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/icon48Path | このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/label | ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/priorityInConnectionLists | 初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/serverRequired | サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/stopProcess | connection-mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/watchPid | 1 に設定すると、appName で指定された名前で接続が監視されます。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/custom/coreSettings/wrapperScript | この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/name | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/status | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/title | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/widgets/autoReconnect | Custom 接続マネージャーでの [自動再接続] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/widgets/autostart | Custom 接続マネージャーでの [自動開始の優先度] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティ |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| | ブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/custom/gui/ CustomManager/widgets/command | Custom マネージャーでの [実行するコマンドを入力してください] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/custom/gui/ CustomManager/widgets/fallBackConnection | Custom 接続マネージャーでの [予備接続] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/custom/gui/ CustomManager/widgets/hasDesktopIcon | Custom 接続マネージャーでの [デスクトップにアイコンを表示] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/custom/gui/ CustomManager/widgets/label | Custom 接続マネージャーでの [名前] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/custom/gui/ CustomManager/widgets/waitForNetwork | Custom 接続マネージャーでの [接続前にネットワークを待機する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

firefox

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/firefox/ authorizations/user/add | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/firefox/ authorizations/user/general | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアク |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| | セス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/address | 接続先の URL または IP アドレスを設定します |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/afterStartedCommand | 接続が開始された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/afterStoppedCommand | 接続が停止された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/authorizations/user/edit | 1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/authorizations/user/execution | 1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/autoReconnect | 1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/autoReconnectDelay | セッションが再接続されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnect が 1 に設定されている場合にのみ有効です |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/autostart | 1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます（1 の値が最も高い優先度になります） |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/autostartDelay | システムの起動後に接続が開始されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が開始されます。この設定は、autostart が 1 に設定されている場合にのみ有効です |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/beforeStartingCommand | 接続が開始される前に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/connectionEndAction | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/coord | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/dependConnectionId | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/enablePrintDialog | 1 に設定すると、Web ブラウザーで印刷ダイアログが使用できます |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/enableSmartCard | 1 に設定すると、Web ブラウザーで作成された Citrix 接続でスマートカードログインが有効になります |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key | その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value | その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/fallBackConnection | 予備接続を、その UUID を使用して設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/forbiddenFiles | このレジストリキーは、Web Browser 接続の全般設定マネージャーで [接続ごとに個別の設定を保存することを許可する] が選択されている場合にのみ有効になります。このレジストリキーの値で指定されているファイルが、Web Browser 接続の終了後に削除されます。ファイル名はコンマで区切ってください。また、ワイルドカードを使用できます。例： *.rdf,cookies.sqlite |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/fullscreen | 1 に設定すると、Web ブラウザーが全画面で起動します。kioskMode を無効にすると、ブラウザーのユーザー インターフェイスを全画面モードで使用できるようになります |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/hasDesktopIcon | 1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/intendedUse | この Web Browser 接続の使用目的を、Citrix、RDP、または Internet に設定します |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/kioskMode | 1 に設定すると、Web ブラウザーがキオスク モードで開始されるため、(fullscreen が 0 に設定されている場合でも) Web ブラウザーは全画面で起動し、ブラウザーのユーザー インターフェイスは使用できなくなります |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/label | ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showBackForwardButton | 1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に Web ブラウザーの戻るボタンおよび進むボタンが表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showHomeButton | 1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に Web ブラウザーのホーム ボタンが表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showSearchBar | 1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に Web ブラウザーの検索バーが表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showTabsBar | 1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に Web ブラウザーのタブが表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showTaskBar | 1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に Web ブラウザーのタスクバーが表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showUrlBarRefreshButton | 1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に URL バーおよび更新ボタンが表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/startMode | 初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます |
| root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/waitForNetwork | 1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/USBrelevant | この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/appName | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/className | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/editor | この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/generalSettingsEditor | この接続インターフェイス用の全般設定マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/icon16Path | このアプリケーションの 16×16 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/icon32Path | このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/icon48Path | このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/label | ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/priorityInConnectionLists | 初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/restartIdleTime | システムがユーザー入力を受け取らなかったときに Web ブラウザーが再起動するまでの時間 (分) を設定します。0 に設定すると、再起動が無効になります |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/serverRequired | サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/stopProcess | connection_mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します |
| root/ConnectionType/firefox/coreSettings/wrapperScript | この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライ |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| | インジ数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/firefox/general/enableUserChanges | 1 に設定すると、[Firefox Preferences] (Firefox 設定) ダイアログで構成された設定が各セッション後に保存されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/name | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/status | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/title | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/widgets/address | Web Browser 接続マネージャーでの[URL]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/widgets/autoReconnect | Web Browser 接続マネージャーでの[自動再接続]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/widgets/autostart | Web Browser 接続マネージャーでの[自動開始の優先度]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/widgets/enablePrintDialog | Web Browser 接続マネージャーでの[印刷ダイアログを有効にする]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/widgets/fallBackConnection | Web Browser 接続マネージャーでの[予備接続]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/hasDesktopIcon | Web Browser 接続マネージャーでの [デスクトップにアイコンを表示] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/kioskMode | Web Browser 接続マネージャーでの [キオスクモードを有効にする] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/label | Web Browser 接続マネージャーでの [名前] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/ showBackForwardButton | Web Browser 接続マネージャーでの [戻るボタンおよび進むボタンを表示する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/showHomeButton | Web Browser 接続マネージャーでの [ホームボタンを表示する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/showSearchBar | Web Browser 接続マネージャーでの [検索バーを表示する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/showTabsBar | Web Browser 接続マネージャーでの [タブバーを表示する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/showTaskBar | Web Browser 接続マネージャーでの [タスクバーを表示する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/ showUrlBarRefreshButton | Web Browser 接続マネージャーでの [URL バーおよび更新ボタンを表示する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/startMode | Web Browser 接続マネージャーでの [全画面表示を有効にする] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/waitForNetwork | Web Browser 接続マネージャーでの [接続前にネットワークを待機する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

freerdp

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/freerdp/ authorizations/user/add | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/freerdp/ authorizations/user/general | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/ <UUID>/ExtraArgs | xfreerdp クライアントに対する追加の引数を指定します。利用可能なすべての引数を表示するには、X ターミナルから <code>xfreerdp --help</code> を実行します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/ <UUID>/SingleSignOn | |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/ <UUID>/address | 接続先のホスト名または IP アドレスを設定します。ポート番号を末尾に追加するには、コロンを入力し、 |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| | その後ポート番号を入力します。例： servername:3389 |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/afterStoppedCommand | 接続が停止された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/application | 実行するアプリケーションの代替シェルを指定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/attachToConsole | |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/audioLatency | デコード後に、オーディオストリームが再生されてから対応するビデオフレームが表示されるまでの平均オフセット時間（ミリ秒）を設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/authorizations/user/edit | 1に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/authorizations/user/execution | 1に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/autoReconnect | 1に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/autoReconnectDelay | セッションが再接続されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の0では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnectが1に設定されている場合にのみ有効です |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/autostart | 1~5の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます（1の値が最も高い優先度になります） |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/autostartDelay | システムの起動後に接続が開始されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の0では、すぐに接続が開始されます。この設定は、autostartが1に設定されている場合にのみ有効です |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/bandwidthLimitation | 0より大きい値に設定すると、ダウンロードおよびアップロードの帯域幅がおおよそこの値（kbps単位）にまで制限されます。0（初期設定）に設定すると、制限されません |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/beforeStartingCommand | 接続が開始される前に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/clipboardExtension | 1に設定すると、異なるRDPセッション間、およびRDPセッションとローカルシステムの間でクリップボード機能が有効になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/compression | 1に設定すると、クライアントとサーバーの間で送信されるRDPデータの圧縮が有効になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/credentialsType | ss0（シングルサインオン）、startup（開始時に資格情報を要求）、password（事前に設定されたユーザー/ドメイン/パスワード）、またはsmartcard（事前に設定されたスマートカード）の中から資格情報の種類を指定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/dependConnectionId | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/directory | 代替シェルアプリケーションが実行される起動ディレクトリを指定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/disableMMRwithRFX | 1 に設定すると、有効な RemoteFX セッションが確立されたときにマルチメディアリダイレクトが無効になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/domain | ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のドメインを設定します。ドメインが指定されていない場合は、リモートホストの初期設定のドメインが使用されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key | その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value | その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/fallBackConnection | 予備接続を、その UUID を使用して設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/frameAcknowledgeCount | サーバーがクライアントからの確認応答を待たずに送信できるビデオフレームの数を設定します。数字を小さくするほど、デスクトップの応答が速くなりますが、フレームレートが下がります。0 に設定すると、クライアントとサーバー間のやり取りで確認応答が行われません |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayAddress | RD ゲートウェイのサーバー名またはアドレスを設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayCredentialsType | 資格情報を sso (シングルサインオン)、startup (開始時に資格情報を要求)、または password (事前に設定されたユーザー/ドメイン/パスワード) のどの種類で提供するかを指定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayDomain | ログイン時に RDP ゲートウェイに送信する初期設定のドメインを設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。gatewayUsesSameCredentials を 1 に設定すると、この値が無効になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayEnabled | 1 に設定すると、RD ゲートウェイの使用が想定されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayPassword | ログイン時に RDP ゲートウェイに送信する初期設定のパスワードを設定します。この値は通常、暗号化されます。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。gatewayUsesSameCredentials を 1 に設定すると、この値が無効になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayPort | RDP サーバーへの接続時に使用するポート番号を設定します。この値は空のままでもかまいません。最も一般的な値は 443 です |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayUser | ログイン時に RDP ゲートウェイに送信する初期設定のユーザー名を設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。gatewayUsesSameCredentials を 1 に設定すると、この値が無効になります |

| レジストリ キー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayUsesSameCredentials | 1 に設定すると、最後のサーバーへの接続に使用されるものと同じ資格情報が RD ゲートウェイへの接続に使用されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/hasDesktopIcon | 1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/label | ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loadBalanceInfo | この値は、接続時にサーバーに送信されるブローカー用の負荷分散 Cookie で、.rdp ファイルの loadbalanceinfo フィールドに対応します。初期設定では、この値は空です |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/localPartitionRedirection | 1 に設定すると、USB 以外のローカルストレージパーティションが、ストレージ拡張機能を使用してリモートホストにリダイレクトされます。0 に設定すると、この拡張機能が HP ThinPro で使用していない USB 接続以外のストレージパーティションに対して無効になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/domain | 1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[ドメイン]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/password | 1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[パスワード]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/rememberme | 1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[このアカウントを記憶する]チェックボックスが表示されます。2 に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェックボックスは非表示になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/showpassword | 1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[パスワードを表示する]ボタンが表示されます。2 に設定すると、ボタンは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、ボタンは非表示になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/smartcard | 1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[スマートカードを使用したログイン]チェックボックスが表示されます。2 に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェックボックスは非表示になります。このオプションが有効になっている場合でも、スマートカードが検出されないときには、このチェックボックスは表示されないことがあります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/username | 1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[ユーザー名]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/mouseMotionEvents | 0 に設定すると、マウス移動イベントがサーバーに送信されません。このため、ツールチップなどの一部の |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| | ユーザーフィードバックが正しく機能しなくなる可能性があります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/offScreenBitmaps | 0 に設定すると、オフスクリーンビットマップが無効になります。これにより、パフォーマンスがわずかに向上する可能性があります。画面を構成する各ブロックが同時に更新されなくなるため、画面が均一に遷移しなくなります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/password | ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のパスワードを設定します。この値は暗号化されます。通常、この設定は、汎用パスワードをログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagDesktopComposition | 1 に設定すると、サーバーでサポートされている場合に、デスクトップ構成（半透明の境界線など）が許可されます。デスクトップ構成を無効にすると、帯域幅の低い接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。通常、この設定は RemoteFX のみに影響します。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagFontSmoothing | 1 に設定すると、サーバーでサポートされていて有効になっている場合に、フォントスムージングが有効になります。フォントスムージングを無効にすると、帯域幅の低い接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoCursorSettings | 1 に設定すると、カーソルの点滅が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoCursorShadow | 1 に設定すると、マウスカーソルの影が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoMenuAnimations | 1 に設定すると、メニューのアニメーションが無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoTheming | 1 に設定すると、ユーザーインターフェイスのテーマが無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoWallpaper | 1 に設定すると、デスクトップの壁紙が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoWindowDrag | 1 に設定すると、ウィンドウの全内容のドラッグが無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。ただし、ウィンドウの外枠は表示されます。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/portMapping | 1に設定すると、すべてのシリアルポートおよびパラレルポートが、ポート拡張機能を使用してリモートホストにリダイレクトされます。0に設定すると、拡張機能が無効になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/printerMapping | 1に設定すると、CUPS 経由でローカルで定義されているすべてのプリンターが、プリンター拡張機能を使用してリモートホストにリダイレクトされます。0に設定すると、拡張機能が無効になります。2に設定すると、USB プリンターは[USB マネージャー]の構成に従ってリダイレクトされます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/autoDisconnectTimeout | RemoteApp およびデスクトップリソースが実行されなくなってから接続が自動的に終了するまでの時間(分)を設定します。最後の20秒間はカウントダウンカウンターが表示され、ユーザーがタイマーを解除できるようにになります。0(初期設定)に設定すると、タイマーが無効になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/autoStartSingleResource | 1に設定すると、サーバーから単一の公開されたリソース(RemoteApp プログラムまたは仮想デスクトップ)のみが返された場合に、そのリソースが自動的に起動されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/filter/<UUID>/alias | リソースフィルター用のリソースのエイリアスを指定します。ユーザーは、エイリアスが一致する RemoteApp およびデスクトップのリソースを使用できます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/filter/<UUID>/name | リソースフィルター用のリソースの名前を指定します。ユーザーは、名前が一致する RemoteApp およびデスクトップのリソースを使用できます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/keepResourcesWindowOpened | 0に設定すると、リソースの起動後に、リソース選択ウィンドウが自動的に閉じられます。1に設定すると、リソースの起動後も、リソース選択ウィンドウは開いたままになります。この場合、ユーザーは、複数のリソースを起動してからリソース選択ウィンドウを閉じることができます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/trustedPublisherSha1Thumbprints | 信頼できるリソースの公開者の SHA1 サンプリのコンマ区切りリストを指定します。これらのサンプリのどれかに一致する証明書は検証されません。セキュリティを強化するには、その公開者のルート CA をインポートしてください。また、レジストリキーの verifyPublisherSignature および[コントロールパネル]の[証明書マネージャー]も確認してください |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/verifyPublisherSignature | 1に設定すると、公開された.rdp ファイルに公開者が署名している場合に、その署名が検証されます。信頼できる公開者からの有効な署名があるリソースのみを実行できます。0に設定すると、署名の検証は行われません。また、レジストリキー trustedPublisherSha1Thumbprints も確認してください |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdp6Buffering | 1に設定すると、画面更新の頻度を下げることにより、RemoteFX 以外のグラフィックスのパフォーマンスを向上させます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdp8Codecs | 1に設定すると、利用できる場合に RDP 8 コーデックが使用されます。RDP 8 コーデックに固有の問題があ |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdpEncryption | <p>する場合のみ、この設定を無効にする必要があります。この設定を無効にすると、より高度なコーデックも無効になる場合があります</p> |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdpH264Codec | <p>1 に設定すると、利用できる場合に RDP 8 H.264 コーデックが使用されます。この設定には既知の表示エラーがあり、特に複数のモニターの構成でエラーが発生します。これは試験的な設定であり、サポートされていません。この設定を有効にしても、Thin Client がデスクトップ表示で H.264 をサポートしていることがサーバーに通知されるだけです。サーバーも H.264 をサポートしている必要があります、どのコーデックを使用するかはサーバー側で最終的に決定されます。この設定はデスクトップ用コーデックにのみ影響します。マルチメディアリダイレクト用コーデックには影響しません</p> |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdpProgressiveCodec | <p>1 に設定すると、利用できる場合に RDP 8 プログレッシブコーデックが使用されます。RDP 8 プログレッシブコーデックに固有の問題がある場合のみ、この設定を無効にする必要があります。この設定を無効にすると、より高度なコーデックも無効になる場合があります</p> |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/redirectPreference | <p>RDP クライアントには、複数のリダイレクト先があります。通常は、FQDN、プライマリ IP、IP 一覧、NetBIOS の順でリダイレクトを試行します。FQDN が目的のリダイレクト先でない場合は、このレジストリキーを設定することで、別のリダイレクト先を最初に試すことが可能になります。指定した方式がうまくいかない場合、RDP クライアントは順序を元に戻します。auto に設定すると、元の順序が強制的に使用されます</p> |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/remoteApp | <p>RAIL (Remote Application Integrated Locally) モードで実行可能なアプリケーションの名前を指定します</p> |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/remoteDesktopService | <p>Remote Computer に設定すると、リモートコンピューターへの直接 RDP 接続が実行されます。RD Web Access に設定すると、RD Web アクセス サービスへの接続が最初に行われ、公開されている RemoteApp リソースのフィードが取得されます</p> |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/remoteFx | <p>1 に設定すると、利用できる場合に RDP 7.1 のスタイルの RemoteFX が使用されます。この設定は推奨されておらず、HP ThinPro の将来のリリースで廃止される可能性があります。RemoteFX プロトコルに固有の問題がある場合のみ、この設定を無効にする必要があります。この設定を無効にすると、より高度なコーデックも無効になる場合があります</p> |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/scCertificate | <p>事前に設定されたスマートカードログインを選択した場合に、スマートカード上の証明書に対応する ID が認証に使用されます</p> |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/scPin | <p>事前に設定されたスマートカードログインを選択した場合に、そのスマートカードの PIN またはパスワードを指定します</p> |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/seamlessWindow | 1 に設定すると、ウィンドウの装飾が無効になります。マルチモニター設定でプライマリモニターのサイズを接続側で設定できるようにする場合には、この設定をおすすめします |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/securityLevel | 証明書のセキュリティレベルを設定します。0 に設定すると、すべての接続が許可されます。1 に設定すると、記録されているホストが選択され、検証に合格しなかった場合は警告ダイアログが表示されます。2 に設定すると、記録されているホストは選択されず、検証に合格しなかった場合は警告ダイアログが表示されます。3 に設定すると、安全でない接続はすべて拒否されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/sendHostname | リモートホストに送信される Thin Client のホスト名を設定します。空白のままにすると、システムのホスト名が送信されます。このキーを使用するには、レジストリキー root/ConnectionType/freerdp/general/sendHostname を [hostname] (ホスト名) に設定する必要があります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/showConnectionGraph | これは診断機能です。1 に設定すると、セッションが開始されたときに、別のプログラムが起動して接続の状態がグラフで表示されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/showRDPDashboard | 1 に設定すると、セッションが開始されたときに、別のウィンドウが開いて RDP のパフォーマンスおよび状態が表示されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/smartcard | 1 に設定すると、ローカルでのスマートカード認証がリモートホストに対して許可されます。現時点では、これによってネットワークレベル認証 (NLA) が無効になります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/sound | 1 に設定すると、再生および録音デバイスが、オーディオ拡張機能でリモートホストにリダイレクトされます。0 に設定すると、拡張機能が無効になります。2 に設定すると、USB オーディオデバイスは [USB マネージャー] の構成に従ってリダイレクトされます。通常は、この値を 1 に設定して、高レベルオーディオリダイレクトが使用されるようにすることをおすすめします。このように設定すると、オーディオ品質が向上し、他の拡張機能 (マルチメディア リダイレクトなど) でリダイレクトされたクライアントオーディオがローカルのオーディオ設定と一致するようになります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/startMode | 初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/timeoutError | サーバーとの接続が失われてから、再接続を中止するまでの待機時間 (ミリ秒) を設定します。0 に設定すると、再接続が無期限に試行されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/timeoutRecovery | サーバーとの接続が失われてから、強制再接続を試行しないでネットワーク接続の回復を待機する時間 (ミリ秒) を設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/timeoutWarning | サーバーとの接続が失われてから、接続が失われたことをユーザーに警告するまでの待機時間 (ミリ秒) を設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/timeoutWarningDialog | 1 に設定すると、エンドツーエンド接続の切断が検出されたときに、ダイアログが表示されて画面がグレースケールに変更されます。そうでない場合、メッセージが接続ログに書き込まれ、セッションが停止します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/timeoutsEnabled | 1 に設定すると、エンドツーエンド接続の状態確認が実行されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/tlsVersion | RDP サーバーとのネゴシエーションの初期段階で使用される TLS (Transport Layer Security) のバージョンを設定します。RDP サーバーが使用する TLS のバージョンと一致させるか、auto に設定してください 注記: パッチが適用されていない RDP サーバー側に存在する一部の問題により、自動設定が失敗する可能性があるため、[auto]は初期設定になっていません |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/usbMiscRedirection | 0 に設定すると、sound、printerMapping、portMapping、usbStorageRedirection、および localPartitionRedirection で処理されるもの以外の、他のすべての USB デバイスのリダイレクトが無効になります。2 に設定すると、他のすべての USB デバイスは、[USB マネージャー]の構成に従ってリモートホストにリダイレクトされます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/usbStorageRedirection | 1 に設定すると、USB 記憶装置が、ストレージ拡張機能を使用してリモートホストにリダイレクトされます。0 に設定すると、拡張機能が無効になります。2 に設定すると、USB 記憶装置は[USB マネージャー]の構成に従ってリダイレクトされます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/username | ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のユーザー名を設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/waitForNetwork | 1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/windowMode | Remote Application に設定すると、RDP は RAIL (Remote Application Integrated Locally) モードで実行されます。このためには、RemoteApp サーバーで、目的のアプリケーションをリモートアプリケーションとして実行することが許可されている必要があります。アプリケーションはデスクトップ環境内で独立したウィンドウに表示されるため、ローカルシステムの一部であるかのように表示されます。詳しくは、remoteApp レジストリキーも参照してください。Alternate Shell に設定すると、標準ではないシェルが起動されます。詳しくは、application および directory レジストリキーも参照してください |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/windowSizeHeight | |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/windowSizePercentage | |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/windowSizeWidth | |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/windowType | |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11Capture | これは診断機能です。1 に設定すると、X11 の動作がキャプチャされ、後で再生できるようになります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11CaptureDir | これは診断機能です。X11 キャプチャファイルのディレクトリをこの値で設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11LogAutoFlush | これは診断機能です。1 に設定すると、X11 ログファイルがディスクにフラッシュされる頻度が高くなります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11Logfile | これは診断機能です。X11 ログファイルのパスをこの値で設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11Logging | これは診断機能です。1 に設定すると、X11 の動作がログに記録されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11Synchronous | これは診断機能です。1 に設定すると、X11 の動作がバッファに保存されません |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/xkbLayoutId | システム キーボードをバイパスするための XKB レイアウト ID を設定します。利用可能な ID の一覧を表示するには、X ターミナルで次のコマンドを入力します： xfreerdp --kbd-list |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/USBrelevant | この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/appName | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/className | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/disableLinkDropWarning | 1 に設定すると、ネットワークがダウンしても接続プロトコルがその状況に対応するため、オペレーティングシステムはネットワークのダウンを示すダイアログを生成しません |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/editor | この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/generalSettingsEditor | この接続インターフェイス用の全般設定マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/icon16Path | このアプリケーションの 16×16 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/icon32Path | このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/icon48Path | このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/initialConnectionTimeout | RDP サーバーからの最初の応答の待機を開始してから終了するまでの時間（秒）を設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/label | ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/priorityInConnectionLists | 初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/stopProcess | connection-mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/watchPid | 1 に設定すると、appName で指定された名前接続が監視されます。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/wrapperScript | この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/wrapperScriptGeneration | 接続マネージャーがラッパー スクリプトに渡すパラメーターの種類を指定します |
| root/ConnectionType/freerdp/general/autoReconnectDialogTimeout | autoReconnect が有効になっている場合、このキーは接続のエラー ダイアログがタイムアウトするまでの秒数を設定します。0 に設定すると、ダイアログはユーザー操作を無期限に待機します |
| root/ConnectionType/freerdp/general/disablePasswordChange | 無効な資格情報のためにリモートログインに失敗すると、ユーザーのパスワードを更新するためのダイアログを表示するボタンが表示されます。このキーを 1 に設定すると、そのボタンおよびダイアログは表示されません |
| root/ConnectionType/freerdp/general/enableMMR | 1 に設定すると、マルチメディア リダイレクトプラグインが有効になるため、Windows Media Player で再生されるサポートされたコーデックがクライアントにリダイレクトされます。これにより、WMV9、VC1、MPEG4 などのコーデックで高解像度ビデオを全画面再生したときの品質が大幅に向上します |
| root/ConnectionType/freerdp/general/preferredAudio | 高レベル オーディオ リダイレクト用の初期設定のオーディオバックエンド（入力と出力の両方）を設定します |
| root/ConnectionType/freerdp/general/rdWebFeedUrlPattern | RD Web アクセスの URL の生成に使用するパターンを設定します。URL のホスト（myserver.com など）が、接続の[アドレス]フィールドの値に置き換えられます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| | す。アドレスがすでに URL になっている場合、このパターンは使用されません |
| root/ConnectionType/freerdp/general/sendHostname | hostname に設定すると、システムのホスト名がリモートホストに送信されます。これは通常、特定の RDP セッションに関連付けられた Thin Client を識別するために使用されます。このホスト名を上書きするには、接続に固有の設定の sendHostname を使用しません。mac に設定すると、最初に利用可能なネットワークアダプターの MAC アドレスがホスト名の代わりに送信されます |
| root/ConnectionType/freerdp/general/serialPortsDriver | この設定により、想定される基本の Windows ドライバー、SerCx2.sys、SerCx.sys、または Serial.sys との互換性が向上します |
| root/ConnectionType/freerdp/general/serialPortsPermissive | 1 に設定すると、サポートされていない機能のエラーが無視されるようになります |

ssh

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/ConnectionType/ssh/authorizations/user/add | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/ssh/authorizations/user/general | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/address | 接続先のホスト名または IP アドレスを設定します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/afterStartedCommand | 接続が開始された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/afterStoppedCommand | 接続が停止された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/application | 実行するアプリケーションを指定します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/authorizations/user/edit | 1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/authorizations/user/execution | 1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/autoReconnect | 1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/autoReconnectDelay | セッションが再接続されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnect が 1 に設定されている場合にのみ有効です |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/autostart | 1~5の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます（1の値が最も高い優先度になります） |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/autostartDelay | システムの起動後に接続が開始されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の0では、すぐに接続が開始されます。この設定は、autostartが1に設定されている場合にのみ有効です |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/backgroundColor | その接続の背景色を設定します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/beforeStartingCommand | 接続が開始される前に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/compression | SSH 接続用の圧縮を有効にします |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/connectionEndAction | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/coord | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/dependConnectionId | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key | その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value | その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/fallBackConnection | 予備接続を、その UUID を使用して設定します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/font | その接続用のフォントサイズを設定します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/foregroundColor | その接続の前景色を設定します |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/fork | 1に設定すると、 [バックグラウンドにフォークする] オプションがその接続で有効になります |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/hasDesktopIcon | 1に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/isInMenu | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/label | ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/port | SSH サーバーへの接続時に使用するポート番号を設定します。初期設定値は 22 です |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/startMode | 初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/tty | 1 に設定すると、 [TTY を強制的に割り当てる] オプションがその接続で有効になります |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/username | ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のユーザー名を設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/waitForNetwork | 1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります |
| root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/x11 | 1 に設定すると、 [X11 接続の転送] オプションがその接続で有効になります |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/USBrelevant | この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/appName | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/className | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/editor | この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するとき使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/icon16Path | このアプリケーションの 16×16 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/icon32Path | このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/icon48Path | このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/label | ユーザーインターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/priorityInConnectionLists | 初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/serverRequired | サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/ stopProcess | connection-mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/ watchPid | 1 に設定すると、appName で指定された名前で接続が監視されます。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/coreSettings/ wrapperScript | この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/ name | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/ status | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/ title | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/ widgets/address | Secure Shell 接続マネージャーでの [アドレス] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/ widgets/application | Secure Shell 接続マネージャーでの [アプリケーションの実行] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/ widgets/autoReconnect | Secure Shell 接続マネージャーでの [自動再接続] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/ widgets/autostart | Secure Shell 接続マネージャーでの [自動開始の優先度] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/backgroundColor | Secure Shell 接続マネージャーでの [背景色] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/compression | Secure Shell 接続マネージャーでの [圧縮] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/fallBackConnection | Secure Shell 接続マネージャーでの [予備接続] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/font | Secure Shell 接続マネージャーでの [フォント] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/foregroundColor | Secure Shell 接続マネージャーでの [前景色] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/fork | Secure Shell 接続マネージャーでの [バックグラウンドにフォークする] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/hasDesktopIcon | Secure Shell 接続マネージャーでの [デスクトップにアイコンを表示] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/isInMenu | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/label | Secure Shell 接続マネージャーでの [名前] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/port | Secure Shell 接続マネージャーでの [ポート] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/tty | Secure Shell 接続マネージャーでの [TTYを強制的に割り当てる] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/username | Secure Shell 接続マネージャーでの [ユーザー名] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/waitForNetwork | Secure Shell 接続マネージャーでの [接続前にネットワークを待機する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/x11 | Secure Shell 接続マネージャーでの [X11 接続の転送] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリ キー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/teemtalk/authorizations/user/add | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/teemtalk/authorizations/user/general | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/afterStartedCommand | 接続が開始された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/afterStoppedCommand | 接続が停止された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/authorizations/user/edit | 1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/authorizations/user/execution | 1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/autoReconnect | 1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/autostart | 1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます（1 の値が最も高い優先度になります） |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/beforeStartingCommand | 接続が開始される前に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/connectionEndAction | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/coord | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/dependConnectionId | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key | その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value | その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/fallBackConnection | 予備接続を、その UUID を使用して設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/hasDesktopIcon | 1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/isInMenu | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/label | ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/startMode | 初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/systembeep | 1 に設定すると、システム警告音がその接続で有効になります |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/ttsName | TeemTalk のプロファイル名を設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/connections/<UUID>/waitForNetwork | 1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/USBrelevant | この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/appName | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/className | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/editor | この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/generalSettingsEditor | この接続インターフェイス用の全般設定マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/icon16Path | このアプリケーションの 16×16 ピクセル アイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/icon32Path | このアプリケーションの 32×32 ピクセル アイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/icon48Path | このアプリケーションの 48×48 ピクセル アイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/label | ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/priorityInConnectionLists | 初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示 |

| レジストリ キー | 説明 |
|---|---|
| | されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/serverRequired | サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/stopProcess | connection-mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します |
| root/ConnectionType/teemtalk/coreSettings/wrapperScript | この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/gui/TeemtalkManager/name | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/gui/TeemtalkManager/status | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/gui/TeemtalkManager/title | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/gui/TeemtalkManager/widgets/autoReconnect | TeemTalk 接続マネージャーでの [自動再接続] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/teemtalk/gui/TeemtalkManager/widgets/autostart | TeemTalk 接続マネージャーでの [自動開始の優先度] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/teemtalk/gui/TeemtalkManager/widgets/hasDesktopIcon | TeemTalk 接続マネージャーでの [デスクトップにアイコンを表示] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/teemtalk/gui/TeemtalkManager/widgets/isInMenu | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/teemtalk/gui/TeemtalkManager/widgets/label | TeemTalk 接続マネージャーでの [名前] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/teemtalk/gui/TeemtalkManager/widgets/waitForNetwork | TeemTalk 接続マネージャーでの [接続前にネットワークを待機する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

telnet

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/telnet/authorizations/user/add | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/telnet/authorizations/user/general | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/address | 接続先のホスト名または IP アドレスを設定します |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/afterStartedCommand | 接続が開始された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/afterStoppedCommand | 接続が停止された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/authorizations/user/edit | 1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/authorizations/user/execution | 1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/autoReconnect | 1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/autostart | 1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます (1 の値が最も高い優先度になります) |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/backgroundColor | その接続の背景色を設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/beforeStartingCommand | 接続が開始される前に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/connectionEndAction | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/coord | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/dependConnectionId | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key | その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value | その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/fallBackConnection | 予備接続を、その UUID を使用して設定します |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/font | その接続用のフォントサイズを設定します |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/foregroundColor | その接続の前景色を設定します |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/hasDesktopIcon | 1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/label | ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/locale | その接続のロケールを設定します |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/port | サーバーへの接続時に使用するポート番号を設定します。初期設定値は 23 です |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/startMode | 初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます |
| root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/waitForNetwork | 1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/USBrelevant | この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/appName | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/className | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/editor | この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/generalSettingsEditor | この接続インターフェイス用の全般設定マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/icon16Path | このアプリケーションの 16×16 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/icon32Path | このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/icon48Path | このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/label | ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/priorityInConnectionLists | 初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/serverRequired | サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/stopProcess | connection-mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します |
| root/ConnectionType/telnet/coreSettings/wrapperScript | この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/name | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/status | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/title | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/address | Telnet 接続マネージャーでの [アドレス] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/autoReconnect | Telnet 接続マネージャーでの [自動再接続] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/autostart | Telnet 接続マネージャーでの [自動開始の優先度] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/backgroundColor | Telnet 接続マネージャーでの [背景色] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/fallBackConnection | Telnet 接続マネージャーでの [予備接続] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/foregroundColor | Telnet 接続マネージャーでの [前景色] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/hasDesktopIcon | Telnet 接続マネージャーでの [デスクトップにアイコンを表示] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/label | Telnet 接続マネージャーでの [名前] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/port | Telnet 接続マネージャーでの [ポート] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/waitForNetwork | Telnet 接続マネージャーでの [接続前にネットワークを待機する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

view

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/view/authorizations/user/add | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/view/authorizations/user/commandLineBox | 1 に設定すると、VMware Horizon View 接続マネージャーでコマンドライン引数を入力するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/view/authorizations/user/general | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/ExtraArgs | VMware Horizon View クライアントに対する追加の引数を指定します。X ターミナルから view_client --help または vmware-view --help を実行すると、利用可能なすべての引数が表示されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/SingleSignOn | |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/afterStartedCommand | 接続が開始された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/afterStoppedCommand | 接続が停止された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/appInMenu | 1 に設定すると、この接続のすべてのアプリケーションがタスクバーメニューに表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/appOnDesktop | 1に設定すると、この接続のすべてのアプリケーションがデスクトップに表示されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/applicationSize | VMware Horizon View クライアントが起動するアプリケーションのサイズを設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/attachToConsole | |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/authorizations/user/edit | 1に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/authorizations/user/execution | 1に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/autoReconnect | 1に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/autoReconnectDelay | セッションが再接続されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の0では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnect が1に設定されている場合にのみ有効です |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/automaticLogin | 1に設定すると、すべてのフィールドが入力されたときに VMware Horizon View クライアントが自動的にログインを試みます。0に設定すると、ユーザーが VMware Horizon View クライアントの【接続】を手動で選択し、ログインしてデスクトップを選択する必要があります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/autostart | 1~5の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます（1の値が最も高い優先度になります） |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/autostartDelay | システムの起動後に接続が開始されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の0では、すぐに接続が開始されます。この設定は、autostart が1に設定されている場合にのみ有効です |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/beforeStartingCommand | 接続が開始される前に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/closeAfterDisconnect | 1に設定すると、最初のデスクトップが閉じられたときに接続が終了します。0に設定すると、VMware Horizon View クライアントがデスクトップ選択画面に戻ります。ユーザーが誤ってログオフ後もデスクトップ選択画面で接続を維持しないように、初期設定では有効になっています |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/closeAfterRoaming | 1に設定すると、VMware 接続が別の場所にローミングされている場合、その接続は切断されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/coord | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/credentialsType | anonymous（非認証アクセス）、sso（シングルサインオン）、startup（開始時に資格情報を要求）、password（事前に設定されたユーザー/ドメイン/パスワード）、または smartcard（事前に設定されたスマートカード）の中から資格情報の種類を指定します |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/dependConnectionId | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/desktop | 指定すると、その指定したデスクトップがログイン時に自動的に開始されます。初期設定では、使用できるデスクトップが1つしかない場合は、指定しなくてもそのデスクトップが自動的に開始されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/desktopSize | VMware Horizon View クライアントが起動するデスクトップのサイズを設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/directory | |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/disableMaximizedApp | 1 に設定すると、最大化されたアプリケーションのウィンドウサイズ設定が無効になります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/domain | View 接続サーバーに送信するドメインを設定します。ドメインが指定されていない場合は、サーバーの初期設定のドメインが使用されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/enableMMR | 1 に設定すると、マルチメディア リダイレクトプラグインが有効になるため、Windows Media Player で再生されるサポートされたコーデックがクライアントにリダイレクトされます。これにより、WMV9、VC1、MPEG4などのコーデックで高解像度ビデオを全画面再生したときの品質が大幅に向上します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/enableSingleMode | |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key | その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value | その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/fallBackConnection | 予備接続を、その UUID を使用して設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/fullscreen | 1 に設定すると、VMware Horizon View クライアントが起動時に全画面モードで開始されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/hasDesktopIcon | 1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/hideMenuBar | 1 に設定すると、デスクトップの上部メニューバーが表示されません。このバーは、リモートデバイスを管理したり他のデスクトップを開始したりするために使用します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/isInMenu | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/label | ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/lockServer | 1 に設定すると、エンドユーザーがサーバーアドレスを変更できなくなります |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/loginfields/domain | 1に設定すると、接続用のログインダイアログに[ドメイン]フィールドが表示されます。2に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0に設定すると、フィールドは非表示になります |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/loginfields/password | 1に設定すると、接続用のログインダイアログに[パスワード]フィールドが表示されます。2に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0に設定すると、フィールドは非表示になります |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/loginfields/rememberme | 1に設定すると、接続用のログインダイアログに[このアカウントを記憶する]チェックボックスが表示されます。2に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0に設定すると、チェックボックスは非表示になります |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/loginfields/showpassword | 1に設定すると、接続用のログインダイアログに[パスワードを表示する]ボタンが表示されます。2に設定すると、ボタンは表示されますが、無効になります。0に設定すると、ボタンは非表示になります |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/loginfields/smartcard | 1に設定すると、接続用のログインダイアログに[スマートカードを使用したログイン]チェックボックスが表示されます。2に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0に設定すると、チェックボックスは非表示になります。このオプションが有効になっている場合でも、スマートカードが検出されないときには、このチェックボックスは表示されないことがあります |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/loginfields/username | 1に設定すると、接続用のログインダイアログに[ユーザー名]フィールドが表示されます。2に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0に設定すると、フィールドは非表示になります |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/password | ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のパスワードを設定します。この値は暗号化されます。通常、この設定は、汎用パスワードをログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/preferredProtocol | 優先するプロトコルを設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/printerMapping | 1に設定すると、CUPS 経由でローカルで定義されているすべてのプリンターが ThinPrint 経由でリモートホストにリダイレクトされます。0に設定すると、プリンターのマッピングが無効になります。2に設定すると、USB プリンターは[USB マネージャー]の構成に従ってリダイレクトされます |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/saveCredentials | |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/server | 接続するリモートホストのアドレスを設定します。これは通常、「http://server.domain.com」などの URL になります |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/sessionEndAction | |
| root/ConnectionType/view/connections/ <UUID>/singleDesktop | |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/smartcard | 1 に設定すると、ローカルで接続されているスマートカードがリモートホストに転送され、リモートホスト上でアプリケーションによって使用できるようになります。これによってスマートカードログインが可能になるのはリモートホストだけで、View 接続サーバーへのログインには適用されません |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/startMode | 初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/username | ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のユーザー名を設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/viewSecurityLevel | Refuse insecure connection に設定すると、VMware Horizon View クライアントは、View 接続サーバーの SSL 証明書が無効である場合にそのサーバーへの接続をユーザーに許可しません。Warn に設定すると、VMware Horizon View クライアントは、サーバーの証明書が確認できない場合には警告を表示し、その証明書が自己署名証明書であるか期限切れである場合にはユーザーに接続を許可しません。Allow all connections に設定すると、サーバーの証明書は確認されず、どのサーバーへの接続も許可されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/waitForNetwork | 1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/attachToConsole | |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/audioLatency | デコード後に、オーディオストリームが再生されてから対応するビデオフレームが表示されるまでの平均オフセット時間（ミリ秒）を設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/clipboardExtension | 1 に設定すると、異なる RDP セッション間、および RDP セッションとローカルシステムの間でクリップボード機能が有効になります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/colorDepth | この設定はおすすめしません。この設定が使用されるのは、接続の色深度をネイティブのデスクトップ解像度の色深度より小さくする場合です。これは、ネットワーク帯域幅を削減するためによく使用されます。色深度をビデオドライバーでサポートされていないレベルにまで小さくすると、画面が乱れたり起動に失敗したりする可能性があります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/compression | 1 に設定すると、クライアントとサーバーの間で送信される RDP データの圧縮が有効になります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/disableMMRwithRFX | 1 に設定すると、有効な RemoteFX セッションが確立されたときにマルチメディアリダイレクトが無効になります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/frameAcknowledgeCount | サーバーがクライアントからの確認応答を待たずに送信できるビデオフレームの数を設定します。数字を小さくするほど、デスクトップの応答が速くなります |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| | が、フレームレートが下がります。0に設定すると、クライアントとサーバー間のやり取りで確認応答が行われません |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/general/sendHostname | hostnameに設定すると、システムのホスト名がリモートホストに送信されます。これは通常、特定のRDPセッションに関連付けられたThin Clientを識別するために使用されます。このホスト名を上書きするには、接続に固有の設定のsendHostnameを使用します。macに設定すると、最初に利用可能なネットワークアダプターのMACアドレスがホスト名の代わりに送信されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/loadBalanceInfo | この値は、接続時にサーバーに送信されるブローカー用の負荷分散Cookieで、.rdpファイルのloadbalanceinfoフィールドに対応します。初期設定では、この値は空です |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/mouseMotionEvents | 0に設定すると、マウス移動イベントがサーバーに送信されません。このため、ツールチップなどの一部のユーザーフィードバックが正しく機能しなくなる可能性があります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/offScreenBitmaps | 0に設定すると、オフスクリーンビットマップが無効になります。これにより、パフォーマンスがわずかに向上する可能性があります。画面を構成する各ブロックが同時に更新されなくなるため、画面が均一に遷移しなくなります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagDesktopComposition | 1に設定すると、サーバーでサポートされている場合に、デスクトップ構成(半透明の境界線など)が許可されます。デスクトップ構成を無効にすると、帯域幅の低い接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。通常、この設定はRemoteFXのみに影響します。2に設定すると、この値はThin Clientのパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagFontSmoothing | 1に設定すると、サーバーでサポートされていて有効になっている場合に、フォントスムージングが有効になります。フォントスムージングを無効にすると、帯域幅の低い接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2に設定すると、この値はThin Clientのパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoCursorSettings | 1に設定すると、カーソルの点滅が無効になり、帯域幅の低いRDP接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2に設定すると、この値はThin Clientのパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoCursorShadow | 1に設定すると、マウスカーソルの影が無効になり、帯域幅の低いRDP接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2に設定すると、この値はThin Clientのパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoMenuAnimations | 1に設定すると、メニューのアニメーションが無効になり、帯域幅の低いRDP接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2に設定すると、この値はThin Clientのパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoTheming | 1に設定すると、ユーザーインターフェイスのテーマが無効になり、帯域幅の低いRDP接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2に設定すると、こ |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| | の値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoWallpaper | 1 に設定すると、デスクトップの壁紙が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoWindowDrag | 1 に設定すると、ドラッグ中のウィンドウの全内容の表示が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。ただし、ウィンドウの外枠は表示されます。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/portMapping | 1 に設定すると、次のシリアルポートおよびパラレルポートがリモートホストにリダイレクトされます：ttyS0、ttyS1、ttyS2、ttyS3、ttyUSB0、および lp0 |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/printerMapping | 1 に設定すると、CUPS 経由でローカルで定義されているすべてのプリンターがリモートホストにリダイレクトされます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdp6Buffering | 1 に設定すると、画面更新の頻度を下げることにより、RemoteFX 以外のグラフィックスのパフォーマンスを向上させます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdp8Codecs | 1 に設定すると、利用できる場合に RDP 8 コーデックが使用されます。RDP 8 コーデックに固有の問題がある場合のみ、この設定を無効にする必要があります。この設定を無効にすると、より高度なコーデックも無効になる場合があります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/rdpEncryption | 1 に設定すると、標準の RDP 暗号化が使用され、クライアントとサーバー間のすべてのデータが暗号化されます |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdpH264Codec | 1 に設定すると、利用できる場合に RDP 8 H.264 コーデックが使用されます。この設定には既知の表示エラーがあり、特に複数のモニターの構成でエラーが発生します。これは試験的な設定であり、サポートされていません。この設定を有効にしても、Thin Client がデスクトップ表示で H.264 をサポートしていることがサーバーに通知されるだけです。サーバーも H.264 をサポートしている必要があり、どのコーデックを使用するかはサーバー側で最終的に決定されます。この設定はデスクトップ用コーデックにのみ影響します。マルチメディアリダイレクト用コーデックには影響しません |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdpProgressiveCodec | 1 に設定すると、利用できる場合に RDP 8 プログレッシブコーデックが使用されます。RDP 8 プログレッシブコーデックに固有の問題がある場合のみ、この設定を無効にする必要があります。この設定を無効にすると、より高度なコーデックも無効になる場合があります |
| root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/redirectPreference | RDP クライアントには、複数のリダイレクト先があります。通常は、FQDN、プライマリ IP、IP 一覧、NetBIOS の順でリダイレクトを試行します。FQDN が目的のリダイレクト先でない場合は、このレジストリキーを設定することで、別のリダイレクト先を最初に試すことが可能になります。指定した方式がうまくいかない場 |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| | 合、RDP クライアントは順序を元に戻します。auto に設定すると、元の順序が強制的に使用されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/remoteFx | 1 に設定すると、利用できる場合に RemoteFX が使用されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/sendHostname | リモートホストに送信される Thin Client のホスト名を設定します。空白のままにすると、システムのホスト名が送信されます。このキーを使用するには、レジストリキー root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/general/sendHostname を hostname に設定する必要があります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/sound | Bring to this computer に設定すると、標準の仮想チャネルを使用してリモートホストからクライアントにサウンドがリダイレクトされます。Leave at remote computer に設定すると、サウンドはリモートホストからリダイレクトされません。リダイレクトされた USB オーディオデバイスを使用するときには、この設定が役立つ可能性があります。他の値に設定すると、オーディオが無効になります。通常は、この値を Bring to this computer に設定して、USB 再生デバイスがリモートホストにリダイレクトされないようにすることをおすすめします。このように設定すると、オーディオ品質が向上し、他の仮想チャネル (Multimedia Redirection など) でリダイレクトされたクライアントオーディオがローカルのオーディオ設定と一致するようになります |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/timeoutError | サーバーとの接続が失われてから、再接続を中止するまでの待機時間 (ミリ秒) を設定します。0 に設定すると、再接続が無期限に試行されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/timeoutRecovery | サーバーとの接続が失われてから、強制再接続を試行しないでネットワーク接続の回復を待機する時間 (ミリ秒) を設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/timeoutWarning | サーバーとの接続が失われてから、接続が失われたことをユーザーに警告するまでの待機時間 (ミリ秒) を設定します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/timeoutWarningDialog | 1 に設定すると、エンドツーエンド接続の切断が検出されたときに、ダイアログが表示されて画面がグレースケールに変更されます。そうでない場合、メッセージが接続ログに書き込まれ、セッションが停止します |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/timeoutsEnabled | 1 に設定すると、エンドツーエンド接続の状態確認が実行されます |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/tlsVersion | RDP サーバーとのネゴシエーションの初期段階で使用される TLS (Transport Layer Security) のバージョンを設定します。RDP サーバーが使用する TLS のバージョンと一致させるか、[auto] に設定してください 注記: パッチが適用されていない RDP サーバー側に存在する一部の問題により、自動設定が失敗する可能性があるため、[auto] は初期設定になっていません |
| root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/xkbLayoutId | システムキーボードをバイパスするための XKB レイアウト ID を設定します。利用可能な ID の一覧を表示 |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| | するには、X ターミナルで次のコマンドを入力します： xfreerdp --kbd-list |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ USBrelevant | この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを示します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ appName | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ className | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ editor | この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するとき使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ icon16Path | このアプリケーションの 16×16 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ icon32Path | このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ icon48Path | このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ label | ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ priorityInConnectionLists | 初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ serverRequired | サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ stopProcess | connection-mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ watchPid | 1 に設定すると、appName で指定された名前での接続が監視されます。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/view/coreSettings/ wrapperScript | この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/view/coreSettings/wrapperScriptGeneration | 接続マネージャーがラッパー スクリプトに渡すパラメーターの種類を指定します |
| root/ConnectionType/view/general/rdpOptions | RDP が VMware Horizon View 接続の表示プロトコルとして使用されている場合、ここで指定したオプションが RDP クライアントに直接転送されます。オプションの完全な一覧を表示するには、X ターミナルで次のコマンドを入力します：rdesktop --help |
| root/ConnectionType/view/gui/viewManager/name | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/view/gui/viewManager/status | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/view/gui/viewManager/title | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/view/gui/viewManager/widgets/autostart | VMware Horizon View 接続マネージャーでの 【自動開始の優先度】 ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/view/gui/viewManager/widgets/fallBackConnection | VMware Horizon View 接続マネージャーでの 【予備接続】 ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/view/gui/viewManager/widgets/label | VMware Horizon View 接続マネージャーでの 【名前】 ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

xdmcp

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/xdmcp/authorizations/user/add | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/xdmcp/authorizations/user/general | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/address | 接続先のホスト名または IP アドレスを設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/afterStartedCommand | 接続が開始された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/afterStoppedCommand | 接続が停止された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/authorizations/user/edit | 1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/authorizations/user/execution | 1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/autoReconnect | 1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/autostart | 1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます (1 の値が最も高い優先度になります) |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/beforeStartingCommand | 接続が開始される前に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/color | その接続のディスプレイの色深度を設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/connectionEndAction | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/coord | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/dependConnectionId | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key | その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value | その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/fallBackConnection | 予備接続を、その UUID を使用して設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/fontServer | 使用するフォントサーバーのアドレスを設定します。レジストリキー useFontServer も 1 に設定する必要があります |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/hasDesktopIcon | 1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/isInMenu | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/label | ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| | Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/refreshRate | その接続用のディスプレイのリフレッシュレートを設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/startMode | 初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/type | XDMCP 接続インターフェイスを設定します。chooser に設定すると、使用できるすべてのホストが一覧表示され、接続するホストをユーザーが選択できるようになります。query に設定すると、XDMCP 要求が指定されたホストに直接送信されます。broadcast に設定すると、使用できるすべてのホストが一覧表示され、最初のホストが自動的に接続されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/useFontServer | 1 に設定すると、フォントサーバーが有効になります。0 に設定すると、ローカルフォントが使用されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/waitForNetwork | 1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります |
| root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/windowSize | 接続のウィンドウサイズを設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/USBrelevant | この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/appName | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/audio | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/className | この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/desktopButton | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/editor | この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するとき使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/generalSettingsEditor | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/icon16Path | このアプリケーションの 16×16 ピクセルアイコンへのパスを設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/icon32Path | このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/icon48Path | このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/label | ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/priorityInConnectionLists | 初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/serverRequired | サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/stopProcess | connection-mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/watchPid | 1 に設定すると、appName で指定された名前で見守りされます。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/wrapperScript | この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/name | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/status | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/title | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/address | XDMCP 接続マネージャーでの[アドレス]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。readonly (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/autoReconnect | XDMCP 接続マネージャーでの [自動再接続] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/autostart | XDMCP 接続マネージャーでの [自動開始の優先度] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/color | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/fontServer | XDMCP 接続マネージャーでの [フォントサーバー] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/hasDesktopIcon | XDMCP 接続マネージャーでの [デスクトップにアイコンを表示] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/isInMenu | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/label | XDMCP 接続マネージャーでの [名前] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/refreshRate | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/type | XDMCP 接続マネージャーでの [種類] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/useFontServer | XDMCP 接続マネージャーでの [フォントサーバーを使用する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/waitForNetwork | XDMCP 接続マネージャーでの [接続前にネットワークを待機する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/windowSize | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |

xen

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/ConnectionType/xen/authorizations/user/add | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/xen/authorizations/user/general | 1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/SingleSignOn | 1 に設定すると、接続時に資格情報がスクリーンサーバーと共有されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/address | 接続するリモートホストのアドレスを設定します。これは通常、「http://server.domain.com」などの URL になります |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/afterStartedCommand | 接続が開始された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/afterStoppedCommand | 接続が停止された後に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/appInMenu | 1 に設定すると、この接続のすべてのアプリケーションがタスクバーメニューに表示されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/appOnDashboard | 1 に設定すると、この接続のすべてのアプリケーションがタスクバーに表示されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/appOnDesktop | 1 に設定すると、この接続のすべてのアプリケーションがデスクトップに表示されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/authorizations/user/edit | 1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/authorizations/user/execution | 1に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoLaunchSingleApp | 1に設定すると、Citrix サーバーから単一の公開されたアプリケーションまたはデスクトップのみが返された場合に、そのリソースが自動的に起動されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoReconnect | 1に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoReconnectAppsOnLogin | 1に設定すると、最初のログインのときにアクティブまたは切断された Citrix セッションへの再接続をシステムが試みます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoReconnectDelay | セッションが再接続されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の0では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnect が1に設定されている場合にのみ有効です |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoRefreshInterval | リソースをクリアしてサーバーからもう一度更新するまでの時間を秒単位で設定します。無効にするには-1に設定します。通常、サーバーからのリソースの更新を頻繁に行う必要はありません |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoStartDesktop | 1に設定すると、autoStartResource が空の場合、利用できる最初のデスクトップが接続開始時に自動的に起動されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoStartResource | 接続が開始されるときに自動的に起動されるデスクトップまたはアプリケーションの名前を設定します |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autostart | 1~5の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます（1の値が最も高い優先度になります） |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autostartDelay | システムの起動後に接続が開始されるまで待機する時間（秒）を設定します。初期値の0では、すぐに接続が開始されます。この設定は、autostart が1に設定されている場合にのみ有効です |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/beforeStartingCommand | 接続が開始される前に実行するコマンドを設定します |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/connectionMode | 接続用の Citrix 接続モードを設定します |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/connectionStopAction | 接続マネージャーで接続を終了するときに行われる動作を定義します。disconnect または logoff に設定できます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/coord | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/credentialsType | anonymous（非認証アクセス）、sso（シングルサインオン）、startup（開始時に資格情報を要求）、password（事前に設定されたユーザー/ドメイン/パスワード）、または smartcard（事前に設定されたスマートカード）の中から資格情報の種類を指定します |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/dependConnectionId | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/domain | XenDesktop サーバーに送信するドメインを設定します。ドメインが指定されていない場合は、サーバーの初期設定のドメインが使用されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/enableRSAToken | 注意： この機能はサポートされていません 1 に設定すると、接続時に、NetScaler Gateway で認証するとき使用するセキュリティトークンの値を求められます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key | その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value | その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/fallBackConnection | 予備接続を、その UUID を使用して設定します |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/folder | |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/forceHttps | 1 に設定すると、HTTPS 接続のみが許可されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/fullscreen | 1 に設定すると、Citrix クライアントが起動時に全画面モードで開始されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/hasDesktopIcon | 1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/ignoreCertCheck | 1 に設定すると、証明書のチェックがその接続で無視されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/label | ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/logOnMethod | |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/loginfields/domain | 1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに【ドメイン】フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/loginfields/password | 1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに【パスワード】フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/loginfields/rememberme | 1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに【このアカウントを記憶する】チェック ボックスが表示されます。2 に設定すると、チェック ボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェック ボックスは非表示になります |
| root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/loginfields/showpassword | 1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに【パスワードを表示する】ボタンが表示されます。2 に設定すると、ボタンは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、ボタンは非表示になります |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/loginfields/smartcard | 1に設定すると、接続用のログインダイアログに[スマートカードを使用したログイン]チェックボックスが表示されます。2に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0に設定すると、チェックボックスは非表示になります。このオプションが有効になっている場合でも、スマートカードが検出されないときには、このチェックボックスは表示されないことがあります |
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/loginfields/username | 1に設定すると、接続用のログインダイアログに[ユーザー名]フィールドが表示されます。2に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0に設定すると、フィールドは非表示になります |
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/password | ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のパスワードを設定します。この値は暗号化されます。通常、この設定は、汎用パスワードをログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/resListRequest | 1に設定すると、接続時にリソースの一覧のみが表示され、リソースの起動およびアイコンのダウンロードは行われません |
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/saveNewUrl | これは内部的に使用される値です。ToBeAskedに設定すると、スクリプトからユーザーにメッセージが表示されます。Autoに設定すると、スクリプトからユーザーにメッセージが表示されず、URLが保存されるかどうかは状況によって変わります。Yesに設定すると、ユーザーは新しいURLを保存するよう求められます。Noに設定すると、ユーザーは新しいURLを保存しないよう求められます |
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/savePassword | |
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/smartCardModuleKey | スマートカードの接続に使用するセキュリティモジュールを指定します |
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/startMode | 初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/subscribedOnly | 1に設定すると、その接続用のサブスクリプション済みリソースのみが表示されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/unplugSmartCardAction | 接続中にスマートカードが取り出されたときに実行する動作を設定します。disconnectに設定すると、現在のセッションが切断されます。closeに設定すると、開いているすべてのリソースが閉じられます。noactionに設定すると、何も行われません |
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/username | ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のユーザー名を設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます |
| root/ConnectionType/xen/connections/ <UUID>/waitForNetwork | 1に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用でき |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| | <p>ようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ USBrelevant</p> | <p>この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ appName</p> | <p>この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ autoLogoutDelayAfterLaunch</p> | <p>この設定は、公開されたリソースが複数ある Citrix サーバーに適用されます。0 未満にすると、自動ログアウトは実行されません。それ以外の場合、この設定は、最後に Xen に公開されたリソースが終了してから、自動的にユーザーがログアウトされて最初のログイン画面に戻るまでの秒数を指定します。Citrix の処理の遅延により、自動ログアウトの時間が延長される場合があります</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ autoLogoutDelayBeforeLaunch</p> | <p>この設定は、公開されたリソースが複数ある Citrix サーバーに適用されます。0 未満にすると、自動ログアウトは実行されません。それ以外の場合、この設定は、アプリケーションが起動されない状態で、自動的にユーザーがログアウトされて最初のログイン画面に戻るまでの、許容される経過秒数を指定します。Citrix の処理の遅延により、自動ログアウトの時間が延長される場合があります</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ className</p> | <p>この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ editor</p> | <p>この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ generalSettingsEditor</p> | <p>この接続インターフェイス用の全般設定マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ icon16Path</p> | <p>このアプリケーションの 16×16 ピクセルアイコンへのパスを設定します</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ icon32Path</p> | <p>このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ icon48Path</p> | <p>このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ label</p> | <p>ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します</p> |
| <p>root/ConnectionType/xen/coreSettings/ priorityInConnectionLists</p> | <p>初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます</p> |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ConnectionType/xen/coreSettings/retryTimeout | この設定は、仮想マシンが再起動中で、Citrixのリソースとしてまだ起動できない場合に適用されます。負の数に設定すると、再接続は試行されません。それ以外の場合は、HP ThinPro で仮想マシンへの再接続を試行する時間（秒）が指定されます |
| root/ConnectionType/xen/coreSettings/serverRequired | サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか（unused）、オプションであるか（optional）、または必須であるか（required）を設定します |
| root/ConnectionType/xen/coreSettings/stopProcess | connection_mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します |
| root/ConnectionType/xen/coreSettings/watchPid | 1 に設定すると、appName で指定された名前が接続が監視されます。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/xen/coreSettings/wrapperScript | この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください |
| root/ConnectionType/xen/coreSettings/wrapperScriptGeneration | 接続マネージャーがラッパー スクリプトに渡すパラメーターの種類を指定します |
| root/ConnectionType/xen/general/CGPAddress | 構文 hostname:port を使用して CGP アドレスを指定します 必要に応じて、ホスト名を指定する代わりに、アスタリスク (*) を入力できます。これにより、接続の address レジストリキーからの値がホストとして使用されます。例：*:2598 ポート値は省略可能です。ポート値を指定しなかった場合は、初期設定の 2598 が使用されます。ポート 2598 での接続に失敗した場合、Thin Client はポート 1494 で接続を確立しようとします |
| root/ConnectionType/xen/general/TWIMode | 公開アプリケーションのシームレスモードを制御します。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます：TWIMode |
| root/ConnectionType/xen/general/TWIModeResizeType | この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます：TWIMoveResizeType |
| root/ConnectionType/xen/general/allowReadOnA ... allowReadOnZ | 1 に設定すると、ユーザーはマッピングされたドライブを読み取ることができます |
| root/ConnectionType/xen/general/allowWriteOnA ... allowWriteOnZ | 1 に設定すると、ユーザーはマッピングされたドライブに書き込むことができます |
| root/ConnectionType/xen/general/async | 1 に設定すると、非同期ポーリングが有効になります。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます：CommPollSize |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/xen/general/ autoReconnect | 1 に設定すると、自動セッション再接続が有効になります。これは、接続に固有の自動接続と同じではありません。これは、接続を再開しないで Citrix クライアント内で内部的に行われます。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます： TransportReconnectEnabled |
| root/ConnectionType/xen/general/ bitmapCacheSize | キャッシュするビットマップの最小サイズを設定します。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます： PersistentCacheMinBitmap |
| root/ConnectionType/xen/general/ bottomMonitor | 下のモニターの画面領域に仮想デスクトップを表示するように設定します。0 に設定すると、モニターは仮想デスクトップの表示に使用されません |
| root/ConnectionType/xen/general/ colorDepth | すべての接続に対して特定の色深度を強制します。これは通常、深度の自動選択ができない特殊な環境か、または速度の非常に遅いネットワークで過密状態を緩和する場合にのみ行われます |
| root/ConnectionType/xen/general/ colorMapping | Shared - Approximate Colors に設定すると、初期設定のカラーマップから近似色が使用されます。Private - Exact Colors に設定すると、正確な色が使用されます。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます： ApproximateColors |
| root/ConnectionType/xen/general/ contentRedirection | 1 に設定すると、Web コンテンツからのリンクがサーバーからクライアントに送信され、クライアントがそのリンクをローカルで開いてみるができます |
| root/ConnectionType/xen/general/ defaultBrowserProtocol | 接続用のホストを探すときに使用するプロトコルを調整します。指定しない場合、wfclient.ini の WFClient セクションの初期設定値が使用されます。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます： BrowserProtocol |
| root/ConnectionType/xen/general/ drivePathMappedOnA ... drivePathMappedOnZ | リモート ホストにマッピングされるローカルファイルシステムのディレクトリを設定します。通常、これは /media に設定されており、接続されているすべての USB ドライブを単一のドライブ文字経由でリモートホストにマッピングできます |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableAlertSound | 1 に設定すると、Windows の警告音が有効になります。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に間接マッピングされます： DisableSound |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableClipboard | 1 に設定すると、クリップボードのリダイレクトが有効になります |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableConnectionBar | 1 に設定すると、セッションのユーザー インターフェイスで Citrix Desktop Viewer が有効になります。初期設定では、クライアント側で 0 (無効) に設定されています。この値は、デスクトップセッションの ICA ファイルによってクライアント上で設定されるものです |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableCursorColors | 1 に設定すると、色付きのカーソルが有効になります。この設定を 0 にすると、カーソルの表示の問題が解決する場合があります |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/xen/general/ enableDataCompression | 1 に設定すると、データ圧縮が有効になります。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます : Compress |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableDriveMapAndRedirect | 1 に設定すると、USB 記憶装置のマッピングおよびリダイレクトが有効になります |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableDriveMapping | 1 に設定すると、ローカルファイルシステム上のディレクトリを仮想ドライブ経由でリモートホストに転送できます。通常は、/media を Z にマッピングして USB ドライブをリモートホストに転送できるようにします。USB リダイレクトが有効になっている場合は、この設定を無効にして記憶装置が競合しないようにする必要があります。この方法でリモートホストに正しくマッピングするには、USB デバイスが次のどれかのファイルシステムを使用している必要があります : FAT32、NTFS、ext2、ext3 |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableDynamicDriveMapping | 1 に設定すると、USB 記憶装置が Citrix サーバー上で動的にマッピングされるようになります。0 に設定すると、USB 記憶装置の動的マッピングが無効になります |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableH264Compression | 1 に設定すると、H.264 圧縮が有効になります。H.264 コーデックでは、JPEG コーデックと比べて、WAN ネットワークでのリッチな専門的グラフィックスアプリケーションのパフォーマンスが向上します |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableHDXFlashRedirection | 注記 : この機能は 32 ビットバージョンの HP ThinPro でのみサポートされています HDX フラッシュリダイレクトの動作を制御します。Always に設定すると、使用可能な場合に HDX フラッシュリダイレクトが使用され、ユーザーは使用するかどうかを尋ねられません。Ask に設定すると、ユーザーは使用するかどうかを尋ねられます。Never に設定すると、この機能が無効になります |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableHDXFlashServerContentFetch | 注記 : この機能は 32 ビットバージョンの HP ThinPro でのみサポートされています HDX Flash サーバー側コンテンツフェッチの動作を制御します。無効にすると、クライアントはコンテンツをフェッチするようになります |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableHDXMediaStream | 1 に設定すると、[HDX MediaStream]が有効になります。0 に設定すると、メディアファイルを標準のストリーミングで再生できますが、品質がそれほど良くならない可能性があります |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableHWH264 | 1 に設定し、さらに enableH264Compression を 1 に設定すると、ハードウェアでの H.264 圧縮が有効になります。0 に設定すると、H.264 圧縮はソフトウェアで処理されるようになります |
| root/ConnectionType/xen/general/ enableMapOnA ... enableMapOnZ | 1 に設定すると、ローカルファイルシステム上のディレクトリをリモートホスト上のこのドライブにマッピングできます。ドライブマッピングを正しく動作させるには、対応するレジストリキー、drivePathMappedOn を有効なローカルディレクトリに設定する必要があります |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/xen/general/enableMultiMedia | 1 に設定すると、マルチメディアが有効になります。この設定を有効にすると、HDX Lync が競合する場合があります。この設定は、Citrix.ini ファイル設定の仮想チャネルセクションで指定されたマルチメディアに直接マッピングされます。[HDX MediaStream]が有効になっている場合は、この設定も有効にします |
| root/ConnectionType/xen/general/enableOffScreenSurface | 1 に設定すると、サーバーがオフスクリーンの描画に X PixMap 形式を使用できます。これにより、15 ビット色および 24 ビット色モードで帯域幅が減少しますが、X Server のメモリおよびプロセッサの負荷に影響します。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます：EnableOSS |
| root/ConnectionType/xen/general/enableSessionReliability | 1 に設定すると、Citrix のセッション画面の保持機能が有効になります。セッション画面の保持機能は、ネットワーク接続が失われた後にセッションが再開される方法を変更します。セッション画面の保持機能について詳しくは、Citrix のドキュメントを参照してください |
| root/ConnectionType/xen/general/enableSmallFrames | 1 に設定すると、H.264 使用時に、小さな四角形の更新には H.264 を使用しないようになります。この設定を有効にするには、enableTextTracking も有効にする必要があります |
| root/ConnectionType/xen/general/enableSmartCard | 1 に設定すると、スマートカードログインが有効になります |
| root/ConnectionType/xen/general/enableTextTracking | 1 に設定すると、最適化された無劣化のテキストオーバーレイが H.264 で有効になります |
| root/ConnectionType/xen/general/enableUSBRedirection | 1 に設定すると、USB 記憶装置がリダイレクトされません |
| root/ConnectionType/xen/general/encryptionLevel | 暗号化レベルを設定します。すべてのレベルの暗号プロトコルは、module.ini の EncryptionLevelSession セクションに定義されています。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定の EncryptionLevelSession に直接マッピングされます |
| root/ConnectionType/xen/general/fontSmoothingType | フォントスムージングタイプを設定します |
| root/ConnectionType/xen/general/hotKey<1thru15>Char | 対応する hotKeyShift で設定されたキーまたはキーの組み合わせが押されたときにホットキーをリモートセッションに転送するように設定します |
| root/ConnectionType/xen/general/hotKey<1thru15>Shift | 対応する hotKeyChar で設定されたホットキーを有効にするために使用されるキーまたはキーの組み合わせを設定します |
| root/ConnectionType/xen/general/httpAddresses/<UUID>/address | |
| root/ConnectionType/xen/general/keyPassthroughEscapeChar | 透過キーボードモードを無効にするキーボードのキーを設定します。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます： KeyPassthroughEscapeChar |
| root/ConnectionType/xen/general/keyPassthroughEscapeShift | 透過キーボードモードを無効にするキーボードのキーの組み合わせを設定します。この設定は、次の |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| | Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます： KeyPassthroughEscapeShift |
| root/ConnectionType/xen/general/ lastComPortNum | マッピングするシリアルポートの数を設定します。0に設定すると、シリアルポートのマッピングが無効になります |
| root/ConnectionType/xen/general/ leftMonitor | 左のモニターの画面領域に仮想デスクトップを表示するように設定します。0に設定すると、モニターは仮想デスクトップの表示に使用されません |
| root/ConnectionType/xen/general/ localTextEcho | キーボードの遅延時間を調整します。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に間接マッピングされます： ZLKeyboardMode |
| root/ConnectionType/xen/general/ monitorNetwork | Off に設定すると、ネットワーク接続が監視されません。Local network link status only に設定すると、ローカルネットワークリンクのステータスのみが監視されます。Server online status に設定すると、ローカルネットワークリンクのステータスとサーバー接続の両方が監視されます |
| root/ConnectionType/xen/general/ mouseClickFeedback | マウスの遅延時間を調整します。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に間接マッピングされます： ZLMouseMode |
| root/ConnectionType/xen/general/ mouseMiddleButtonPaste | 1 に設定すると、Windows セッションでマウスの中ボタンのペーストエミュレーションが有効になります。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます： MouseSendsControlV |
| root/ConnectionType/xen/general/ noInfoBox | 1 に設定すると、クライアントセッションが終了したときにクライアントマネージャー (wfcmgr) が表示されないようになります。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます： PopupOnExit |
| root/ConnectionType/xen/general/ printerAutoCreation | 0 に設定すると、プリンターのマッピングが無効になります。1 に設定すると、ローカルで定義されているプリンターが接続にマッピングされます。2 に設定すると、USB プリンターは [USB マネージャー] の構成に従ってリダイレクトされます |
| root/ConnectionType/xen/general/ proxyAddress | 手動プロキシ設定が proxyType で選択されている場合に使用するプロキシアドレスを設定します |
| root/ConnectionType/xen/general/ proxyPassword | 手動プロキシ設定が proxyType で選択されている場合に使用するプロキシパスワードを設定します。このパスワードは RC4 暗号化を使用して暗号化されます |
| root/ConnectionType/xen/general/ proxyPort | 手動プロキシ設定が proxyType で選択されている場合に使用するプロキシポートを設定します |
| root/ConnectionType/xen/general/ proxyType | XenDesktop 接続に使用するプロキシの種類を設定します。値 Use Browser settings は、ローカルブラウザがインストールされている場合にのみサポートされます |
| root/ConnectionType/xen/general/ proxyUser | 手動プロキシ設定が proxyType で選択されている場合に使用するプロキシユーザー名を設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/ConnectionType/xen/general/rightMonitor | 右のモニターの画面領域に仮想デスクトップを表示するように設定します。0に設定すると、モニターは仮想デスクトップの表示に使用されません |
| root/ConnectionType/xen/general/saveLogs | 1に設定すると、セッション終了後に詳細なログ情報が保存されます。このログ情報は次のディレクトリに保存されます：/tmp/debug/citrix/<日付>/ |
| root/ConnectionType/xen/general/serverCheckTimeout | |
| root/ConnectionType/xen/general/sessionReliabilityTTL | セッションの信頼性のタイムアウトを秒単位で指定します。これによって、セッションの信頼性の TTL (Time to Live) が設定されます |
| root/ConnectionType/xen/general/sessionSharingClient | 1に設定すると、セッション共有要求が同じXディスプレイ上で他の Citrix セッションに送信されます。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます：EnableSessionSharingClient |
| root/ConnectionType/xen/general/showOnAllMonitors | 1に設定すると、仮想デスクトップがすべてのモニター上に表示されます |
| root/ConnectionType/xen/general/smartCardModuleMap/CoolKeyPK11 | CoolKey PKCS #11 スマートカードセキュリティモジュールへのパスを指定します |
| root/ConnectionType/xen/general/smartCardModuleMap/GemaltoDotNet | Gemalto .NET スマートカードセキュリティモジュールへのパスを指定します |
| root/ConnectionType/xen/general/sound | 音質を設定します。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に間接マッピングされます： AudioBandwidthLimit |
| root/ConnectionType/xen/general/speedScreen | |
| root/ConnectionType/xen/general/tcpAccel | |
| root/ConnectionType/xen/general/tcpAddresses/<UUID>/address | |
| root/ConnectionType/xen/general/topMonitor | 上のモニターの画面領域に仮想デスクトップを表示するように設定します。0に設定すると、モニターは仮想デスクトップの表示に使用されません |
| root/ConnectionType/xen/general/transparentKeyPassthrough | 一部の Windows キーの組み合わせを処理する方法を制御します。Translated に設定すると、キーの組み合わせがローカルデスクトップに適用されます。Direct in full screen desktops only に設定すると、全画面モードのときにのみ、キーの組み合わせがリモートセッションに適用されます。Direct に設定すると、ウィンドウにフォーカスがあるときは常にキーの組み合わせがリモートセッションに適用されます。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に間接マッピングされます： TransparentKeyPassthrough |
| root/ConnectionType/xen/general/twRedundantImageItems | Thinwire で追跡される画面領域の数を調整し、ビットマップ画像が冗長表示されないようにします。1024×768 のセッションの場合、適切な値は 300 です |
| root/ConnectionType/xen/general/useAlternateAddress | 1に設定すると、ファイアウォール接続に代替アドレスが使用されます。この設定は、次の Citrix .ini ファイル |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| | ル設定に直接マッピングされます： UseAlternateAddress |
| root/ConnectionType/xen/general/ useBitmapCache | 1 に設定すると、永続ディスク キャッシュが有効になります。永続ディスク キャッシュには、Thin Client のハードディスク上のビットマップなど、頻繁に使用するグラフィカル オブジェクトが保存されます。永続ディスク キャッシュを使用すると、帯域幅の低い接続でパフォーマンスが向上しますが、Thin Client 上の使用可能なディスク領域が減少します。高速な LAN に接続している Thin Client では、永続ディスク キャッシュを利用する必要はありません。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます： PersistentCacheEnabled |
| root/ConnectionType/xen/general/useEUKS | Windows サーバー上での拡張 Unicode キーボード サポート (EUKS : Extended Unicode Keyboard Support) の使用を制御します。0 に設定すると、EUKS は使用されません。1 に設定すると、EUKS はフォールバックとして使用されます。2 に設定すると、使用可能な場合は常に EUKS が使用されます |
| root/ConnectionType/xen/general/ useLocalIM | この設定を有効にすると、ローカルの X 入力方式を使用してキーボード入力が処理されます。このオプションは、ヨーロッパ言語でのみサポートされています。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます： useLocalIME |
| root/ConnectionType/xen/general/ userAgent | このキーから入力された文字列が Citrix クライアントによって表示されるようになるため、接続要求がどこから行われたのかを管理者が把握するときに役立ちます |
| root/ConnectionType/xen/general/ waitForNetwork | 1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります |
| root/ConnectionType/xen/general/ webcamFramesPerSec | All_Regions.ini ファイルの HDXWebCamFramesPerSec 変数を制御します |
| root/ConnectionType/xen/general/ webcamSupport | 0 に設定すると、Web カメラおよび Web カメラのオーディオが無効になります。1 に設定すると、Web カメラおよび Web カメラのオーディオが有効になります (圧縮が行われます)。2 に設定すると、Web カメラおよび Web カメラのオーディオの USB リダイレクトが有効になります |
| root/ConnectionType/xen/general/ windowHeight | windowSize が Fixed Size に設定されている場合に、ウィンドウの高さ (ピクセル) を設定します |
| root/ConnectionType/xen/general/ windowPercent | windowSize が Percentage of Screen Size に設定されている場合に、ウィンドウのサイズを割合で設定します |
| root/ConnectionType/xen/general/ windowSize | Default に設定すると、サーバー側の設定が使用されます。Full Screen に設定すると、使用可能なすべての画面上でウィンドウが境界線なしに最大化されず、Fixed Size に設定すると、windowWidth および windowHeight レジストリキーを使用して、ウィンドウのサイズをピクセル単位で指定できます。 |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| | Percentage of Screen Size に設定すると、windowPercent キーを使用して、ウィンドウのサイズを割合で指定できます。Percentage of Screen Size を有効にするためには、enableForceDirectConnect を 1 に設定し、TWIMode を 0 に設定する必要があります。この設定は、サーバーが直接接続を許可している場合に限り、XenApp のみに適用されます。この設定は、XenDesktop では機能しません |
| root/ConnectionType/xen/general/windowWidth | windowSize が Fixed Size に設定されている場合に、ウィンドウの幅 (ピクセル) を設定します |
| root/ConnectionType/xen/gui/XenDesktopPanel/disabled | 1 に設定すると、Xen デスクトップパネルおよびそのタスクバーが無効になります。このオプションは、通常、autoStartResource または autoStartDesktop が有効になっている場合にのみ使用されます |
| root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/name | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/status | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/title | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/address | Citrix 接続マネージャーでの[サービス URL]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/appInMenu | Citrix 接続マネージャーでの[タスクバーにアプリケーションを表示する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/appOnDesktop | Citrix 接続マネージャーでの[デスクトップにアプリケーションを表示する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/autoReconnect | Citrix 接続マネージャーでの[自動再接続]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそ |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| | <p>れを操作できます。inactive（非アクティブ）に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only（読み取り専用）に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます</p> |
| <pre>root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/ widgets/autoStartDesktop</pre> | <p>Citrix 接続マネージャーでの[デスクトップの自動起動]ウィジェットの状態を制御します。active（アクティブ）に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive（非アクティブ）に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only（読み取り専用）に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます</p> |
| <pre>root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/ widgets/autoStartResource</pre> | <p>Citrix 接続マネージャーでの[リソースの自動起動]ウィジェットの状態を制御します。active（アクティブ）に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive（非アクティブ）に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only（読み取り専用）に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます</p> |
| <pre>root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/ widgets/autostart</pre> | <p>Citrix 接続マネージャーでの[自動開始の優先度]ウィジェットの状態を制御します。active（アクティブ）に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive（非アクティブ）に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only（読み取り専用）に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます</p> |
| <pre>root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/ widgets/domain</pre> | <p>Citrix 接続マネージャーでの[ドメイン]ウィジェットの状態を制御します。active（アクティブ）に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive（非アクティブ）に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only（読み取り専用）に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます</p> |
| <pre>root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/ widgets/fallBackConnection</pre> | <p>Citrix 接続マネージャーでの[予備接続]ウィジェットの状態を制御します。active（アクティブ）に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive（非アクティブ）に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only（読み取り専用）に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます</p> |
| <pre>root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/ widgets/folder</pre> | |
| <pre>root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/ widgets/hasDesktopIcon</pre> | <p>Citrix 接続マネージャーでの[デスクトップにアイコンを表示]ウィジェットの状態を制御します。active（アクティブ）に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive（非アクティブ）に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only（読み取り専用）に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます</p> |
| <pre>root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/ widgets/label</pre> | <p>Citrix 接続マネージャーでの[名前]ウィジェットの状態を制御します。active（アクティブ）に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作</p> |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| | できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/password | Citrix 接続マネージャーでの[パスワード]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/username | Citrix 接続マネージャーでの[ユーザー名]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/waitForNetwork | Citrix 接続マネージャーでの[接続前にネットワークを待機する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/ConnectionType/xen/gui/fbpanel/autohide | true に設定すると、タスクバーが自動的に隠れます |
| root/ConnectionType/xen/gui/fbpanel/edge | 公開されたデスクトップまたはアプリケーションが複数利用できる場合のタスクバーの初期設定での位置を設定します |
| root/ConnectionType/xen/gui/fbpanel/hidden | 1 に設定すると、タスクバーが完全に表示されなくなります (ただし、autoStartResource または autoStartDesktop が有効になっている場合のみ) |

DHCP

このフォルダーは、システムが DHCP リースを取得したときに追加される一時的なレジストリキーをサポートするために存在します。変更する必要はありません。

Dashboard

 **注記** : ダッシュボードはタスクバーと同じものです。

| レジストリキー | 説明 |
|--------------------------------------|--|
| root/Dashboard/GUI/Clock | 1 に設定すると、クロックがタスクバーに表示されます |
| root/Dashboard/GUI/ConnectionManager | 1 に設定すると、[HP Connection Manager]ボタンがタスクバーに表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/Dashboard/GUI/ControlPanel | 1に設定すると、[コントロールパネル]ボタンがタスクバーに表示されます |
| root/Dashboard/GUI/DomainUser | 1に設定すると、システムがドメインログインモードになっている場合に、ドメインユーザーのアイコンがタスクバーに表示されます |
| root/Dashboard/GUI/PowerButton | 1に設定すると、電源ボタンがタスクバーに表示されます |
| root/Dashboard/GUI/PowerButtonPosition | 1に設定すると、電源ボタンがタスクバーの右側（横向きタスクバーの場合）または下部（縦向きタスクバーの場合）に表示されます。0に設定すると、電源ボタンがタスクバーの左側（横向きタスクバーの場合）または上部（縦向きタスクバーの場合）に表示されます |
| root/Dashboard/GUI/Search | 1に設定すると、[検索]ボタンがタスクバーに表示されます |
| root/Dashboard/GUI/SystemInformation | 1に設定すると、[システム情報]ボタンがタスクバーに表示されます |
| root/Dashboard/GUI/SystemTray | 1に設定すると、システムトレイがタスクバーに表示されます |
| root/Dashboard/GUI/TaskBar | 1に設定すると、アプリケーション領域がタスクバーに表示されます |
| root/Dashboard/General/AlwaysOnTop | 1に設定すると、タスクバーが常に手前に表示されます |
| root/Dashboard/General/AutoHide | 1に設定すると、タスクバーが自動的に隠れます |
| root/Dashboard/General/EnterLeaveTimeout | AutoHideが有効になっているときにタスクバーを表示または非表示にするまでの時間（ミリ秒）を設定します |
| root/Dashboard/General/IconSize | タスクバーのアイコンのサイズを設定します |
| root/Dashboard/General/Length | タスクバーの長さを設定します |
| root/Dashboard/General/LengthToScreenSide | 1に設定すると、タスクバーの長さが固定となり、それが固定されている画面幅の長さに等しくなります |
| root/Dashboard/General/PanelDockSide | タスクバーが画面の左右どちら側にドッキングされるかを設定します |
| root/Dashboard/General/RemainPixel | タスクバーが非表示にされたときにも表示されるピクセル数を設定します |
| root/Dashboard/General/SlidingTimeout | AutoHideが有効になっているときにタスクバーを表示または非表示にするためにかかる時間（ミリ秒）を設定します |
| root/Dashboard/General/Width | タスクバーの幅を設定します |

Display

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/Display/Configuration/Hotplug/newMonitorPosition | サポートされているプラットフォームで、新しいモニターをホットプラグで接続したときの、その配置場所（現在接続されているモニターの左右どちらか）を設定します |
| root/Display/Configuration/displaymode | ディスプレイモードを設定します。0 に設定すると、標準モード（1~4 台のモニター構成）が使用されます。1 に設定すると、6 台のモニター構成が使用可能になりますが、適切なアドオンカードが挿入されている対応プラットフォームのみで使用できます |
| root/Display/Configuration/hexlayout | 6 台モニター モードのレイアウトを設定します |
| root/Display/Configuration/hexprofile | 6 台モニター モードで使用されるプロファイルを設定します |
| root/Display/Configuration/primaryprofile | プライマリ モニターに使用するプロファイルのプロファイル名で設定します。HP Smart Zero の場合、これは常に default に設定する必要があります |
| root/Display/Configuration/quaternarymode | quaternaryrelative で指定されているモニターに対する 4 番目のモニターの位置を設定します。これはハードウェアに依存する機能で、モデルによってはサポートされていない場合があります。値は次のように定義されます：0：プライマリと同じ、1：プライマリの上、2：プライマリの右、3：プライマリの左、4：プライマリの下 |
| root/Display/Configuration/quaternaryprofile | 4 番目のモニターに使用するプロファイルのプロファイル名で設定します |
| root/Display/Configuration/quaternaryrelative | 4 番目のモニターの位置を設定するための基準として使用されるモニターを設定します |
| root/Display/Configuration/secondaryConnector | セカンダリ コネクタを設定します |
| root/Display/Configuration/secondarymode | プライマリ モニターに対するセカンダリ モニターの位置を設定します。これはハードウェアに依存する機能で、モデルによってはサポートされていない場合があります。値は次のように定義されます：0：プライマリと同じ、1：プライマリの上、2：プライマリの右、3：プライマリの左、4：プライマリの下 |
| root/Display/Configuration/secondaryorientation | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/Display/Configuration/secondaryprofile | 2 番目のモニターに使用するプロファイルのプロファイル名で設定します |
| root/Display/Configuration/swapstate | プライマリ モニターに接続するコネクタの種類を指定します。これはハードウェアに依存する機能で、モデルによってはサポートされていない場合があります。通常、0 はプライマリ モニターを VGA コネクタに、1 はその他のコネクタに接続することを意味します。HP t510 の場合、0 はプライマリ モニターを DVI-I コネクタに、1 は DVI-D コネクタに接続することを意味します。アドオンのビデオカードが挿入されているプラットフォームでは、0 はプライマリ モニターを |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| | 内蔵のビデオカードに、1 はアドオンのビデオカードに接続することを意味します |
| root/Display/Configuration/tertiarymode | tertiaryrelative で指定されているモニターに対する 3 番目のモニターの位置を設定します。これはハードウェアに依存する機能で、モデルによってはサポートされていない場合があります。値は次のように定義されます：0：プライマリと同じ、1：プライマリの上、2：プライマリの右、3：プライマリの左、4：プライマリの下 |
| root/Display/Configuration/tertiaryprofile | 3 番目のモニターに使用するプロファイルのプロファイル名を設定します |
| root/Display/Configuration/tertiaryrelative | 3 番目のモニターの位置を設定するための基準として使用されるモニターを設定します |
| root/Display/Profiles/<UUID>/colorScaling | モニターを内蔵した Thin Client の色温度またはダイレクト RGB スケールを設定します。入力する値は 6 桁の 16 進数 (RRGGBB) で、「ffffff」にすると、3 つの色チャンネルすべてでレベルが最高 (100%) になります |
| root/Display/Profiles/<UUID>/depth | ディスプレイの色深度 (ビット/ピクセル) を設定します。色深度が大きいほど画質が上がりますが、パフォーマンスは低下します |
| root/Display/Profiles/<UUID>/height | モニターの解像度の高さを設定します。0 に設定すると、解像度が自動検出されます |
| root/Display/Profiles/<UUID>/label | ディスプレイのプロファイル名を設定します。HP Smart Zero の場合、これは常に default に設定する必要があります |
| root/Display/Profiles/<UUID>/orientation | モニターの向きを次のように設定します：0：通常、1：左に回転、2：右に回転、3：反転 |
| root/Display/Profiles/<UUID>/refresh | モニターのリフレッシュレートを目的の値に設定します。ただし、解像度によっては一部のリフレッシュレートがサポートされていない場合があります。0 に設定すると、リフレッシュレートが自動検出されます。サポートされる値はモニターによって異なります。接続されているモニターによってサポートされていないリフレッシュレートを設定すると、黒色の画面が表示されます。この設定は 0 のままにしておくことをおすすめします |
| root/Display/Profiles/<UUID>/width | モニターの解像度の幅を設定します。0 に設定すると、解像度が自動検出されます |
| root/Display/userLock | 1 に設定すると、ディスプレイ設定がユーザーによって変更された場合に、その設定がクライアントプロファイルのインポート時に保持されます |
| root/Display/userLockEngaged | このレジストリキーは、ディスプレイ設定がユーザーによって変更されると、自動的に 1 に設定されます。通常、この設定を変更する必要はありません |

Domain

| レジストリキー | 説明 |
|----------------------------------|--|
| root/domain/OU | Thin Client のドメイン メンバーシップに関連付けられている組織単位を指定します |
| root/domain/allowSmartcard | このキーは現在使用されていません |
| root/domain/cacheDomainLogin | 有効にすると、ドメイン ログイン資格情報のハッシュがディスクに保存され、その後は Active Directory サーバーにアクセスできない場合でもログインが可能になります |
| root/domain/ddns | 有効にすると、DHCP の更新ごとに、Thin Client が DNS サーバー上の自身のホスト名および IP アドレスを更新しようとします |
| root/domain/domain | この Thin Client が参加したドメイン、またはこの Thin Client の認証対象のドメインを指定します |
| root/domain/domainAdminGroup | enableDomainAdmin を有効にすると、この AD グループのメンバーは Thin Client を管理者モードに切り替えることができます |
| root/domain/domainControllers | このドメインで使用するドメイン コントローラーのコンマ区切りリストを指定します。空白のままにした場合 (推奨)、代わりに DNS を使用して、ドメイン コントローラーの自動ルックアップが実行されます |
| root/domain/domainJoined | Thin Client が正式にドメインに追加されたかどうかを示します |
| root/domain/domainUsersGroup | enableDomainUsers を有効にすると、ドメイン ログインがこのグループの直接のメンバーに限定されます。この機能は、入れ子のグループには対応していません |
| root/domain/enableDomainAdmin | 1 に設定すると、domainAdminGroup で指定されているグループのメンバーは、Thin Client を管理者モードに切り替えることができます。0 に設定すると、ローカルの root アカウントを使用してローカルの管理タスクを実行する必要があります |
| root/domain/enableDomainUsers | 1 に設定すると、ドメイン ログインは、domainUserGroup で指定されているグループのメンバーに限定されます。0 に設定すると、有効なドメイン資格情報で Thin Client にログインできます |
| root/domain/enablePasswordChange | 1 に設定すると、ユーザーは Thin Client から直接ドメインパスワードを変更できます |
| root/domain/enableSSO | 有効にすると、暗号化された現在の資格情報がメモリにキャッシュされ、リモート接続の開始時に再利用できます |
| root/domain/loginAtStart | 1 に設定すると、Thin Client がドメインに追加された場合に、Thin Client の起動時にログイン画面が表示されます。1 に設定しないと、HP ThinPro の従来の共有デスクトップが起動時に表示されます |

| レジストリ キー | 説明 |
|--------------------------------|--|
| root/domain/retainUserRegistry | 1 に設定すると、ユーザーによるカスタムの設定変更がログインセッション間で保持されます |
| root/domain/workgroup | Thin Client のドメイン メンバーシップに関連付けられているワークグループまたは「短いドメイン」を指定します。これは、Active Directory ドメインの作成中に、NetBIOS ドメイン名とも呼ばれます。この値は通常、ドメインの認証中にドメイン コントローラーの値を検索することで自動検出されます |

Network

| レジストリ キー | 説明 |
|---|--|
| root/Network/ActiveDirectory/Domain | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/Network/ActiveDirectory/DynamicDNS | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/Network/ActiveDirectory/Enabled | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/Network/ActiveDirectory/Method | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/Network/ActiveDirectory/Password | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/Network/ActiveDirectory/Username | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/Network/DNSServers | ドメイン名の解決に使用する追加の DNS サーバーをここで指定できます。指定したサーバーが、DHCP 経由で取得したサーバーに加えて使用されます。最大 3 つの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスをコンマで区切って指定できます |
| root/Network/DefaultHostnamePattern | 新しいホスト名を生成するときに使用する初期設定のホスト名パターンを設定します。これは、Hostname レジストリ キーおよび/etc/hostname の両方が空の場合にのみ使用されます。このホスト名パターンでは、「%」を区切り文字として使用します。たとえば、「HPTC%MAC:1-6%」では、「HPTC」がプレフィックスとなり、Thin Client の MAC アドレスの先頭 6 文字がその後続きます。したがって、Thin Client の MAC アドレスが「11:22:33:44:55:66」である場合、生成されるホスト名は「HPTC112233」になります。パターンが「TC%MAC%」の場合、生成されるホスト名は「TC112233445566」になります。パターンが「HP%MAC:7%」の場合、生成されるホスト名は「HP1122334」になります |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/Network/EncryptWpaConfig | 1 に設定すると、パスワードが暗号化されます |
| root/Network/FtpProxy | FTP プロキシアドレスを設定します。サポート機能が向上するため、この値には次の形式の http プレフィックスを使用することをおすすめします：http://プロキシ サーバー：ポート |
| root/Network/Hostname | Thin Client のホスト名を設定します |
| root/Network/HttpProxy | HTTP プロキシアドレスを設定します。次の形式を使用することをおすすめします：http://プロキシサーバー：ポート |
| root/Network/HttpsProxy | HTTPS プロキシアドレスを設定します。サポート機能が向上するため、この値には次の形式の http プレフィックスを使用することをおすすめします：http://プロキシサーバー：ポート |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/DstAddr | IPsec ルールの送信先アドレスを設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMAuthMethod | IPsec ルールの認証方式を設定します。PSK は事前共有キーを使用するための方式で、Certificate は証明書ファイルを使用するための方式です |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMAuthMethodCACert | 認証方式が Certificate の場合に、証明機関 (CA) 証明書ファイルのパスがこのレジストリキーに保存されます |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMAuthMethodClientCert | 認証方式が Certificate の場合に、クライアント証明書ファイルのパスがこのレジストリキーに保存されます |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMAuthMethodPresharedKey | 認証方式が PSK の場合に、事前共有キーの値がこのレジストリキーに保存されます |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMAuthMethodPrivateKey | 認証方式が Certificate の場合に、クライアント証明書に対応する秘密キーファイルのパスがこのレジストリキーに保存されます |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMDHGroup | フェーズ 1 のディフィーヘルマン (Diffie-Hellman) グループを設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMEncryptionAlg | フェーズ 1 の暗号化アルゴリズムを設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMIntegrityAlg | フェーズ 1 の整合アルゴリズム (integrity algorithm) を設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMLifetimeMinutes | フェーズ 1 の存続期間を設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMAHEnable | フェーズ 2 の AH を有効にします |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMAHIntegrityAlg | フェーズ 2 の AH 整合アルゴリズム (integrity algorithm) を設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMESPEnable | フェーズ 2 の ESP を有効にします |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMESPEncryptionAlg | フェーズ 2 の ESP 暗号化アルゴリズムを設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMESPIntegrityAlg | フェーズ2のESP整合アルゴリズム (integrity algorithm) を設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMLifetimeSeconds | フェーズ2の存続期間を設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/RuleDescription | IPsec ルールの送信先を設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/RuleEnable | 1 に設定すると、ルールが有効になります |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/RuleName | IPsec ルールの名前を設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/SrcAddr | IPsec ルールのソース アドレスを設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/TunnelDstAddr | IPsec ルールのトンネル送信先アドレスを設定します |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/TunnelEnable | IPsec ルールのトンネル モードを有効にします |
| root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/TunnelSrcAddr | IPsec ルールのトンネル ソース アドレスを設定します |
| root/Network/KeepPreviousDNS | 1 に設定すると、ネットワーク マネージャーによって生成されない構成済みの DNS サーバーおよび検索ドメインが、resolv.conf に保持されるようになります。0 に設定すると、resolv.conf が完全に上書きされるようになります |
| root/Network/SearchDomains | FQDN の解決に使用する追加の検索ドメインをここで指定できます。指定したドメインは、DNS 経由で解決できる FQDN を生成するときに、不完全なサーバー定義に追加されます。たとえば、mydomain.com という検索ドメインによって、DNS サーバーの名前解決テーブルに myserver がない場合でも、サーバー定義 myserver を myserver.mydomain.com に正しく解決できるようになります。最大 5 つの追加検索ドメインを指定できます |
| root/Network/VPN/AutoStart | 1 に設定すると、システムの起動時に VPN が自動的に開始されます |
| root/Network/VPN/PPTP/Domain | PPTP のドメインを設定します |
| root/Network/VPN/PPTP/Gateway | PPTP のゲートウェイを設定します |
| root/Network/VPN/PPTP/Password | PPTP のユーザー パスワードを設定します |
| root/Network/VPN/PPTP/Username | PPTP のユーザー名を設定します |
| root/Network/VPN/Type | VPN の種類を設定します |
| root/Network/VPN/VPNC/DPDEndianess | DPD シークエンス番号のエンディアンを設定します (RFC3706 を参照してください)。0 : ビッグエンディアン。1 : リトルエンディアン。はっきりした原因がわからないままセッションが断続的に中断する場合は、これを切り替えてみてください |
| root/Network/VPN/VPNC/DPDInterval | DPD 間隔 (RFC3706 を参照してください) を秒単位で設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/Network/VPN/VPNC/DebugLevel | デバッグレベルを0、1、2、3、または99に設定します。これにより多数のログが生成されます。VPNの問題のトラブルシューティングを行う必要がある場合のみ、これを有効にします |
| root/Network/VPN/VPNC/Domain | VPNCのドメインを設定します |
| root/Network/VPN/VPNC/Gateway | VPNCのゲートウェイを設定します |
| root/Network/VPN/VPNC/Group | VPNCのグループを設定します |
| root/Network/VPN/VPNC/GroupPassword | VPNCのグループパスワードを設定します |
| root/Network/VPN/VPNC/IKEDHGroup | VPNCのIKEディフィーヘルマン (Diffie-Hellman) グループを設定します |
| root/Network/VPN/VPNC/LocalUDPPort | VPNC用に使用するローカルのUDPポートを設定します。0に設定すると、ランダムなポートが使用されます。この設定は、NATトラバーサルモード (NATMode) が cisco-udp である場合にのみ有効です |
| root/Network/VPN/VPNC/NATMode | VPNCのNATトラバーサルモードを設定します |
| root/Network/VPN/VPNC/Password | VPNCのユーザーパスワードを設定します |
| root/Network/VPN/VPNC/PerfectForwardSecrecy | PFS (Perfect Forward Secrecy) 用に使用するVPNCのディフィーヘルマン (Diffie-Hellman) グループを設定します |
| root/Network/VPN/VPNC/Security | VPNCのセキュリティレベルを設定します |
| root/Network/VPN/VPNC/Username | VPNCのユーザー名を設定します |
| root/Network/Wired/DefaultGateway | デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターのIPアドレスです。この設定は、MethodがStaticに設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wired/EnableDefGatewayAsDNS | 1に設定すると、デフォルトゲートウェイもネームサーバーになります |
| root/Network/Wired/EthernetSpeed | プライマリ Ethernet ネットワーク インターフェイスのリンク速度を設定します。Automaticに設定すると、利用可能な最速のリンク速度を選択できます。通常は、スイッチによって1 Gbpsまたは100 Mbps (全二重) になります。また、リンク速度を強制的に単一の速度 (100 Mbps または 10 Mbps) および二重モード (全二重または半二重) にすることで、適切な自動ネゴシエーションを実行しないスイッチおよびハブをサポートできます |
| root/Network/Wired/IPAddress | Thin ClientのIPv4アドレスを設定します。この設定は、MethodがStaticに設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wired/IPv6Enable | 1に設定すると、IPv6が有効になります |
| root/Network/Wired/Interface | 初期設定のEthernetインターフェイスまたはNICを設定します |
| root/Network/Wired/MTU | MTUを設定します。IPアドレスが静的であっても、DHCPから取得したものであってもかまいません |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/Network/Wired/Method | Automatic に設定すると、Thin Client が DHCP を使用してネットワーク設定の取得を試みます。Static に設定すると、IPAddress、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリキーの値が使用されません。Static にするとすべての Thin Client が同じ IP アドレスを取得するようになるため、汎用のクライアントプロファイルでの Static の使用はおすすめしません |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/AutoConnect | 1 に設定すると、ネットワークへの自動接続が有効になります |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/EthernetSpeed | プライマリ Ethernet ネットワークインターフェースのリンク速度を設定します。Automatic に設定すると、利用可能な最速のリンク速度を選択できます。通常は、スイッチによって 1 Gbps または 100 Mbps (全二重) になります。リンク速度を強制的に単一の速度 (100 Mbps または 10 Mbps) および二重モード (Full または Half) の組み合わせにすることで、自動ネゴシエーションを実行しないスイッチおよびハブをサポートできます |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv4/Address | クライアントの IPv4 アドレスを設定します。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv4/DefaultGateway | デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターの IP アドレスです。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv4/Enabled | 1 に設定すると、このプロファイルで IPv4 が有効になります |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv4/Method | Automatic に設定すると、クライアントが DHCP を使用してネットワーク設定の取得を試みます。Static に設定すると、Address、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリキーの値が使用されません。Static に設定するとすべてのクライアントが同じ IP アドレスを使用するようになるため、汎用のクライアントプロファイルでの Static の使用はおすすめしません |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv4/SubnetMask | デバイスのサブネットマスクを設定します。たとえば、標準のクラス C サブネットの場合は、255.255.255.0 となります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv6/Address | クライアントの IPv6 アドレスを設定します。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv6/DefaultGateway | デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターの IP アドレスです。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv6/Enabled | 1 に設定すると、このプロファイルで IPv6 が有効になります |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv6/Method | Automatic に設定すると、クライアントが DHCP を使用してネットワーク設定の取得を試みます。Static に設定すると、Address、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリキーの値が使用されます。Static に設定するとすべてのクライアントが同じ IP アドレスを使用ようになるため、汎用のクライアント プロファイルでの Static の使用はおすすめしません |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv6/SubnetMask | デバイスのサブネット マスクを設定します。これは通常、IPv6 のプレフィックスの長さになります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/MTU | MTU を設定します。IP アドレスが静的であっても、DHCP から取得したものであってもかまいません |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Priority | 有線ネットワーク用に予約されています |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/AnonyIdentity | PEAP 認証の匿名 ID を設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/CACert | PEAP 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/InnerAuth | PEAP 内部認証プロトコルを設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/PEAPVer | PEAP のバージョンを設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/Password | PEAP 認証のパスワードを設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/Username | PEAP 認証のユーザー名を設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/CACert | TLS 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/Identity | TLS 認証の ID を設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/PrivateKey | TLS 認証の秘密キー ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/PrivateKeyPassword | TLS 認証の秘密キー ファイルのパスワードを設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/UserCert | TLS 認証のユーザー証明書ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/AnonyIdentity | TTLS 認証の匿名 ID を設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/CACert | TTLS 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/InnerAuth | TTLS 内部認証プロトコルを設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/Password | TTLS 認証のパスワードを設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/Username | TTLS 認証のユーザー名を設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/Type | 有線認証の種類を設定します |
| root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/WiredInterface | そのプロファイル用の有線インターフェイスを設定します |
| root/Network/Wired/Security/CACert | 証明機関 (CA) 証明書ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wired/Security/EnableMachineAuth | 1 に設定すると、PEAP のシステム認証が有効になります |
| root/Network/Wired/Security/Identity | ID または匿名 ID を設定します |
| root/Network/Wired/Security/InnerAuth | PEAP 内部認証プロトコルを設定します |
| root/Network/Wired/Security/InnerAuthTTLS | TTLS 内部認証プロトコルを設定します |
| root/Network/Wired/Security/MachineAuthName | システム認証が有効になっている場合に、システムのアカウント名を保存します |
| root/Network/Wired/Security/MachineAuthPassword | システム認証が有効になっている場合に、システムのアカウントパスワードを保存します |
| root/Network/Wired/Security/PEAPVersion | PEAP のバージョンを設定します |
| root/Network/Wired/Security/Password | パスワードを設定します |
| root/Network/Wired/Security/PrivateKey | 秘密キー ファイルへのパスを設定します。これは TLS 認証でのみ使用されます |
| root/Network/Wired/Security/Type | 802.1x セキュリティ認証の種類を設定します |
| root/Network/Wired/Security/UserCert | ユーザー証明書ファイルへのパスを設定します。これは TLS 認証でのみ使用されます |
| root/Network/Wired/Security/Username | ユーザー名を設定します |
| root/Network/Wired/SubnetMask | デバイスのサブネットマスクを設定します。たとえば、標準のクラス C サブネットの場合は、255.255.255.0 となります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wired/UseWiredProfiles | 1 に設定すると、有線接続がプロファイルモードで構成され、複数の有線ネットワークに接続できるようになります。0 に設定すると、1 つの有線ネットワークにのみ接続できます |
| root/Network/Wired/WirelessSwitch | 0 に設定すると、有線ネットワークおよび無線ネットワークを同時に接続できます。1 に設定すると、有線ネットワークが無線ネットワークに優先されます。つまり、有線ネットワークに接続できない場合に、構成済みの無線ネットワークが使用されます |
| root/Network/Wireless/DefaultGateway | デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターの IP アドレスです。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wireless/EnableDefGatewayAsDNS | 1 に設定すると、デフォルトゲートウェイもネームサーバーになります |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/Network/Wireless/EnableWireless | 1 に設定すると、無線機能が有効になります。0 に設定すると、無線機能が無効になります |
| root/Network/Wireless/IPAddress | Thin Client の IPv4 アドレスを設定します。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wireless/IPv6Enable | 1 に設定すると、IPv6 が有効になります |
| root/Network/Wireless/Interface | 初期設定の無線インターフェイスまたは無線ネットワークアダプターを設定します |
| root/Network/Wireless/Method | Automatic に設定すると、Thin Client が DHCP を使用してネットワーク設定の取得を試みます。Static に設定すると、IPAddress、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリキーの値が使用されます。Static にするとすべての Thin Client が同じ IP アドレスを取得ようになるため、汎用のクライアントプロファイルでの Static の使用はおすすめしません |
| root/Network/Wireless/PowerEnable | 1 に設定すると、無線ネットワークカードの電源管理が有効になります |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/AutoConnect | 1 に設定すると、SSID への自動接続が有効になります |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv4/Address | クライアントの IPv4 アドレスを設定します。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv4/DefaultGateway | デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターの IP アドレスです。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv4/Enabled | 1 に設定すると、このプロファイルで IPv4 が有効になります |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv4/Method | Automatic に設定すると、クライアントが DHCP を使用してネットワーク設定を取得します。Static に設定すると、Address、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリキーの値が使用されます。Static に設定すると、そのプロファイルを使用するすべてのクライアントが同じ IP アドレスを使用ようになるため、汎用のクライアントプロファイルでの Static の使用はおすすめしません |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv4/SubnetMask | デバイスのサブネットマスクを設定します。たとえば、標準のクラス C サブネットの場合は、255.255.255.0 となります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv6/Address | クライアントの IPv6 アドレスを設定します。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv6/DefaultGateway | デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターの IP アドレスです。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv6/Enabled | 1 に設定すると、このプロファイルで IPv6 が有効になります |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv6/Method | Automatic に設定すると、クライアントが DHCP を使用してネットワーク設定の取得を試みます。Static に設定すると、Address、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリキーの値が使用されず。Static に設定するとすべてのクライアントが同じ IP アドレスを使用ようになるため、汎用のクライアントプロファイルでの Static の使用はおすすめしません |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv6/SubnetMask | デバイスのサブネットマスクを設定します。これは通常、IPv6 のプレフィックスの長さになります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/PowerEnable | 1 に設定すると、無線ネットワークカードの電源管理が有効になります |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Priority | ネットワークの優先度を定義します。無線ネットワークの場合、数値が大きいほど優先度が高くなります。無線ネットワーク接続には高い優先度が推奨されます |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/SSID | 無線アクセスポイントを SSID を使用して設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/SSIDHidden | 無線アクセスポイントの SSID を非表示状態にするかどうかを指定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPFAST/AnonyIdentity | EAP-FAST 認証の匿名 ID を設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPFAST/FastProvision | EAP-FAST 認証のプロビジョニングオプションを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPFAST/PACFile | EAP-FAST 認証の PAC ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPFAST/Password | EAP-FAST 認証のパスワードを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPFAST/Username | EAP-FAST 認証のユーザー名を設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/AnonyIdentity | EAP PEAP 認証の匿名 ID を設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/CACert | EAP PEAP 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/InnerAuth | PEAP 内部認証プロトコルを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/PEAPVer | PEAP のバージョンを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/Password | EAP PEAP 認証のパスワードを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/Username | EAP PEAP 認証のユーザー名を設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/CACert | TLS 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/Identity | TLS 認証の ID を設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/PrivateKey | TLS 認証の秘密キー ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/PrivateKeyPassword | TLS 認証の秘密キー ファイルのパスワードを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/UserCert | TLS 認証のユーザー証明書ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/AnonyIdentity | TTLS 認証の匿名 ID を設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/CACert | TTLS 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/InnerAuth | TTLS 内部認証プロトコルを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/Password | TTLS 認証のパスワードを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/Username | TTLS 認証のユーザー名を設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/PSK/PreSharedKey | PSK 認証のパスワードを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/Type | 無線認証の種類を設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/WEP/AuthType | WEP 認証の種類を設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/WEP/Key | WEP パスワードを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/WEP/KeyIndex | WEP パスワードのインデックスを設定します |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/WirelessBand | 周波数範囲の選択を指定します。Auto を選択すると、すべての無線チャンネルがスキャンされます。2.4GHz を選択すると、2.4 GHz のチャンネルのみがスキャンされます。5GHz を選択すると、5 GHz のチャンネルのみがスキャンされます |
| root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/WirelessInterface | そのプロファイル用の無線インターフェイスを設定します |
| root/Network/Wireless/Roaming/enableRoamingOptions | 1 に設定すると、無線のローミング オプションが設定可能になります |
| root/Network/Wireless/Roaming/roamingThreshold | 強いアクセスポイントへのローミングを試みる前に、許容する最小の信号強度を dBm 単位で設定します。これは負の値です |
| root/Network/Wireless/Roaming/scanInterval | 信号強度がローミングのしきい値を下回ったときに強いアクセスポイントをスキャンする頻度を秒単位で設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/Network/Wireless/SSID | 無線アクセスポイントを、その SSID を使用して設定します |
| root/Network/Wireless/SSIDHidden | 無線アクセスポイントの SSID を非表示状態にするかどうかを指定します |
| root/Network/Wireless/SSIDWhiteList | 無線アクセスポイントのホワイトリストを指定します。このレジストリキーの値が空でない場合、この値で指定された SSID のみが無線アクセスポイントのスキャン結果に表示されます。複数の SSID は、セミコロンで区切ります |
| root/Network/Wireless/Security/CACert | 証明機関 (CA) 証明書ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wireless/Security/EAPFASTPAC | EAP-FAST 認証の PAC ファイルへのパスを設定します |
| root/Network/Wireless/Security/EAPFASTProvision | EAP-FAST 認証のプロビジョニングオプションを設定します |
| root/Network/Wireless/Security/Identity | ID または匿名 ID を設定します |
| root/Network/Wireless/Security/InnerAuth | PEAP 内部認証プロトコルを設定します |
| root/Network/Wireless/Security/InnerAuthTTLS | TTLS 内部認証プロトコルを設定します |
| root/Network/Wireless/Security/PEAPVersion | PEAP のバージョンを設定します |
| root/Network/Wireless/Security/Password | パスワードを設定します |
| root/Network/Wireless/Security/PrivateKey | 秘密キー ファイルへのパスを設定します。これは TLS 認証でのみ使用されます |
| root/Network/Wireless/Security/Type | 無線認証の種類を設定します |
| root/Network/Wireless/Security/UserCert | ユーザー証明書ファイルへのパスを設定します。これは TLS 認証でのみ使用されます |
| root/Network/Wireless/Security/Username | ユーザー名を設定します |
| root/Network/Wireless/Security/WEPAuth | WEP 認証の種類を設定します |
| root/Network/Wireless/Security/WEPIndex | WEP パスワードのインデックスを設定します |
| root/Network/Wireless/SubnetMask | デバイスのサブネットマスクを設定します。たとえば、標準のクラス C サブネットの場合は、255.255.255.0 となります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です |
| root/Network/Wireless/UseWirelessProfiles | 1 に設定すると、無線接続がプロファイルモードで構成され、複数の無線ネットワークに接続できるようになります。これは、モバイルコンピューティングに役立ちます。0 に設定すると、構成済みの無線ネットワークを 1 つだけ接続できます |
| root/Network/Wireless/WirelessBand | 周波数範囲の選択を指定します。Auto を選択すると、すべての無線チャンネルがスキャンされます。2.4GHz を選択すると、2.4 GHz のチャンネルのみがスキャンされます。5GHz を選択すると、5 GHz のチャンネルのみがスキャンされます |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/Network/Wireless/WpaDriver | wpa_supplicant で使用されるドライバーを指定します (初期設定は wext)。現在サポートされている他のドライバーは nl80211 のみです |
| root/Network/Wireless/ bcmwlCountryOverride | 必要な値が BIOS がない場合に、BIOS の国の値を上書きします。bcmwl ドライバーは、必要に応じて BIOS の値から取得される wl_country オプションを受け入れます (現在、インドネシアのみがサポートされています)。変更を適用するには、システムを再起動する必要があります |
| root/Network/Wireless/ disableUserCreateWirelessProfile | 1 に設定すると、ユーザー アカウントを使って無線システムトレイから無線プロファイルを作成できません |
| root/Network/Wireless/ disableUserWirelessProfileTrayMenu | 1 に設定すると、無線システムトレイアイコンの無線メニューがユーザー アカウントで無効になります |
| root/Network/Wireless/ disableWirelessProfileTrayMenu | 1 に設定すると、無線システムトレイアイコンの無線メニューが無効になります |
| root/Network/Wireless/ tryAutoWirelessIfUserFailed | 1 に設定すると、ユーザーが無線 AP への接続を試みて失敗した場合に、無線モジュールが使用可能なすべてのプロファイルを使って無線での接続を試みます。0 に設定すると、ユーザーが無線 AP への接続を試みて失敗した場合に、無線ステータスが「切断済み」に設定されます。これはフォールバック機能です |
| root/Network/disableLeftClickMenu | 1 に設定すると、ネットワークシステムトレイアイコンの左クリックメニューが無効になります |
| root/Network/disableRightClickMenu | 1 に設定すると、ネットワークシステムトレイアイコンの右クリックメニューが無効になります |
| root/Network/enableVPNMenu | 1 に設定すると、タスクバーのネットワークアイコンからアクセスできる VPN の左クリックメニューが有効になります |
| root/Network/iPeak/ShowStatus | 1 に設定すると、[HP Velocity]のステータスがシステムトレイアイコンの一部として表示されます。[HP Velocity]は、HP t420 ではサポートされていません |
| root/Network/iPeak/SingleSidedAccelerate | 1 に設定すると、[HP Velocity]の片側高速化機能が有効になります。0 に設定すると、この機能が無効になります。[HP Velocity]は、HP t420 および HP mt20 ではサポートされていません |
| root/Network/iPeak/Status | 1 に設定すると、[HP Velocity]が有効になります。2 に設定すると、[HP Velocity]がモニターモードで有効になります。0 に設定すると、[HP Velocity]が無効になります。[HP Velocity]は、HP t420 ではサポートされていません |
| root/Network/userLock | 1 に設定すると、ネットワーク設定がユーザーによって変更された場合に、その設定がクライアントプロファイルのインポート時に保持されます |
| root/Network/userLockEngaged | このレジストリキーは、ネットワーク設定がユーザーによって変更されると、自動的に 1 に設定されます。通常、この設定を変更する必要はありません |

Power

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/Power/currentPowerPlan | このレジストリキーで、使用する電源プランを選択します。これは自動的に初期設定値に設定されます |
| root/Power/AC/brightness | Mobile Thin Client が外部電源に接続されているときの、輝度の初期値をパーセントで指定します |
| root/Power/default/AC/cpuMode | コンピューターが外部電源に接続されているときの電源プランの CPU モードを設定します。初期設定では、「パフォーマンス」に設定されています |
| root/Power/default/AC/lidAction | 外部電源に接続されているときにコンピューターを閉じた場合に行われる動作を設定します。初期設定では、「スリープ」に設定されています |
| root/Power/default/AC/powerButtonAction | コンピューターが外部電源に接続されているときに電源ボタンを押した場合に行われる動作を設定します。初期設定では、「シャットダウン」に設定されています |
| root/Power/default/AC/sleep | 外部電源に接続されているときにコンピューターがスリープモードに入るまでの待機時間(分)を設定します。初期設定では、30 に設定されています。0 に設定すると、コンピューターはスリープモードに入りません |
| root/Power/default/AC/standby | コンピューターが外部電源に接続されているときにディスプレイの電源がオフになるまでの待機時間(分)を設定します。初期設定では、15 に設定されています。0 に設定すると、コンピューターはスタンバイモードに入りません |
| root/Power/default/AC/timeoutDim | このキーは現在使用されていません |
| root/Power/default/battery/brightness | Mobile Thin Client が外部電源に接続されていないときの、輝度の初期値をパーセントで指定します |
| root/Power/default/battery/cpuMode | コンピューターが外部電源に接続されていないときの電源プランの CPU モードを設定します。初期設定では、「オンデマンド」に設定されています |
| root/Power/default/battery/critical/criticalBatteryAction | バッテリーが <code>criticalBatteryLevel</code> で定義した完全なローバッテリー状態のときに実行する動作を設定します |
| root/Power/default/battery/critical/criticalBatteryLevel | バッテリーが完全なローバッテリー状態になっているとみなされるしきい値をパーセントで指定します |
| root/Power/default/battery/lidAction | 外部電源に接続されていないときにコンピューターを閉じた場合に行われる動作を設定します。初期設定では、「スリープ」に設定されています |
| root/Power/default/battery/low/brightness | バッテリーがローバッテリー状態になっているときの、輝度の初期値をパーセントで指定します |
| root/Power/default/battery/low/cpuMode | CPU モードを設定します（「パフォーマンス」または「オンデマンド」） |
| root/Power/default/battery/low/lowBatteryLevel | バッテリーがローバッテリー状態になっているとみなされるときに残っているバッテリー電源の割合を設定します |
| root/Power/default/battery/low/sleep | 外部電源に接続されていないときにコンピューターがスリープモードに入るまでの待機時間(分)を設定し |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| | ます。初期設定では、30 に設定されています。0 に設定すると、コンピューターはスリープモードに入りません |
| root/Power/default/battery/low/standby | コンピューターが外部電源に接続されていないときにディスプレイの電源がオフになるまでの待機時間(分)を設定します。初期設定では、15 に設定されています。0 に設定すると、コンピューターはスタンバイモードに入りません |
| root/Power/default/battery/low/timeoutDim | このキーは現在使用されていません |
| root/Power/default/battery/powerButtonAction | 電源ボタンが押されたときの動作を指定します |
| root/Power/default/battery/sleep | スリープ状態になるまで待機する分数を設定します。0：スリープ状態にしない |
| root/Power/default/battery/standby | ディスプレイの電源をオフにするまで待機する分数を設定します。0：電源をオフにしない |
| root/Power/default/battery/timeoutDim | このキーは現在使用されていません |

SCIM

| レジストリキー | 説明 |
|-----------------------|---|
| root/SCIM/ScimEnabled | 1 に設定すると、SCIM が中国語、日本語、および韓国語の入力に対して有効になります |

ScepMgr

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/ScepMgr/General/AutoRenew/Enabled | 1 に設定すると、証明書が期限切れになる前に自動的に更新されます |
| root/ScepMgr/General/AutoRenew/TimeFrame | SCEP Manager が証明書の有効期限日の何日前に自動更新を試みるかを設定します |
| root/ScepMgr/IdentifyingInfo/CommonName | 管理者の名前やデバイスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) など、SCEP の識別情報に使用する共通名を設定します。この値を空のままにすると、FQDN が初期設定で使用されます |
| root/ScepMgr/IdentifyingInfo/CountryName | SCEP の識別情報に使用する国または地域を設定します |
| root/ScepMgr/IdentifyingInfo/EmailAddress | SCEP の識別情報に使用する電子メールアドレスを設定します |
| root/ScepMgr/IdentifyingInfo/LocalityName | SCEP の識別情報に使用する地域名 (都市名など) を設定します |
| root/ScepMgr/IdentifyingInfo/OrganizationName | SCEP の識別情報に使用する組織名 (企業名や政府機関名など) を設定します |

| レジストリ キー | 説明 |
|--|--|
| root/ScepMgr/IdentifyingInfo/OrganizationUnitName | SCEP の識別情報に使用する組織単位名（事業所名や部署名など）を設定します |
| root/ScepMgr/IdentifyingInfo/StateName | SCEP の識別情報に使用する州または都道府県を設定します |
| root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/CertFileChanged | このレジストリ キーは、証明書ファイルが変更されたことを他のアプリケーションに通知するためにのみ使用されます。このキーは変更しないでください |
| root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/KeySize | 生成されるキーペアで使用するキー サイズを設定します |
| root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/ServerName | SCEP サーバーの名前を設定します |
| root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/ServerUrl | SCEP サーバーの URL を設定します。これは、SCEP クライアントが証明書を登録するときに必要なになります |
| root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/Status/Code | SCEP の登録の状態コードを含みます。この値は読み取り専用です |
| root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/Status/Detail | SCEP の登録に関する詳細情報を含みます。この値は読み取り専用です |

Search

| レジストリ キー | 説明 |
|---|----|
| root/Search/Category/Applications/ConnectionManager/checked | |
| root/Search/Category/Applications/ConnectionManager/enabled | |
| root/Search/Category/Applications/Connections/checked | |
| root/Search/Category/Applications/Connections/enabled | |
| root/Search/Category/Applications/ControlPanel/checked | |
| root/Search/Category/Applications/ControlPanel/enabled | |
| root/Search/Category/Applications/Desktop/checked | |
| root/Search/Category/Applications/Desktop/enabled | |
| root/Search/Category/Applications/icon | |
| root/Search/Category/Applications/name | |
| root/Search/Category/FileSystem/caseSensitive | |
| root/Search/Category/FileSystem/enabled | |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/Search/Category/FileSystem/ folderFilter | ユーザーに検索を許可するファイルシステム内のフォルダーを指定します。複数のフォルダーは、セミコロンで区切ります。例：/home/user;/usr/bin |
| root/Search/Category/FileSystem/location | |
| root/Search/Category/FileSystem/ subFolder | |
| root/Search/Category/Miscellaneous/ CheckForUpdate | |
| root/Search/Category/Miscellaneous/ Logout | |
| root/Search/Category/Miscellaneous/ Reboot | |
| root/Search/Category/Miscellaneous/ ShutDown | |
| root/Search/Category/Miscellaneous/Sleep | |
| root/Search/Category/Miscellaneous/ SwitchToAdmin | |
| root/Search/Category/Regeditor/byDir | |
| root/Search/Category/Regeditor/byKey | |
| root/Search/Category/Regeditor/byValue | |
| root/Search/Category/Regeditor/byWhole | |
| root/Search/GUI/showCategory | |

Serial

| レジストリキー | 説明 |
|-----------------------------|---|
| root/Serial/<UUID>/baud | シリアルデバイスの速度を設定します |
| root/Serial/<UUID>/dataBits | 各文字に含まれるビット数を設定します |
| root/Serial/<UUID>/device | システムに接続されているシリアルデバイスを指定します |
| root/Serial/<UUID>/flow | シリアルデバイスのフロー制御を設定します。これは、シリアル通信の停止および開始を通知するために使用されます |
| root/Serial/<UUID>/name | シリアルデバイスとの通信に使用される Windows デバイスポートを指定します |
| root/Serial/<UUID>/parity | シリアルデバイスのパリティビットを設定します。パリティビットはエラーの検出に使用されます。none に設定した場合、パリティ検出は行われません |

SystemInfo

| レジストリ キー | 説明 |
|--|--|
| root/SystemInfo/Pages/General | 0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[全般]タブがエンドユーザーに表示されなくなります |
| root/SystemInfo/Pages/NetTools | 0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[ネットワークツール]タブがエンドユーザーに表示されなくなります |
| root/SystemInfo/Pages/Network | 0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[ネットワーク]タブがエンドユーザーに表示されなくなります |
| root/SystemInfo/Pages/ SoftwareInformationTab/ServicePacks | 0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[ソフトウェア情報]セクションにある[サービスパック]タブがエンドユーザーに表示されなくなります |
| root/SystemInfo/Pages/ SoftwareInformationTab/ SoftwareInformation | 0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[ソフトウェア情報]タブがエンドユーザーに表示されなくなります |
| root/SystemInfo/Pages/ SoftwareInformationTab/SoftwareInstalled | 0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[ソフトウェア情報]セクションにある[インストール済みソフトウェア]タブがエンドユーザーに表示されなくなります |
| root/SystemInfo/Pages/SystemLogs | 0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[システムログ]タブがエンドユーザーに表示されなくなります |
| root/SystemInfo/authorized | 0 に設定すると、タスクバーの[システム情報]ボタンがエンドユーザーで無効になります |

TaskMgr

| レジストリ キー | 説明 |
|----------------------------------|--|
| root/TaskMgr/General/AlwaysOnTop | 1 に設定すると、[タスク マネージャー]ウィンドウが常に手前に表示されます |

USB

| レジストリ キー | 説明 |
|---|--|
| root/USB/Classes/<class type>/ClassID | USB クラス ID 番号を設定します |
| root/USB/Classes/<class type>/ DisplayName | USB クラス名を設定します |
| root/USB/Classes/<class type>/State | クラスをリモート ホストにマッピングするかどうかを設定します |
| root/USB/Classes/<class type>/Visible | クラスをユーザー インターフェイスに表示するか、表示しないか、または無効にするかを設定します |

| レジストリキー | 説明 |
|--------------------------------------|---|
| root/USB/Devices/<UUID>/DisplayName | [USB マネージャー]に表示される名前を設定します。設定しない場合、[USB マネージャー]はデバイス情報を使用して適切な名前を生成しようとします |
| root/USB/Devices/<UUID>/ProductID | デバイスの製品 ID を設定します |
| root/USB/Devices/<UUID>/State | このデバイスをリモートホストにマッピングするかどうかを次のように設定します。0:リダイレクトしない、1:初期設定を使用、2:リダイレクト |
| root/USB/Devices/<UUID>/VendorID | デバイスのベンダー ID を設定します |
| root/USB/root/autoSwitchProtocol | 1 に設定すると、選択したプロトコルに基づいてリモート USB プロトコルが自動的に切り替えられます |
| root/USB/root/mass-storage/allowed | 1 に設定すると、プロトコルが local の場合に大容量記憶装置が自動的にマウントされます |
| root/USB/root/mass-storage/read-only | 1 に設定すると、大容量記憶装置が自動的にマウントされるときに、読み取り専用でマウントされます |
| root/USB/root/protocol | リモート USB を所有するプロトコルを設定します。有効な値はシステムにインストールされているプロトコルによって異なりますが、local、xen、freerdp、および view を使用できます |
| root/USB/root/showClasses | 1 に設定すると、[クラス]セクションが[USB マネージャー]に表示されます |

auto-update

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/auto-update/DNSAliasDir | HP Smart Client Services をホストしているサーバーの、DNS エイリアス モードでの初期設定ルートディレクトリを設定します |
| root/auto-update/LockScreenTimeout | 自動更新中に画面がロック解除されるまでのタイムアウト (分) を指定します。0 に設定すると、自動更新中ずっと、更新が完了するまで画面がロック解除されません |
| root/auto-update/ManualUpdate | 1 に設定すると、Automatic Update (自動更新) の DHCP タグ、DNS エイリアス、およびブロードキャスト更新方式が無効になります。手動更新を実行する場合は、password、path、protocol、user、および ServerURL レジストリキーを設定して、更新サーバーを既知の状態にする必要があります |
| root/auto-update/ScheduledScan/Enabled | 1 に設定すると、Thin Client が Automatic Update (自動更新) サーバーを定期的にスキャンして、アップデートをチェックするようになります。0 に設定すると、Thin Client はシステム起動時のみアップデートをチェックするようになります |
| root/auto-update/ScheduledScan/Interval | スケジュール設定されたアップデートのスキャンを行う間隔を設定します。これは HH:MM (時:分) 形式で指定する必要があります。24 時間を超える長さの間 |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| | 隔を指定できます。たとえば、スキャンを 48 時間ごとに設定するには、これを「48:00」に設定します |
| root/auto-update/ScheduledScan/Period | 設定した期間の間に、Thin Client がスケジュール設定されたスキャンをランダムに実行するようになります。すべての Thin Client がまったく同時にアップデートを行うことでネットワークが過密状態になるのを避けるため、長い期間を設定してください。期間は HH:MM (時:分) 形式で指定する必要があります。たとえば、2 時間半かけて Thin Client のアップデートが分散して行われるようにするには、これを「02:30」に設定します |
| root/auto-update/ScheduledScan/StartTime | スケジュール設定された最初のアップデートのスキャンの開始時刻を、24 時間の HH:MM (時:分) 形式で設定します。たとえば、午後 4 時 35 分は「16:35」になります |
| root/auto-update/ServerURL | ManualUpdate が有効になっている場合に使用される更新サーバーの IP アドレスまたはドメイン名を設定します |
| root/auto-update/VisibleInSystray | 1 に設定すると、 [自動更新] システムトレイアイコンが有効になります |
| root/auto-update/enableLockScreen | 1 に設定すると、自動更新が進行している間、画面がロックされます |
| root/auto-update/enableOnBootup | 1 に設定すると、システム起動時に [自動更新] が有効になります |
| root/auto-update/enableSystrayLeftClickMenu | 1 に設定すると、 [自動更新] システムトレイアイコンの左クリックメニューが有効になります |
| root/auto-update/enableSystrayRightClickMenu | 1 に設定すると、 [自動更新] システムトレイアイコンの右クリックメニューが有効になります |
| root/auto-update/gui/auto-update/ManualUpdate | [自動更新] ツールでの [手動設定を有効にする] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/auto-update/gui/auto-update/ServerURL | [自動更新] ツールでの [サーバー] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/auto-update/gui/auto-update/enableLockScreen | [自動更新] ツールでの [自動更新時に画面のロックを有効にする] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/auto-update/gui/auto-update/enableOnBootup | [自動更新]ツールでの[システム起動時に自動更新を有効にする]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/auto-update/gui/auto-update/password | [自動更新]ツールでの[パスワード]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/auto-update/gui/auto-update/protocol | [自動更新]ツールでの[プロトコル]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/auto-update/gui/auto-update/tag | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/auto-update/gui/auto-update/user | [自動更新]ツールでの[ユーザー名]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/auto-update/password | ManualUpdate が有効になっている場合に使用されるパスワードを設定します。これは、protocol が ftp に設定されている場合にのみ使用されます。この値は暗号化されます |
| root/auto-update/path | ManualUpdate が有効になっている場合の、初期設定のサーバー URL の相対パスを設定します。通常、これは空にするか、auto-update に設定します |
| root/auto-update/preserveConfig | 1 に設定すると、イメージの更新が[自動更新]によって行われた場合に、現在の Thin Client 構成設定が保持されるようになります |
| root/auto-update/protocol | ManualUpdate が有効になっている場合に使用されるプロトコルを設定します |
| root/auto-update/tag | このレジストリキーは古いものです。以前は、DHCP で使用されるタグ番号 (137) を設定していました。現在は、タグ名 auto-update を使用して検出されます |
| root/auto-update/user | ManualUpdate が有効になっている場合に使用されるユーザー名を設定します。これは、protocol が ftp に設定されている場合にのみ使用されます |

background

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/background/bginfo/alignment | [背景のシステム情報]の文字揃えを設定します |
| root/background/bginfo/enabled | 1 に設定すると、システム情報がデスクトップの背景([背景のシステム情報])に表示されます |
| root/background/bginfo/horizontalLocation | [背景のシステム情報]の X 軸上の位置をパーセントで設定します |
| root/background/bginfo/interval | [背景のシステム情報]の文字列の更新間隔 (秒) を設定します |
| root/background/bginfo/preset | [背景のシステム情報]のプリセットファイルを使用するかどうかを、use に設定します。none に設定すると、[デスクトップの背景]で設定をカスタマイズできます |
| root/background/bginfo/shadowColor | [背景のシステム情報]の影の色を設定します |
| root/background/bginfo/shadowOffset | [背景のシステム情報]の影のオフセットを設定します。0 に設定すると、影が無効になります |
| root/background/bginfo/text | [背景のシステム情報]の文字列を設定します。詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『Login Screen Customization』(ログイン画面のカスタマイズ)(英語版)を参照してください |
| root/background/bginfo/textColor | [背景のシステム情報]の文字列の色を設定します |
| root/background/bginfo/textSize | [背景のシステム情報]の文字列のサイズを設定します |
| root/background/bginfo/verticalLocation | [背景のシステム情報]の Y 軸上の位置をパーセントで設定します |
| root/background/desktop/color | theme が none の場合、このキーはユーザー定義のテーマで使用される色を保存します |
| root/background/desktop/imagePath | theme が none の場合、このキーはユーザー定義のテーマで使用されるデスクトップの壁紙へのパスを保存します |
| root/background/desktop/lastBrowseDir | theme が none の場合、このキーは最後に使用されたディレクトリを保存します |
| root/background/desktop/style | theme が none の場合、このキーは壁紙をデスクトップ上に配置する方法 (center、tile、stretch、fit、fill など) を保存します |
| root/background/desktop/theme | システムテーマ設定を指定します。この値は、[コントロールパネル]の[デスクトップの背景]ツールで設定されます。有効な値は、システムに存在するテーマによって異なります。none に設定して、ユーザーがテーマを定義できるようにするか、auto に設定して、システムが HP Smart Zero 用に適切なプロトコルのテーマを自動設定するようにするか、default に設定して、HP ThinPro の初期設定のテーマを使用することができます |

config-wizard

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/config-wizard/FirmwareUpdate/ firmwareUpdateTimeout | 更新をチェックするタイムアウト時間（秒）を設定します。-1 に設定すると、タイムアウトはなくなります |
| root/config-wizard/FirmwareUpdate/ firmwareUpdateURL | イメージ更新用の FTP URL を設定します |
| root/config-wizard/FirmwareUpdate/ preserveConfig | 1 に設定すると、イメージの更新が初期設定ウィザードによって行われた場合に、現在の Thin Client 構成設定が保持されるようになります |
| root/config-wizard/SelfUpdate/ selfUpdateTimeout | セルフ更新をチェックするときの検索のタイムアウト時間（秒）を設定します。-1 に設定すると、タイムアウトはなくなります |
| root/config-wizard/SelfUpdate/ selfUpdateURL | 設定ウィザードの FTP URL を設定します |
| root/config-wizard/ disableAllChecksAtStartup | 1 に設定すると、起動時のすべてのチェックが無効になります。0 に設定すると、レジストリキー enableConnectionCheck、enableNetworkCheck、および enableUpdateCheck を使用して、各種のチェックを個別に有効または無効にできます |
| root/config-wizard/enableConfigWizard | 1 に設定すると、システム起動時の設定ウィザードが有効になります |
| root/config-wizard/enableConnectionCheck | 1 に設定すると、システム起動時の接続チェックが有効になります |
| root/config-wizard/enableNetworkCheck | 1 に設定すると、システム起動時にネットワークチェックが有効になります |
| root/config-wizard/enableUpdateCheck | 1 に設定すると、システム起動時に更新チェックが有効になります |
| root/config-wizard/enableUpdateCheckGui | 1 に設定すると、システム起動時の更新チェック GUI が有効になります |
| root/config-wizard/ showNetworkSettingsButton | 1 に設定すると、ネットワーク設定のボタンがネットワークチェックウィンドウに表示されます |

desktop

| レジストリキー | 説明 |
|--|---------------------------|
| root/desktop/shortcuts/<action>/command | ショートカットによって実行するコマンドを設定します |
| root/desktop/shortcuts/<action>/enabled | 1 に設定すると、ショートカットが有効になります |
| root/desktop/shortcuts/<action>/shortcut | ショートカット名を設定します |

entries

| レジストリ キー | 説明 |
|-------------------------------|----|
| root/entries/<UUID>/command | |
| root/entries/<UUID>/folder | |
| root/entries/<UUID>/icon | |
| root/entries/<UUID>/label | |
| root/entries/<UUID>/metaInfo | |
| root/entries/<UUID>/onDesktop | |
| root/entries/<UUID>/onMenu | |

keyboard

| レジストリ キー | 説明 |
|---|--|
| root/keyboard/DrawLocaleLetter | 1 に設定すると、キーボードシステムトレイアイコンが、静止画像ではなく言語ロケール設定を表示するようになります |
| root/keyboard/SystrayMenu/keyboardLayout | 1 に設定すると、キーボードシステムトレイアイコンを右クリックして表示されるメニューに、[コントロールパネル]の[キーボードレイアウト]ツールを開くオプションが表示されます |
| root/keyboard/SystrayMenu/languages | 1 に設定すると、キーボードシステムトレイアイコンを右クリックして表示されるメニューに、[コントロールパネル]の[言語]ツールを開くオプションが表示されます |
| root/keyboard/SystrayMenu/virtualKeyboard | 1 に設定すると、キーボードシステムトレイアイコンを右クリックして表示されるメニューに、仮想キーボードを開くオプションが表示されます |
| root/keyboard/VisibleInSystray | 1 に設定すると、キーボードシステムトレイアイコンが表示され、現在のキーボードレイアウトが表示されます |
| root/keyboard/XkbLayout | これは、XKB キーボードレイアウトにマッピングするために使用される内部キーです。このキーは変更しないでください |
| root/keyboard/XkbModel | これは、XKB キーボードモデルにマッピングするために使用される内部キーです。このキーは変更しないでください |
| root/keyboard/XkbOptions | これは、XKB キーボードオプションにマッピングするために使用される内部キーです。このキーは変更しないでください |
| root/keyboard/XkbVariant | これは、XKB キーボード種別にマッピングするために使用される内部キーです。このキーは変更しないでください |

| レジストリキー | 説明 |
|------------------------|---|
| root/keyboard/enable2 | 1 に設定すると、セカンダリキーボードのレイアウトを、switch で定義されたキーボードショートカットで切り替えられるようになります |
| root/keyboard/layout | プライマリキーボードのレイアウトを設定します |
| root/keyboard/layout2 | セカンダリキーボードのレイアウトを設定します |
| root/keyboard/model | プライマリキーボードのモデルを設定します |
| root/keyboard/model2 | セカンダリキーボードのモデルを設定します |
| root/keyboard/numlock | 1 に設定すると、Num Lock 機能がシステム起動時に有効になります。Mobile Thin Client では、このレジストリキーは意図的に無視されます |
| root/keyboard/rdp_kb | これは、RDP キーボードマップにマッピングするために使用される内部キーです。このキーは変更しないでください |
| root/keyboard/switch | 1 つ目と 2 つ目のキーボードレイアウトを切り替えるためのキーボードショートカットを設定します (enable2 を 1 に設定する必要もあります)。有効な値は次のとおりです : grp:ctrl_shift_toggle、grp:ctrl_alt_toggle、grp:alt_shift_toggle |
| root/keyboard/variant | プライマリキーボードの種別を設定します |
| root/keyboard/variant2 | セカンダリキーボードの種別を設定します |

logging

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/logging/general/debug | 1 に設定すると、デバッグをサポートしているすべてのサブシステムでデバッグ機能が有効になります。これは通常、generateDiagnostic.sh またはシステム情報の[診断ツール]とともに使用されて、システムデバッグログを含む診断バンドルを生成します |
| root/logging/general/debugLevel | デバッグレベルを設定します。この値は、対応するログを生成するために他のモジュールによって利用されます |
| root/logging/general/showDebugLevelBox | 1 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[システムログ]タブの[デバッグレベル]オプションをエンドユーザーが使用できるようになります。0 に設定すると、このオプションを使用できるのは管理者のみになります |

login

| レジストリキー | 説明 |
|---|--------------------------------|
| root/login/buttons/configure/authorized | 1 に設定すると、ログイン画面で[構成]ボタンを使用できます |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/login/buttons/info/authorized | 1に設定すると、ログイン画面で[システム情報]ボタンを使用できます |
| root/login/keyboard/authorized | 1に設定すると、ログイン画面でキーボードレイアウトの設定を行えます |
| root/login/locale/authorized | 1に設定すると、ログイン画面で言語の設定を行えます |
| root/login/mouse/authorized | 1に設定すると、ログイン画面でマウスの設定を行えます |
| root/login/onscreenKeyboard/authorized | 1に設定すると、ログイン画面でスクリーンキーボードを使用できます |
| root/login/power/authorized | 1に設定すると、ログイン画面で電源ボタンを使用できます |
| root/login/poweroff/authorized | 1に設定すると、ログイン画面でシャットダウン機能を使用できます |
| root/login/reboot/authorized | 1に設定すると、ログイン画面で再起動機能を使用できます |
| root/login/show/authorized | 1に設定すると、ログイン画面で、追加オプションを含むボタンドロアーを使用できます |
| root/login/sleep/authorized | 1に設定すると、ログイン画面でスリープ機能を使用できます |
| root/login/touchscreen/authorized | 1に設定すると、ログイン画面でタッチスクリーンの設定を行えます。レジストリキー root/touchscreen/enabled も有効にする必要があります |

mouse

| レジストリキー | 説明 |
|---------------------------------------|---|
| root/mouse/MouseHandedness | 0に設定すると、マウスが右きき用になります。1に設定すると、マウスが左きき用になります |
| root/mouse/MouseSpeed | マウスポインターの加速度を設定します。通常、設定可能な値は0~25です。値を0にすると加速機能が完全に無効になるため、マウスは常にゆっくりと移動しますが、動きを確認できるペースになります |
| root/mouse/MouseThreshold | マウスの加速機能が有効になるまでのピクセル数を設定します。値を0にすると、加速機能が自然なペースに設定され、徐々に加速がつくようになるため、正確ですばやい移動が可能になります |
| root/mouse/disableTrackpadWhileTyping | 1に設定すると、入力中、トラックパッドが一時的に無効になります。0に設定すると、入力中、トラックパッドは一時的に無効になりません |
| root/mouse/enableTrackpad | 1に設定すると、トラックパッドが有効になります。0に設定すると、トラックパッドが無効になります |

restore-points

| レジストリキー | 説明 |
|-----------------------------|----------------------------------|
| root/restore-points/factory | 工場出荷時設定へのリセットに使用するスナップショットを指定します |

screensaver

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/screensaver/SlideShowAllMonitors | 1 に設定すると、スクリーンセーバーのスライドショーがすべてのモニター上に表示されます。0 に設定すると、スライドショーがプライマリモニターのみに表示されます |
| root/screensaver/SlideShowInterval | スクリーンセーバーのスライドショーで画像を切り替える間隔を秒単位で設定します |
| root/screensaver/SlideShowPath | スクリーンセーバーのスライドショー用の画像が含まれているディレクトリを指定します |
| root/screensaver/buttons/configure/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときに[構成]ボタンを使用できます |
| root/screensaver/buttons/info/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときに[システム情報]ボタンを使用できます |
| root/screensaver/buttons/keyboard/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときにキーボードレイアウトの設定を行えます |
| root/screensaver/buttons/locale/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときに言語の設定を行えます |
| root/screensaver/buttons/mouse/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときにマウスの設定を行えます |
| root/screensaver/buttons/onscreenKeyboard/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときにオンスクリーンキーボードを使用できます |
| root/screensaver/buttons/power/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときに電源ボタンを使用できます |
| root/screensaver/buttons/poweroff/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときにシャットダウン機能を使用できます |
| root/screensaver/buttons/reboot/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときに再起動機能を使用できます |
| root/screensaver/buttons/show/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときに、追加オプションを含むボタン ドロアーを使用できます |
| root/screensaver/buttons/sleep/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときにスリープ機能を使用できます |
| root/screensaver/buttons/touchscreen/authorized | 1 に設定すると、画面がロックされているときにタッチスクリーンの設定を行えます。レジストリキー root/touchscreen/enabled も有効にする必要があります |

| レジストリ キー | 説明 |
|-------------------------------------|---|
| root/screensaver/enableCustomLogo | 1 に設定すると、logoPath で定義されたカスタム画像がスクリーンセーバーに使用されます |
| root/screensaver/enableDPMS | 0 に設定すると、モニターの電源管理が無効になります。これにより、モニターの電源は手動でオフにするまで常にオンの状態になります |
| root/screensaver/enableScreensaver | 1 に設定すると、スクリーンセーバーが有効になります |
| root/screensaver/enableSleep | 1 に設定すると、スリープが有効になります |
| root/screensaver/lockScreen | 1 に設定すると、スクリーンセーバーからデスクトップに戻るときにパスワードが必要になります |
| root/screensaver/logoPath | スクリーンセーバーに使用するカスタム画像へのパスを設定します |
| root/screensaver/mode | スクリーンセーバー画像用のレンダリングモードを設定します (Center、Tile、Stretch など)。Default に設定すると、何も処理しないで画像を表示します。SlideShow に設定すると、SlideShowPath で指定されたディレクトリ内の画像がスクリーンセーバーで順番に表示されます |
| root/screensaver/off | モニターの電源を切るまでのタイムアウト遅延 (分) を設定します |
| root/screensaver/origImageCopyPath | これは、mode が Default に設定されているときにカスタム画像が保存される場所へのパスです |
| root/screensaver/standby | モニターがスタンバイモードになるまでのタイムアウト遅延 (分) を設定します |
| root/screensaver/suspend | モニターがサスペンドモードになるまでのタイムアウト遅延 (分) を設定します |
| root/screensaver/timeoutScreensaver | スクリーンセーバーが起動するまでのタイムアウト遅延 (分) を設定します |
| root/screensaver/timeoutSleep | Thin Client がスリープモードになるまでのタイムアウト遅延 (分) を設定します |

security

| レジストリ キー | 説明 |
|---------------------------------------|---|
| root/security/authenticationFailDelay | ログイン失敗後のおおよその遅延時間をミリ秒単位で設定します。実際の時間は、この値のプラス/マイナス 25% の範囲で異なります。たとえば、3000 の値を使用すると、おおよそ 3 秒の遅延が取得されます |
| root/security/domainEntryMode | 1 に設定すると、【ドメイン】というラベルの付いた別のテキストフィールドにドメインを入力するように求められます。0 に設定すると、【ユーザー】フィールドの一部としてドメインを入力するように求められます |
| root/security/enableLockOverride | 1 に設定すると、管理者はローカルデスクトップの画面ロックを上書きできます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/security/enableSecretPeek | 1 に設定すると、パスワードおよび PIN のダイアログにボタンが表示され、そのボタンを選択すると、入力したパスワード/PIN が通常のテキストとして表示されます |
| root/security/encryption/identity/encryptedSecretCipher | シークレットの対称暗号化のアルゴリズムを設定します。すべてのアルゴリズムで、適正量のランダムソルトを使用します。ランダムソルトは、シークレットを保存するたびに再生成されます。暗号化キーは Thin Client ごとに異なり、暗号化および暗号化の解除を利用できるのは権限のあるプログラムだけです。サポートされる暗号の一覧には、ほとんどの OpenSSL 暗号および ChaCha20 - Poly1305 が含まれます |
| root/security/encryption/identity/encryptedSecretTTL | 暗号化して保存されたシークレットが有効とみなされる、最後の正常なログインからの秒数を設定します。負の数に設定すると、暗号化されたシークレットはタイムアウトになりません |
| root/security/encryption/identity/secretHashAlgorithm | シークレットのハッシュを作成するアルゴリズムを設定します。scrypt や argon2 などのキー派生関数 (KDF) は、単純なハッシュより優れています。KDF を使用したレインボーテーブルをすばやく計算することはできないからです。すべてのアルゴリズムで、適正量のランダムソルトを使用します。ランダムソルトは、シークレットをハッシュするたびに再生成されます。サポートされるアルゴリズムには、scrypt、Argon2、SHA-256、および SHA-512 が含まれます (最後の 2 つは KDF ではありません) |
| root/security/encryption/identity/secretHashTTL | 保存されたシークレットのハッシュが有効とみなされる、最後の正常なログインからの秒数を設定します。負の数に設定すると、シークレットのハッシュはタイムアウトになりません |
| root/security/mustLogin | 1 に設定すると、すべてのユーザーが、デスクトップにアクセスする前にログインを強制されます |

shutdown

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/shutdown/enableAutomaticShutdownTimeout | 1 に設定すると、シャットダウン/再起動/ログアウト確認のダイアログボックスに進捗状況バーが表示されます。時間内に質問に対する答えがない場合は、自動的にシャットダウン/再起動/ログアウトが行われます |
| root/shutdown/timeOfAutomaticShutdownTimeout | 自動シャットダウンのタイムアウトの待機時間を設定します |

sshd

| レジストリキー | 説明 |
|-----------------------------|---|
| root/sshd/disableWeakCipher | 1 に設定すると、CBC モード暗号や、3DES、arcfour などのその他の既知の弱い暗号が無効になります |

| レジストリキー | 説明 |
|---------------------------|---|
| root/sshd/disableWeakHmac | 1に設定すると、96ビットのHMACや、SHA1ベースおよびMD5ベースのHMACが無効になります |
| root/sshd/disableWeakKex | 1に設定すると、DHとSHA1を組み合わせで使用されるキー交換アルゴリズムが無効になります |
| root/sshd/enabled | 1に設定すると、SSHデーモンが有効になり、Thin ClientにSSH経由でアクセスできます |
| root/sshd/userAccess | 1に設定すると、エンドユーザーがSSHを使用してThin Clientに接続できます |

time

| レジストリキー | 説明 |
|-------------------------------|---|
| root/time/NTPServers | 使用するNTPサーバーをコンマ区切りリストで指定します。サーバーの負荷を最小限に抑えるには、プライベートのNTPサーバーまたはpool.ntp.orgなど大規模な仮想NTPクラスターを選択するのが最適です。この値を消去すると、固定されたリストではなくDHCPサーバー（タグ42）を使用する設定に戻ります |
| root/time/dateFormatLong | さまざまなHP ThinProツールで使用される長い日付形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、QDate::toStringと入力してWeb検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます |
| root/time/dateFormatShort | さまざまなHP ThinProツールで使用される短い日付形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、QDate::toStringと入力してWeb検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます |
| root/time/dateTimeFormatLong | さまざまなHP ThinProツールで使用される、日付および時刻の長い形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、QDate::toStringと入力してWeb検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます |
| root/time/dateTimeFormatShort | さまざまなHP ThinProツールで使用される、日付および時刻の短い形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、QDate::toStringと入力してWeb検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます |
| root/time/hideCountries | タイムゾーン選択GUIで非表示にしたい国のセミコロンの一覧です |
| root/time/hideWinZones | タイムゾーン選択GUIで非表示にしたい、Windows形式のタイムゾーン（例：「(UTC+2:00) トリポリ」）のセミコロンの一覧です |
| root/time/hideZones | タイムゾーン選択GUIで非表示にしたい、Linux形式のタイムゾーン（例：「アメリカ/デンバー」）のセミコロンの一覧です |

| レジストリキー | 説明 |
|------------------------------|---|
| root/time/timeFormatLong | さまざまな HP ThinPro ツールで使用される長い時刻形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、 <code>QDate::toString</code> と入力して Web 検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます |
| root/time/timeFormatShort | さまざまな HP ThinPro ツールで使用される短い時刻形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、 <code>QDate::toString</code> と入力して Web 検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます |
| root/time/timezone | タイムゾーンを設定します。タイムゾーンは、[コントロールパネル]の[日付と時刻]ツールの[Linux タイムゾーン]で定義されているとおりに指定し、次の形式にする必要があります： <地域>/<準地域> |
| root/time/use24HourFormat | -1 に設定すると、ロケールに従ってシステムが自動的に形式を選択します。0 に設定すると、午前/午後形式が使用されます。1 に設定すると、24 時間形式が使用されます |
| root/time/useADNSTimeServers | 1 に設定すると、ローカルネットワークで自動検出された Active Directory ドメインコントローラー経由で、Thin Client がタイムゾーンを設定しようとします。これは、SRV レコードに対する次の DNS クエリによって行われます： <code>_ldap._tcp.dc._msdcs.domain</code> |
| root/time/useDHCPTimezone | 1 に設定すると、Thin Client が DHCP 経由でタイムゾーンを設定しようとします。このレジストリキーを使用してタイムゾーンを正しく設定するには、Thin Client の DHCP サーバーが <code>tcode</code> DHCP タグ (通常はタグ 101 ですが、100 および 2 も利用可能) を転送していることを確認してください |
| root/time/useNTPServers | 1 に設定すると、NTP タイムサーバーによる Thin Client の時計の同期が有効になります。これが有効になっている場合は、NTP サーバーが DHCP または <code>NTPServers</code> で指定されていることを確認してください |

touchscreen

| レジストリキー | 説明 |
|-----------------------------|--|
| root/touchscreen/beep | タッチスクリーンを使用したときに Thin Client のビープ音が鳴るかどうかを定義します |
| root/touchscreen/calibrated | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/touchscreen/enabled | 1 に設定すると、タッチ入力が有効になります |
| root/touchscreen/maxx | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |

| レジストリ キー | 説明 |
|------------------------|---|
| root/touchscreen/maxy | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/touchscreen/minx | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/touchscreen/miny | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/touchscreen/port | タッチ スクリーンに接続されているコネクタを指定します |
| root/touchscreen/swapx | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/touchscreen/swapy | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/touchscreen/type | タッチ スクリーン用のコントローラーの種類を指定します |

translation

| レジストリ キー | 説明 |
|--|---|
| root/translation/coreSettings/localeMapping/<LanguageCode> | これらは、言語セクターで該当の言語の横にテキスト文字列を表示するために使用される内部キーです。これらのキーは変更しないでください |
| root/translation/coreSettings/localeSettings | Thin Client のロケールを設定します。このロケールは、リモート接続にも転送されます。有効なロケールは、en_US (英語)、de_DE (ドイツ語)、es_ES (スペイン語)、fr_FR (フランス語)、ru_RU (ロシア語)、ja_JP (日本語)、ko_KR (韓国語)、zh_CN (簡体字中国語)、zh_TW (繁体字中国語) です |
| root/translation/gui/LocaleManager/name | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/translation/gui/LocaleManager/status | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/translation/gui/LocaleManager/title | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/translation/gui/LocaleManager/widgets/localeSettings | [言語] ツールでの [locale setting] (ロケール設定) ツールの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

usb-update

| レジストリキー | 説明 |
|--------------------------------|---|
| root/usb-update/authentication | 1 に設定すると、USB のアップデートを実行するために管理者パスワードが必要になります |
| root/usb-update/enable | 1 に設定すると、USB アップデートの自動検出が有効になります |
| root/usb-update/height | [USB のアップデート]ウィンドウの高さ (ピクセル) を設定します |
| root/usb-update/searchMaxDepth | 更新がないか検索されるサブディレクトリの深さを設定します。検索の深さを大きく設定すると、数千ものディレクトリが含まれる USB フラッシュドライブで遅延が発生する可能性があります |
| root/usb-update/width | [USB のアップデート]ウィンドウの幅 (ピクセル) です |

users

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/users/gui/hptc-user-rights/name | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/users/gui/hptc-user-rights/status | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/users/gui/hptc-user-rights/title | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/users/root/enablePassword | 有効にすると、ローカルの root 管理者アカウントへのログインが有効になります。無効にすると、Active Directory 管理者だけが Thin Client を管理者モードに変更できます |
| root/users/root/password | 管理者パスワードを設定します。空白にすると、管理者モードはロックされます |
| root/users/root/timeout | 管理者モードが終了するまでのアイドルタイムアウト (分) を指定します。0 またはマイナスに設定すると、管理者モードは自動的に終了しません |
| root/users/user/SSO | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/users/user/WOL | 1 に設定すると、ウェイク オン LAN (WOL) が有効になります |
| root/users/user/XHostCheck | 1 に設定すると、root/users/user/xhosts に一覧表示されているシステムのみが Thin Client をリモートで制御できます |
| root/users/user/apps/hptc-ad-dns-mgr/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[AD/DDNS マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります |

| レジストリキー | 説明 |
|--|---|
| root/users/user/apps/hptc-agent-mgr/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[HPDM Agent]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-auto-update/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[自動更新]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-background-mgr/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[デスクトップの背景]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-cert-mgr/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[証明書マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-clientaggregation-mgr/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[クライアントアグリゲーション]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-date-mgr/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[日付と時刻]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-dhcp-mgr/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[DHCP オプションマネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-display-prefs/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[ディスプレイの設定]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-easy-update/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[HP Easy Update]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-energy-star/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[国際エネルギースタープログラム]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-il8n-mgr/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[言語]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-keyboard-layout/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[キーボードレイアウト]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-mixer/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[サウンド]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-mouse/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[マウス]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-network-mgr/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[ネットワークマネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-power-mgr/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[電源管理]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-printer-mgr/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[プリンター]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-restore/authorized | 1に設定すると、[コントロールパネル]項目の[スナップショット]をエンドユーザーが利用できるようになります |

| レジストリキー | 説明 |
|---|---|
| root/users/user/apps/hptc-screenlock/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[電源管理]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-security/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[セキュリティ]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-shortcut-mgr/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[キーボードショートカットマネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-sshd-mgr/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[SSHD マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-task-mgr/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[タスクマネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-text-editor/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[テキストエディター]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-thinstate/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[HP ThinState]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-touchscreen/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[タッチスクリーン]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-usb-mgr/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[USB マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-user-rights/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[ThinPro の構成 (カスタマイズセンター)]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-vncshadow/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[VNC シャドウイング]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/apps/hptc-xterm/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[X ターミナル]をエンドユーザーが利用できるようになります 注意： X ターミナルへのアクセスを有効にすることにはセキュリティ上のリスクがあるため、運用環境ではおおすすめしません。X ターミナルは、保護された非運用環境をデバッグするために使用する場合にのみ有効にしてください |
| root/users/user/apps/scim-setup/authorized | 1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[SCIM 入力メソッドの設定]をエンドユーザーが利用できるようになります |
| root/users/user/enablePassword | 有効にすると、ローカルの共有アカウント user へのログインが有効になります |
| root/users/user/hideDesktopPanel | 1 に設定すると、タスクバーなどのデスクトップパネルが起動されないか、デスクトップに表示されなくなります |

| レジストリ キー | 説明 |
|---|--|
| root/users/user/kioskMode | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/users/user/launchConnectionManager | 1 に設定すると、システム起動時に接続マネージャーが有効になります |
| root/users/user/rightclick | 1 に設定すると、デスクトップの右クリックメニューが有効になります |
| root/users/user/ssoclienttype | このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/users/user/switchAdmin | 1 に設定すると、管理者モードへの切り替えが有効になります |
| root/users/user/xhosts/<UUID>/xhost | XHostCheck が有効になっているときに Thin Client をリモートで制御できるようにするシステムの IP アドレスまたはホスト名を指定します |

vncserver

| レジストリ キー | 説明 |
|---|---|
| root/vncserver/coreSettings/enableVncShadow | 1 に設定すると、Thin Client の VNC シャドウイングサーバーが有効になります |
| root/vncserver/coreSettings/userNotificationMessage | 誰かが VNC を使用して Thin Client に接続しようとしたときにユーザーに表示される通知メッセージを設定します |
| root/vncserver/coreSettings/vncAllowLoopbackOnly | 1 に設定すると、ローカルホストまたはループバックのアドレスだけが VNC 接続で許可されます |
| root/vncserver/coreSettings/vncDefaultNumLockStatus | 1 に設定すると、Num Lock が初期設定でオンになります。0 に設定すると、Num Lock が初期設定でオフになります |
| root/vncserver/coreSettings/vncNotifyShowTimeout | 1 に設定すると、誰かが VNC を使用して Thin Client に接続しようとしたときにユーザーに表示される通知ダイアログに、タイムアウトが適用されます |
| root/vncserver/coreSettings/vncNotifyTimeout | 誰かが VNC を使用して Thin Client に接続しようとしたときにユーザーに表示される通知ダイアログのタイムアウト（秒）を設定します |
| root/vncserver/coreSettings/vncNotifyUser | 1 に設定すると、誰かが VNC を使用して Thin Client に接続しようとしたときに、ユーザーに通知が表示されます |
| root/vncserver/coreSettings/vncPassword | VNC シャドウイングのパスワードを設定します。キー vncUsePassword も有効にする必要があります |
| root/vncserver/coreSettings/vncReadOnly | 1 に設定すると、VNC シャドウイングが表示専用モードで動作するようになります |
| root/vncserver/coreSettings/vncRefuseInDefault | 1 に設定すると、通知ダイアログが表示されてからタイムアウトになるまでユーザーが操作を行わなかった場合に、VNC 要求が自動的に拒否されます |

| レジストリキー | 説明 |
|---|--|
| root/vncserver/coreSettings/ vncStopButton | 1 に設定すると、ボタンが画面の左上隅に表示されます。このボタンは、常に最前面に表示されます。ボタンを選択すると、VNC セッションの接続が切断されず |
| root/vncserver/coreSettings/ vncTakeEffectRightNow | 1 に設定すると、VNC 設定が変更後すぐに適用されます |
| root/vncserver/coreSettings/ vncUsePassword | 1 に設定すると、vncPassword で指定されたパスワードが VNC シャドウイングで必要になります |
| root/vncserver/coreSettings/vncUseSSL | 1 に設定すると、VNC 接続に SSL が使用されます |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/name | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/ status | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/ title | このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/ widgets/enableVncShadow | [VNC シャドウイング]ツールでの[VNC シャドウを有効にする]ウィジェットの状態を制御します。 active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/ widgets/userNotificationMessage | [VNC シャドウイング]ツールでの[ユーザーへの通知メッセージ]ウィジェットの状態を制御します。 active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/vncserver/gui/vncAllowLoopbackOnly | [VNC シャドウイング]ユーティリティでの[ループバック接続のみを許可する]ウィジェットの状態を制御します。 active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/ widgets/vncNotifyShowTimeout | [VNC シャドウイング]ツールでの[VNC で通知のタイムアウトを表示する]ウィジェットの状態を制御します。 active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリ キー | 説明 |
|---|--|
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncNotifyTimeout | [VNC シャドウイング]ツールでの数値ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncNotifyUser | [VNC シャドウイング]ツールでの [VNC で許可/拒否をユーザーに通知する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncPassword | [VNC シャドウイング]ツールでの [パスワードの設定] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncReadOnly | [VNC シャドウイング]ツールでの [VNC 読み取り専用] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncRefuseInDefault | [VNC シャドウイング]ツールでの [デフォルトで接続を拒否する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/vncserver/gui/vncStopButton | [VNC シャドウイング]ユーティリティでの [VNC のシャドウの停止ボタン] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncTakeEffectRightNow | [VNC シャドウイング]ツールでの [VNC サーバーを今すぐ再設定する] ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットがUIに表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

| レジストリキー | 説明 |
|--|--|
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncUsePassword | [VNC シャドウイング]ツールでの[VNC でパスワードを使用する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |
| root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncUseSSL | [VNC シャドウイング]ツールでの[VNC で SSL を使用する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます |

索引

- A**
Active Directory 57
- C**
Citrix
 HP True Graphics 39
 設定、接続ごと 13
 設定、全般 10
Custom 接続 38
- D**
DHCP オプション 65
- G**
GUI
 概要 4
 接続マネージャー (HP ThinPro
 のみ) 6
 タスクバー 5
 デスクトップ 4
- H**
HP Device Manager → 「HPDM Agent」
を参照
 「リモート管理サービス」も参照
HPDM Agent 57
HP Smart Client Services
 Profile Editor → 「Profile Editor」
 を参照
 インストール 68
 概要 68
 サポートされるオペレーティン
 グシステム 68
 「リモート管理サービス」も参照
HP Smart Zero → 「OS 構成」を参照
HP TeemTalk → 「TeemTalk」を参照
HP ThinPro → 「OS 構成」を参照
HP True Graphics 39
HP Velocity 54
- M**
MMR → 「マルチメディア リダイレ
クト」を参照
- O**
OS 構成、選択 1
- P**
Profile Editor 73
- R**
RDP
 RemoteFX 20
 USB リダイレクト 21
 オーディオリダイレクト 23
 スマートカードのリダイレク
 ト 24
 設定、接続ごと 15
 設定、全般 15
 大容量記憶装置のリダイレク
 ト 22
 デバイスリダイレクト 21
 プリンターリダイレクト 23
 マルチメディア リダイレク
 ト 21
 マルチモニター セッション
 20
RemoteFX 20
- S**
SCEP マネージャー 64, 65
SCIM 44
Snipping Tool 64
SSH 36
SSHD マネージャー 57
- T**
TeemTalk 34
Telnet 37
Thin Client
 更新 → 「Thin Client の更新」を
 参照
Thin Client の更新
 DHCP タグ更新 70
 DNS エイリアス更新 71
 手動更新 71
 ブロードキャスト更新 70
- ThinState → 「HP ThinState」を参照
- U**
USB リダイレクト
 RDP 21
 USB マネージャー 49
 VMware Horizon View 29
- V**
VMware Horizon View
 USB リダイレクト 29
 Web カメラリダイレクト 31
 オーディオリダイレクト 29
 キーボードショートカット
 28
 証明書 31
 スマートカードのリダイレク
 ト 30
 設定、接続ごと 24
 大容量記憶装置のリダイレク
 ト 29
 デバイスリダイレクト 29
 プリンターリダイレクト 29
 プロトコルの変更 31
 マルチメディア リダイレク
 ト 29
 マルチモニター セッション
 28
VNC シャドウイング 63
- W**
Web Browser
 設定、接続ごと 33
 設定、全般 33
Web カメラ リダイレクト
 VMware Horizon View 31
Web サイト
 Citrix のサポート 1
 HP のサポート 1
 Microsoft のサポート 1
 VMware のサポート 1

X

XDMCP 36
Xターミナル 64

あ

アドオン 1

い

イメージの更新 1
イメージング → 「HP ThinState」を参照

お

オーディオリダイレクト
RDP 23
VMware Horizon View 29

か

ガイド以外の情報の参照先 1
概要 1
管理者モード 3

き

キーボードショートカット 64
キオスクモード 8

く

クライアントアグリゲーション
45
クライアントの設定 46
サーバーの設定 47
クライアントプロファイル
カスタマイズ 73
証明書 74
シンボリックリンクの追加
75
ファイルの追加 74
保存 76
読み込み 73
レジストリ設定 74

け

言語設定 49

こ

[コントロールパネル]
DHCP オプション マネージャー 65
SCEP マネージャー 64
SCIM 入力メソッドの設定 44

SSHD マネージャー 57

ThinState → 「HP ThinState」を参照

VNC シャドウイング 63

Xターミナル 64

カスタマイズセンター 49

キーボードショートカット
64

クライアントアグリゲーション
45

言語 49

サウンド 44

シリアル マネージャー 64

スナップショット 57

セキュリティ 49

タスク マネージャー 64

タッチスクリーン 44

ディスプレイの設定 47

テキストエディター 64

デスクトップの背景 49

ネットワーク 50

日付と時刻 49

マウス 44

ユーティリティ、非表示 49

コントロールパネル

Active Directory 57

Snipping Tool 64

概要 44

コンポーネント マネージャー 57

出荷時設定にリセット 57

電源管理 49

無線統計 57

コンポーネント マネージャー 57

さ

サウンド設定 44

し

システム診断 79

出荷時設定にリセット 57

証明書

VMware Horizon View 31

インストール 64

証明書 マネージャー 64

シリアルプリンターの設定 76

シリアル マネージャー 64

す

スクリーンセーバー設定 49

スナップショット 57

スマートカードのリダイレクト
RDP 24

VMware Horizon View 30

スリープモード 49

せ

セキュリティ設定 49

接続

詳細設定 7

設定 7

非表示 49

た

大容量記憶装置のリダイレクト
RDP 22

VMware Horizon View 29

タスク マネージャー 64

タッチスクリーン設定 44

て

ディスプレイの設定 47

ディスプレイプロファイル 47

テキストエディター 64

デスクトップの背景 49

デバイスリダイレクト

RDP 21

VMware Horizon View 29

電源管理 49

電源管理設定 49

と

トラブルシューティング 78

システム診断の使用 79

ネットワーク接続 78

ね

ネットワーク設定

DNS 53

HP Velocity 54

IPSec 53

VPN 54

アクセス 50

無線 51

有線 50

は

パスワード

変更 49

パラレル プリンターの設定 76

ひ

日付と時刻の設定 49

ふ

プリンター 48

プリンターの設定 76

プリンター リダイレクト

RDP 23

VMware Horizon View 29

ま

マウス設定 44

マルチメディア リダイレクト

RDP 21

VMware Horizon View 29

む

無線統計 57

ゆ

ユーザー モード 3

り

リモート管理サービス、選択 3

れ

レジストリ キー 84